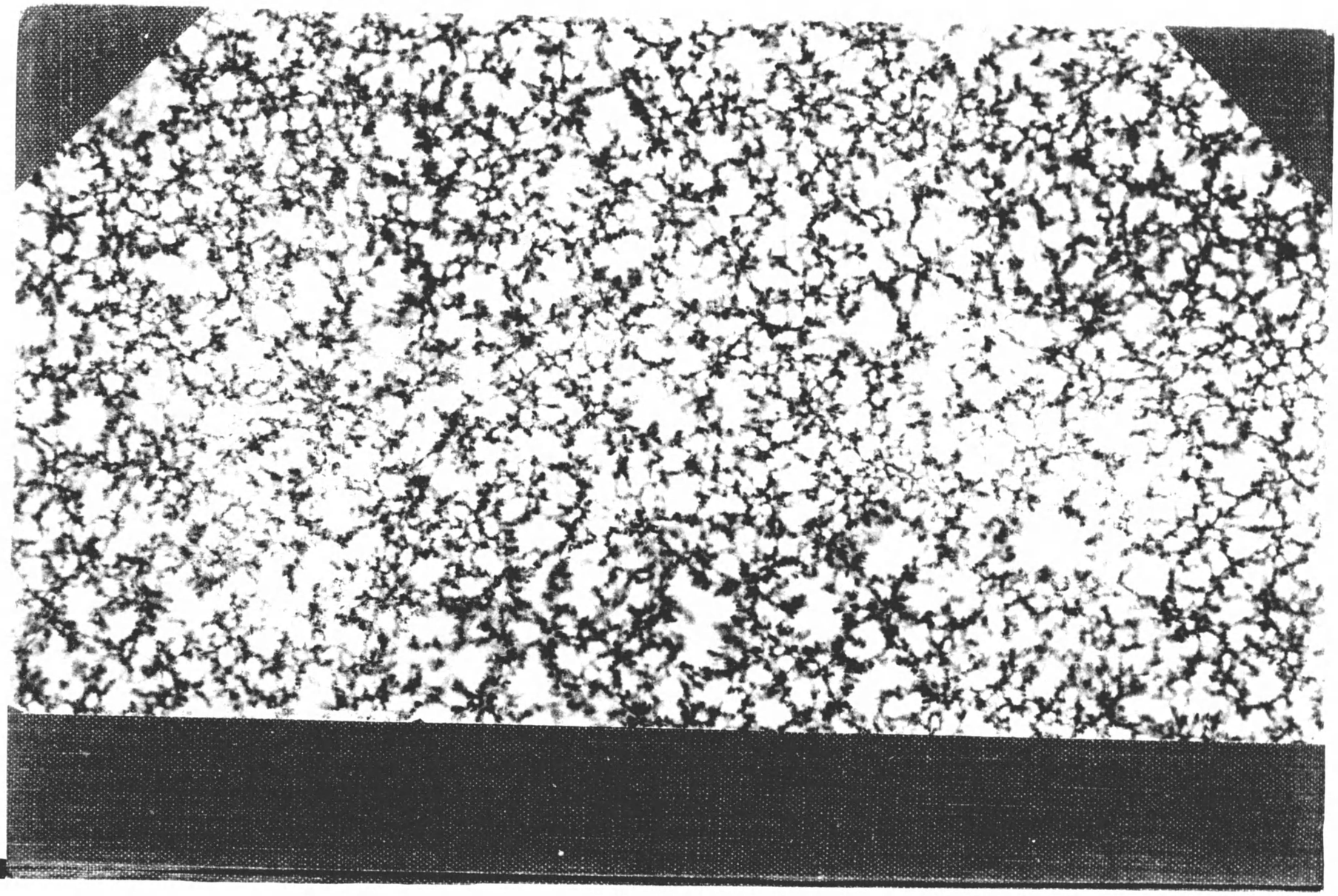

326.098H716d(2)

大審院藏版

大審院刑事判例集 第十四卷

法曹會發行

CZ
2711
8

国立国会
27.11.25
図書館

282371

○印紙税法違反被告事件（昭和十年（れ）第四六八號 同年七月十三日第三刑事部判決 棄却）

【上告人】被告人 瀧川笹市 辯護人 木島次郎

【第一審】三次區裁判所 【第二審】廣島地方裁判所

○判示事項

入札保證金還付ノ受取書ト印紙税法——縣出納吏ニ差入レタル入札保證金還付ノ受取書ト明治二十三年法律第一號保管金規則

○判決要旨

一 土木請負業者カ河川堤防修繕工事請負契約締結ノ爲官公署ニ差入レタル入札保證金ノ還付ヲ受クルニ當リ作成交付スル受取書ハ營業ニ關スルモノニシテ印紙税法ニ依リ印紙ノ貼用ヲ要スル

入札保證金還付ノ受取書ト印紙税法 縣出納吏ニ差入レタル入札保證金還付ノ受取書ト明治二十三年法律第一號保管金規則

モノトス【要旨第一】

二土木請負業者カ河川堤防修繕工事請負契約締結ノ爲縣出納吏ニ差入レタル入札保證金ノ受渡ニ關スル證書ニ付テハ明治二十三年法律第一號保管金規則第四條ノ適用ナキモノトス【要旨第二】

【參照】印紙稅法第一條　財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

同法第四條第一項　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

（中略）

二十九　受取書　三錢

同法第五條第一項　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

（中略）

十四　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書

同法第十一條　證書帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書帳簿一個每ニ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス

明治二十三年法律第一號保管金規則第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料三圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ土木ノ請負ヲ業トスル者ナルトコロ昭和九年六月二十日廣島縣三次土木出張所ニ於テ河川堤防修繕工事請負契約入札ノ爲入札人トシテ同出張所長縣出納吏埰耕次郎ニ對シ納付シタル入札保證金二十圓ヲ同日同所ニ於テ同人ヨリ還付ヲ受クル際其ノ旨ノ受取書一通（證第一號）ヲ作成交付シナカラ之ニ所定ノ印紙稅ヲ納付セサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ印紙稅法第四條第一項第二十九號第十一條ニ該當スルヲ以テ被告人ヲ科料三圓ニ處スヘク右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人木島次朗上告趣意書第一點ハ原判決カ上告人ノ本件所爲カ印紙稅法第四條第十一條ニ違背スルモノナリト認定シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノナリ上告人カ廣島縣土木出張所ニ對シ納入シタル入札保證金ノ還付ヲ受クルニ當リ差出シタル領收書ハ營業ニ關スルモノト云フヲ得ス入札者カ入札

保證金ヲ納入スルハ營業トシテ工事ノ請負ヲナサンカ爲其ノ競爭入札ヲ爲サンカ爲ニハ一定ノ資格ヲ必要トシ其ノ資格發生ノ一條件トシテ定メラレタル金額ヲ提供シテ入札資格ヲ得ンカ爲ニ外ナラス之ニヨリテ營業行爲トシテノ工事請負ノ入札ヲ爲シ得ルモノナリ入札保證金ハ納入者自ラ之ヲ封筒ニ入レ金額ヲ表記シ且ツ之ヲ嚴封シテ納付書ト共ニ差出シ而テ入札ノ結果自己ニ工事落札セサルトキハ嚴封シタル儘返還ヲ受クルモノニシテ從テ納入金ハ縣ノ會計ニ組入レラルルモノニアラス其ノ所有權ハ依然トシテ納付者ニ存在シ納付者ハ所有權ニ基キ當然還付ヲ受ケ得ルモノナリ之ニ反シ若シ入札ノ結果工事落札ニ至リタル場合ハ縣ト工事請負契約ヲ結ヒ其ノ契約保證金ヲ納入スルモノニシテ此ノ保證金ハ完全ニ縣カ其ノ所有權ヲ取得シ縣ノ會計ニ組入レラルルモノナリ從テ工事終了後契約保證金ノ還付ヲ受クルハ明ニ營業ニ關スルモノナレハ其ノ領收證ニハ印紙稅法所定ノ印紙ヲ貼用セサル可カラサルモノナルコト異論ナシト雖入札資格獲得ノ爲ニ所有權ヲ移轉セスシテ相手方ニ提供シ置キ不用トナリタル際其ノ儘還付ヲ受クル行爲ハ未タ營業ニ關スル行爲ナリト謂フ可カラス從テ此ノ場合發行セラレタル領收證ニハ印紙ノ貼用ヲ要セサルニカカワラス原判決カ之ヲ營業ニ關スル行爲ナリト認定シタルハ明ニ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ當然破毀ヲ免レサルモノナリトスト云フニ在リ

然レトモ土木請負業者カ工事ノ請負ヲ爲サントシ其ノ競爭入札ニ加入スル爲注文者タル官廳ニ一定ノ金額タル所謂入札保證金ヲ納付スル行爲ハ土木請負業ソノモノニ非スト雖畢竟該業務ヲ遂行スル爲ノ

【要旨第一】

必要ナル行爲ニ係リ官廳トノ間ニ右保證金ニ付寄託契約成立スルモノニシテ之カ還付ヲ受クルハ該契約ノ終了ニ基因シ其ノ營業ニ關スルモノナルコト疑ヲ容レス而シテ所論ノ如ク入札保證金ハ納入者自ラ之ヲ封筒ニ入レ金額ヲ表記シ且之ヲ嚴封シテ納付書ト共ニ差出シ而シテ入札ノ結果自己ニ工事落札セサルトキハ嚴封シタル儘返還ヲ受クルモノナリトスルモ這ハ其ノ法律關係カ單ニ消費寄託ニ關スルモノニ非サルニ止マリ之ヲ以テ保證金還付行爲ハ土木請負業者ノ營業ニ關スルモノニ非スト謂フヲ得ス然ラハ本件ニ於テ原審カ被告人ハ土木請負業者ニシテ昭和九年六月二十日廣島縣三次土木出張所ニ於テ河川堤防修繕工事請負契約入札ノ爲入札人トシテ同出張所長縣出納吏岸耕次郎ニ對シ納付シタル入札保證金二十圓ヲ同日同所ニ於テ同人ヨリ還付ヲ受クル際其ノ旨ノ受取書一通ヲ作成交付シナカラ之ニ所定ノ印紙稅ヲ納付セサリシ事實ヲ認メ印紙稅法第四條第一項第二十九號第十一條ニ依リ處罰シタルハ洵ニ正當ナリト謂ハサル可ラス依テ本論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點ハ道路法所定ノ道路ニ關スル工事執行ヲ爲スニ當リ府縣知事カ道路管理者トシテ入札保證金ノ保管ヲ爲スハ國家機關トシテノ行爲ナレハ之カ還付ノ領收證ニ付テハ當然保管金規則第四條ノ準用アルヲ以テ印紙稅法所定ノ印紙ノ貼用ヲ要セサルニ拘ラス原判決カ有罪ト認定シタルハ法ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ當然破毀ヲ免レサルモノナリトスト云フニ在リ

然レトモ河川カ國ノ機關タル府縣知事ノ管理ニ係ルト將又知事カ該河川ノ屬スル公共團體タル府縣ノ

入札保證金還付ノ受取書ト印紙稅法　縣出納吏ニ差入レタル入札保證金還付ノ受取書ト明治二十三年法律第一號保管金規則

代表者トシテ之ヲ管理スルトヲ問ハス其ノ堤防修繕工事ニ付之カ請負入札加入ニ關スル保證金ノ還付ニ付テハ所論ノ如ク保管金規則第四條ヲ準用スヘキモノニ非ス蓋同條ハ政府ノ歳入歳出外ノ現金ヲ其ノ出納官吏カ保管スル金員ノ受渡ニ限リ適用スヘキ規定ニシテ府縣ノ出納吏カ府縣ノ歳入歳出外ノ現金ヲ保管スル場合ニ於ケル之カ受渡ニ關スルモノニ非サルト同時ニ財産權ノ創設移轉變更若ハ消滅及財産權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書帳簿ヲ作成スル者ハ原則トシテ印紙稅法ノ規定ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘキモノナルコトハ同法第一條ノ規定スルトコロニシテ敍上ノ證書帳簿ヲ作成スル者カ印紙稅ノ納付ヲ要セサル規定ノ如キハ畢竟例外ノモノナルニヨリ其ノ規定スル以外ノ場合ニ漫リニ之ヲ類推又ハ擴張スヘキモノニ非サレハナリ其ノ他本件ノ場合ニ於テ印紙稅ノ納付ヲ要セサル旨ノ規定アルコトナキニヨリ原審カ被告人ニ於テ判示受取書卽寄託契約ノ消滅ニ因ル財産權ノ移轉ヲ證明スル證書一通ヲ作成交付スルニ當リ之ニ所定ノ印紙稅ヲ納付セサリシ事實ヲ認メ處罰シタルハ洵ニ正當ニシテ毫モ所論ノ如キ不法アルコトナク本論旨ハ其ノ理由ナシ（論旨ハ道路法ニ關スルモノナリト雖河川法ニ關シテモ同趣旨ナリト認メ敍上ノ如ク審判セリ）

右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○詐欺被告事件（昭和十年（れ）第七〇八號　同年七月二十二日第二刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　郡　徹之進　辯護人（所　龍麿　塚本德計）

【第一審】福岡地方裁判所　【第二審】長崎控訴院

○判示事項

欺罔行爲ニ因ル保險契約ノ締結竝保險證券ノ交付ト其ノ擬律

○判決要旨

保險會社ノ係員ヲ欺罔シテ保險契約ヲ締結セシメ進ンテ其ノ保險證券ヲ交付セシメタル場合ニハ刑法第二百四十六條第一項ノ既遂罪ヲ以テ問擬スヘキモノトス

【參照】商法第四百三條　保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

欺罔行爲ニ因ル保險契約ノ締結竝保險證券ノ交付ト其ノ擬律

一　保險ノ目的
二　保險者ノ負擔シタル危險
三　保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
四　保險金額
五　保險料及ヒ其支拂ノ方法
六　保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
七　保險契約者ノ氏名又ハ商號
八　保險契約ノ年月日
九　保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

同法第四百三十條　生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　保險契約ノ種類
二　被保險者ノ氏名
三　保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名

刑法第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但シ未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中證人橋本眞三ニ支給シタル分ヲ除ク其ノ餘ノ部分ハ被告人竝原審相被告人木村貢兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人徹之進ハ昭和五年六月以來東京市麴町區有樂町一丁目一番地ニ本店ヲ有スル有隣生命保險株式會社ノ九州代理店ヲ經營シ居タルモノナルトコロ昭和六年一月七日頃懇意ノ間柄ナル原審相被告人木村貢ヨリ當時同人ノ叔母高見フサノ繼子高見正人（大正三年四月二十四日生）カ肺結核ニテ福岡市立屋形原病院ニ入院加療中ナルコトヲ聞知セルニ拘ラス右貢ト共謀ノ上同人ヲシテ右保險會社ニ對シ正人ノ疾病ヲ秘シ同人ヲ被保險者トスル保險契約ヲ締結セシメ因テ同會社ヨリ之カ保險證券竝保險者死亡ノ場合保險金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和六年一月二十三日頃被告人徹之進ノ肩書居宅ニ於テ同保險會社囑託醫原田勝郎ニ對シ兩名交々正人ハ健康體ナリト申欺キ以テ同醫師ヲシテ無診査ノ儘正人カ保險加入ニ適スル健康體ナル旨ノ診査報狀ヲ作成セシメタル上之ヲ正人ヲ被保險者トセル右保險會社宛金額一萬圓ノ貢名義保險契約申込書ト共ニ同會社福岡支部ニ提出シ同會社福岡支部長渡邊一祐及同支部長ヲ經テ本社係員等ヲシテ正人カ眞實被保險者タルニ適スル健康體ノ所有者ナルカ如ク誤信セシメ同月三十一日同人ヲ被保險者貢ヲ保險契約者トスル保險金額一萬圓ノ養老生命保險契約ヲ締結セシメ因テ同年二月下旬頃該保險證券一通（證第三十五號）ヲ被告人徹之進方ニ送付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十條第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中主文特記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十八條ニ則リ被告人竝原審相被告人木村貢兩名ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人所龍蟹　塚本德計上告趣意書第一點ハ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノナリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人徹之進ハ有隣生命保險會社ノ九州代理店ヲ經營シ居タルモノナル處原審(第一審)相被告人木村貢ヨリ當時同人ノ叔母高見フサノ繼子高見正人カ肺結核ニテ福岡市立屋形原病院ニ入院加療中ナルコトヲ聞知セルニ拘ラス右貢ト共謀ノ上同人ヲシテ右保險會社ニ對シ正人ノ疾病ヲ祕シ同人ヲ被保險者トスル保險契約ヲ締結セシメ……同月三十一日同人ヲ被保險者貢ヲ保險契約者トスル保險金額一萬圓ノ養老保險契約ヲ締結セシメ因テ同年二月下旬頃該保險證券一通(證第三十五號)ヲ被告人方ニ送付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリト判示シ右判示所爲ニ對シ「被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十條第二百四十六條第一項ニ該當スル」モノト爲シ右保險證券一通ヲ騙取シタリト爲シタリ然レトモ生命保險契約ニ於テ契約成立後保險會社カ發行シテ契約者ニ交付スル保險證券ハ當該保險契約締結ノ證トシテ保險契約者ノ請求ニヨリ保險者之ヲ交付スルモノニシテ(商法第四百三條)證券ハ契約ノ證タルニ過キス保險證券ノ存在セサル保險契約元ヨリ有效ニシテ保險契約締結ニヨリテ契約者ハ保險契約者トシテ或ハ保險金受取人トシテノ法律上ノ地位利益ヲ有スルニ至ルモノナリ原判決ニ於テ認定セラレタル事實ハ被告人ハ第一審相被告人木村貢ト共謀シテ高見正人ノ疾病ヲ祕シ同人ヲ被保險者トシ木村貢ヲ保險契約者トスル保險金額一萬圓ノ養老保險契約ヲ締結セシメタルモノニシテ其ノ結果保險會社ヨリ當該保險證券ヲ保險契約者タル木村貢ニ被告人ヲ經テ送付シ來リシモノニテ保險證券ノ送付アリタルハ右保險契約ヲ締結シタル結果ニ過キサルモノナリ果シテ然ラハ被告人カ第一審相被告人木村貢ト共ニ高見正人ノ疾病ヲ祕シテ保險會社ト保險契約ヲ締結シタルハ木村貢ヲシテ保險契約者タルノ法律上ノ地位ヲ取得セシメ保險契約上保險契約者タルノ利益ヲ得セシメタルモノニ外ナラス保險證券ノ送付ヲ受ケタルハ保險契約者タルノ地位ニ伴フ必然的利益ニ過キサルナリ如上ノ事實ハ刑法第二百四十六條第二項ニ所謂「財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル」モノニ該當スルモノニシテ當ニ該法條ヲ適用スヘキ場合ナルニ拘ラス原判決ハ右判示事實ニ對シ其ノ保險契約ノ本體ヲ看過シ其ノ結果タル保險證券ノ交付ニ付刑法第二百四十六條第一項ヲ適用處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト謂ハサルヘカラスト云フニアレトモ

原判示ノ如キ詐欺行爲ニヨリ保險會社ノ係員ヲ欺罔シ因テ保險契約ヲ締結セシメ其ノ保險證券ヲ交付セシメタル場合ニハ刑法第二百四十六條第一項ノ既遂罪ヲ以テ問擬スヘキモノトス蓋シ保險證券ハ保險契約ノ成立及其ノ內容ヲ明ニスヘキ證據證券ニシテ固ヨリ財產權ノ目的タルコトヲ得ルモノナレハ欺罔行爲ニヨリ保險契約ヲ締結セシメ進ンテ其ノ證券ヲ交付セシメタル以上所論契約成立ノ事項ヲ之ニ吸收包括セシメテ問擬スルヲ相當トスレハナリサレハ原審ノ擬律ハ相當ニシテ所論ノ如キ法律ノ適

【要旨】

欺罔行爲ニ因ル保險契約ノ締結竝保險證券ノ交付ト其ノ擬律

用ヲ誤リタル違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○公文書僞造行使私文書僞造行使詐欺公正證書原本不實記載

行使被告事件（昭和十年（れ）第七〇九號　同年七月二十三日第四刑事部判決　棄却）

【上告人】　被告人　今道新作　外四名　辯護人（松尾菊太郎　赤井幸夫　坂本舞）

【第一審】　長崎地方裁判所　【第二審】　長崎控訴院

○判示事項

村役場書記ノ土地所有證明書ノ僞造

○判決要旨

村役場書記カ村長差支ノ爲臨時代理トシテ事務ヲ擔任シタルニ非スシテ恣ニ村長ノ奥書アル土地所有證明書ヲ作成シタルトキハ刑法第百五十五條第一項ノ僞造罪ヲ構成ス

【參照】　刑法第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖書ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖書ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中村禎二　中尾藤作ヲ各懲役二年六月被告人井石伊右衞門　今道新作ヲ各懲役一年ニ處スル旨（未決勾留算入押收處分竝訴訟費用負擔等ノ點省略）ノ判決ヲ爲シタリ

被告人中村禎二ハ元長崎縣西彼杵郡時津村ノ資産家ナリシモ昭和五年及昭和七年ニ行ハレタル各衆議院議員選擧ニ際

シ議員候補者田崎武男ノ爲選擧運動者若ハ選擧事務長トナリ多額ノ出金ヲ爲シタル結果約金二萬二三千圓ノ負債ヲ生シ家政困窮シ居タルモノ被告人中尾藤作ハ性來競馬ヲ好ミ馬券買入等ノ爲約金四千圓ノ負債ヲ生シ生活困難ヲ感シ居タルモノナルトコロ被告人中村禎二ハ豫テ知合ナル近藤島市ト共ニ同縣南松浦郡富江町ニ於テ蠟石採掘事業ヲ計畫シ且ツ被告人中尾藤作ト協力シテ右時津村ニ競馬場設置方ノ運動ヲ畫策シ以テ之等事業ノ成功ニ依リ巨利ヲ博シ各自其ノ負債ヲ整理シテ家政ヲ挽回セムコトヲ圖リタルモ該事業資金ニ窮シタルトコロヨリ被告人中村禎二中尾藤作ノ兩名ハ共謀又ハ各自單獨又ハ被告人中村禎二方ノ雇人ナル原審相被告人川原順一ト共謀ノ上當時右時津村役場助役タリシ被告人井石伊右衛門及同役場書記タリシ被告人今道新作ノ兩名ヨリ同村長名義ヲ以ヲ事實證明ノ奥書ノミヲ爲シアル印鑑證明竝土地所有證明ニ關スル各用紙ノ交付ヲ受ケ擅ニ之ニ他人名義ヲ冒署シ前示證明書又ハ委任狀等ヲ僞造行使シテ以テ長崎市麓屋町三十六番地東まつヲ欺キ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ

（第一乃至第六事實省略）

第七　被告人今道新作ハ時津村役場書記奉職中昭和七年十二月頃豫テ懇意ナル被告人中尾藤作ニ金借周旋ノ依頼ヲ爲シ其ノ後同人ノ世話ニテ他ヨリ金百五十圓ヲ借受クルニ至リタル後モ其ノ支拂延期ノ世話ヲ受ケ好意ヲ感謝シ居リタルモノナルカ昭和七年十二月二十六日頃同被告人ヨリ時津村長名義ヲ以テ事實證明ノ奥書ノミヲ爲シアル印鑑證明及土地所有證明ニ關スル用紙ノ交付方ヲ懇請セラルルヤ被告人中尾藤作等ニ於テ前記蠟石採掘事業等ノ資金調達ノ爲他人名義ヲ冒署シテ右各證明書ヲ僞造行爲スルモノナリトノ情ヲ知リ乍ラ之ヲ承諾シ昭和八年八月頃迄ノ間十數回ニ被告人中尾藤作ニ對シ同村役場ニ於テ前記ノ如ク單ニ時津村長平野寅五郎名義ヲ以テ證明文書ノ奥書ノミアル印鑑證明ニ關スル用紙及土地所有證明ニ關スル用紙各數十枚ヲ一回ニ數枚乃至十數枚位宛交付シ因テ同被告人等ニ於テ前顯第二、第四、第五、記載ノ如ク他人或ハ虚無人ノ氏名三文判等ヲ使用シテ擅ニ數十通ノ該證明書ヲ作成シ以テ被告人今道新作ハ被告人中尾藤作ト共同シテ公務員タル時津村長平野寅五郎ノ作成スヘキ文書數十通ヲ僞造シタルモノナリ

而シテ以上ノ各被告人ノ私文書僞造同行使公文書僞造同行使詐欺ノ所爲ハ各夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人中村禎二中尾藤作ノ判示所爲中私文書僞造ノ點ハ各刑法第百五十九條第一項ニ同行使ノ點ハ各同法第百六十一條第一項第百五十九條第一項ニ公文書僞造ノ點ハ各同法第百五十五條第一項ニ同行使ノ點ハ各同法第百五十八條第一項第百五十五條第一項ニ公正證書原本不實記載ノ點ハ同法第百五十七條第一項ニ同備付行使ノ點ハ同法第百五十八條第一項第百五十七條第一項ニ詐欺ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ判示僞造公私文書ノ各一括行使ハ孰レモ一個ノ所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ各私文書ノ僞造同行使各公文書ノ僞造同行使竝詐欺ハ夫々連續犯ニシテ右連續犯タル私文書公文書ノ各僞造ト同行使ト公正證書原本不實記載ト同行使ト、連續詐欺トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項前段後段第五十五條第十條ニ則リ以上ノ判示所爲全部ハ結局最モ重キ僞造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人中村禎二中尾藤作ノ兩名ヲ各懲役二年六月ニ處スヘク被告人井石伊右衛門今道新作ノ兩名ノ判示所爲ハ同法第百五十五條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人等兩名ヲ各懲役一年ニ處スヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

村役場書記ノ土地所有證明書ノ僞造

被告人井石伊右衛門 今道新作辯護人坂本舜上告趣意書第二點原判決ハ法則ノ適用ヲ脫漏シタル違法アルモノトス原判決ハ被告人今道新作ニ對スル犯罪事實ヲ掲示スルニ當リ云々「昭和七年十二月二十六日頃被告人中尾藤作ヨリ時津村長名義ヲ以テ事實證明ノ奥書ノミヲ爲シタル印鑑證明及土地所有證明ニ關スル用紙ノ交付方ヲ懇請セラルルヤ中略之ヲ承諾シ昭和八年八月頃迄ノ間ニ十數回ニ被告人中尾ニ對シ同村役場ニ於テ前記ノ如ク單ニ時津村長平野寅五郎名義ヲ以テ證明文書ノ奥書ノミアル印鑑證明ニ關スル用紙及土地所有證明ニ關スル用紙各數十枚ヲ一回ニ數枚乃至十數枚位宛交付シ因テ同被告人等ニ於テ中略擅ニ數十通ノ該證明書ヲ作成シ以テ被告人今道新作ハ被告人中尾藤作ト共同シテ公務員タル時津村長平野寅五郎ノ作成スヘキ文書數十通ヲ偽造シ」トアリテ印鑑證明用紙ト土地所有證明用紙ヲ交付シタル事實ヲ總テ一括混合シ是等ヲ同一事實ノ如ク看做シ之ニ對シ刑法第百五十五條ノ一及同第五十五條ノミヲ適用シテ處斷シタリ然レトモ印鑑證明用紙ノ交付ト土地所有證明用紙ノ交付トハ劃然タル區別ヲ爲シテ觀察セサルヘカラス則チ印鑑證明ニ關スル事務ハ今道ノ管掌スル所ニアラサルヲ以テ之ヲ作成シタル今道ノ行爲自體ハ已ニ犯罪ヲ構成スルモノナレハ單ニ刑法第百五十五條ノ一ヲ適用スルノミニシテ可ナリト雖土地所有證明ニ關スル事務ハ今道ノ管掌スル事務ノ範圍ナルコトハ同人ノ第一回豫審訊問調書（五冊一五五七丁）ノ供述記載及被告人井石伊右衛門ノ供述トシテ同人ノ第一回豫審訊問調書（五冊一五三四丁以下）ニ因リ明カナリ然ラハ土地所有證明ヲ爲スニ當リ村長ノ署名捺印ヲ爲スハ正當ナル職務行爲ニシテコレノミニ因リ文書偽造罪ヲ構成セリトナスニハ中尾カ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキニ於テ茲ニ始メテ文書ノ偽造アリト云フヲ得ヘシ果シテ然ラハ土地所有證明ニ關シテハ今道 中尾カ共同シテ始メテ文書偽造カ完成セラルヘキモノナルヲ以テ此ノ點ニ關シテハ兩者ハ共犯關係ニアラサレハナシ能ハサルコト洵ニ明瞭ナリトス然ラハ法則ヲ適用スルニ當リテハ今道ニ對シ刑法第百五十五條ノ一及第五十五條ノミニテハ足レリトセス必ス共犯ニ關スル規定ヲ適用セサルヘカラサルニ拘ラス之カ適用ヲ脫漏シタルハ不當ニ法則ヲ適用セサル違法アルヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

被告人新作ニ對スル原判示ニ依レハ同人ハ時津村役場書記奉職中被告人中尾藤作ノ周旋ニ依リ他ヨリ金借ヲ爲シ爾後其ノ支拂延期方ニ付同人ノ世話ヲ受ケ好意ヲ感謝シ居リタルモノナルカ昭和七年十二月二十六日頃同被告人ヨリ同村長名義ヲ以テ事實證明ノ奥書ノミヲ爲シアル印鑑證明及土地所有證明ニ關スル用紙ノ交付方ヲ懇請セラルルヤ藤作等ニ於テ資金調達ノ爲他人名義ヲ冒書シテ右各證明書ヲ僞造行使スルモノナリトノ情ヲ知リ乍ラ之ヲ承諾シ昭和八年八月頃迄ノ間十數回ニ藤作ニ對シ同村役場ニ於テ右各用紙數十枚ヲ一回ニ數枚乃至十數枚位宛交付シ因テ同被告人等ニ於テ原判示第二第四及第五ノ如ク他人又ハ虛無人ノ氏名ニ三文判等ヲ使用シテ擅ニ數十通ノ證明書ヲ作成シ以テ被告人新作ハ同藤作ト共同シテ公務員タル時津村長平野寅五郎ノ作成スヘキ文書數十通ヲ偽造シタリト云フニ在

【要旨】

リテ右證明書ハ村長ノ作成スヘキ公文書ナルコト明ナリ然ラハ被告人新作ノ判示行爲ハ村長差支ノ爲臨時代理トシテ該事務ノ擔任中ニ爲サレタルモノニ非スシテ書記個人ノ資格ニ於テ恣ニ村長ノ證明文書ヲ僞造シタルモノナルヲ以テ其ノ行爲ハ公務員タル職務ニ關シ虚僞ノ文書ヲ作成シタルモノト謂フヲ得ス且又敍上公文書ノ僞造ハ中尾藤作ト共謀ノ上爲シタル趣旨ナルコト右判文上明ナルヲ以テ現實藤作ニ於テ右用紙ニ内容虚僞ノ記載ヲ爲シタルニセヨ刑法第百五十五條第一項ノ罪ノ共同正犯トシテ其ノ責任アルコト言ヲ俟タス而シテ刑法共犯ニ關スル規定ハ之ヲ適用スレハ足リ必スシモ判文ニ掲記ノ要ナキカ故ニ原判決ニ刑法第六十條ノ記載ナキモ所論ノ如キ違法アリト謂フヲ得ス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事樫田忠美關與

○暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件（昭和十年（れ）第七二一號　同年七月二十五日第二刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　仲山忠一　外十八名　辯護人　新江寅

【第一審】宇都宮區裁判所　【第二審】宇都宮地方裁判所

○判示事項

慣行並規約ニ反シ築造セラレタル堰堤ノ損壞ト刑法第三十五條並暴力行爲等處罰ニ關スル法律

○判決要旨

他人ノ築造セル堰堤カ慣行並規約ニ違反シタルトキト雖之ヲ損壞スル權利ナキヲ以テ數人共同シテ擅ニ之カ損壞行爲ヲ爲ストキハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スルモノトス

【參照】大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條　團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ揭クル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人十九名ヲ各罰金十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各十日間被告人等ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ河內郡古里村大字下ケ橋字西下ケ橋部落民ナルカ昭和九年四月中栃木縣カ九郷半用水普通水利組合ノ申請ニ基キ縣營同用水幹線改良事業ノ一部トシテ官有地タル同村大字下ケ橋字屋敷地內鬼怒川原ノ右幹線用水路ノ東側ニ長サ二〇米上幅〇・三米前面直立後面一割法高〇・七米ノコンクリート製餘吐堰堤ヲ築造シタルニ對シ水害ヲ來ス處アリト爲シ同年九月十日該堰ヲ破壞センコトヲ謀議シタル上翌十一日午前八時頃ヨリ外十數名ト共同シテ交互ニ玄能ヲ振ヒテ該堰ヲ破壞シ同十一時頃迄ニ該堰中二・五米ノ原形ヲ殘シタル外殆ント其ノ上半部ヲ損壞シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各大正十五年法律第六十號暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ尙犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ各刑法第六十六條第七十一條第六十八條第四號ヲ適用シ酌量減輕シタル罰金額範圍內ニ於テ被告人等ヲ各罰金十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ各十日間被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ヲ適用シ被告人等ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

被告人等及辯護人ハ判示コンクリート堰堤ノ設置ハ西下ケ橋部落民ト九郷半用水普通水利組合トノ間ニ存スル契約ニ違反シ被告人等ハ之カ撤去ヲ求ムル權利ヲ有スル處該堰堤ハ西下ケ橋部落及其ノ附近田畑ニ水害及耕作ニ對スル危害ヲ與ヘ其ノ災害ノ性質上訴訟ニ依ル救濟ヲ俟チ得サリシ爲自力救濟トシテ判示所爲ニ及ヒタリト辯疏スルモノナルカ被告人等ニ判示堰堤撤去請求ノ權利アリ判示堰堤ノ設置カ右主張ノ如キ危害ヲ與フトスルモ本件犯行當時現實急迫セル危害存シタラハ格別斯ル事態存セスシテ單ニ將來水害ヲ生スル惧アリトノ理由ヲ以テ訴訟ニ依ラスシテ自力ニ依リ其ノ權利ヲ實現スルハ公序良俗ニ反スルヲ以テ被告人等ノ所爲ハ自救行爲トシテ容認シ難シ

次ニ被告人等及辯護人ハ西下ケ橋部落民ハ判示水利組合ヨリ從來每年係爭地ニ蛇籠ヲ以テ堰堤ヲ築造スルコトヲ請負ヒ該堰堤ハ每年九月二十日被告人等部落民ニ於テ之ヲ破壞シ去ル慣習アリタルヲ以テ本件行爲ハ其ノ慣習ニ從ヒタルモノニシテ權利行爲ナリト辯疏スルモノナルカ右慣習ハ單純ニ係爭地ニ設置セラレタル堰堤ノ種類及設置者ノ如何ヲ問ハス之ヲ破壞スル權能ヲ西下ケ橋部落民ニ認メタルニ非スシテ被告人等部落民カ判示水利組合ヨリ堰堤ノ設置ヲ請負ヒ然モ一時的ナル工事ヲ爲シタルコトヲ前提トシテ破壞ノ權能ヲ認メタルモノナレハ被告人等ノ判示所爲ハ右慣行ニヨリ律シ得サルコト明白ナレハ右辯疏モ採用シ難シ

更ニ辯護人等ハ被告人等ハ慣行ニヨル權利ナカリシトスルモ斯ル權利アリト信シテ爲シタルモノナレハ犯意ナシト辯疏スルモ被告人等ニ犯意アリタルコトハ前段認定ノ如クニシテ殊ニ被告人等カ慣行ニヨリ破壞ノ權能アリト信スルニ付相當ノ理由アリト認メ難キコトハ前段說示ヨリシテ明瞭ニシテ右辯疏モ理由ナシ

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

慣行竝規約ニ反シ築造セラレタル堰堤ノ損壞ト刑法第三十五條竝暴力行爲等處罰ニ關スル法律

各被告人辯護人新江寅上告趣意書被告人等ハ栃木縣カ九郷半用水普通水利組合ノ申請ニ基ツキ用水幹線改良事業ノ一部トシテ右幹線用水路ノ東側ニ長サ二〇米上幅〇・三米前面直立後面一割法高〇・七米ノ「コンクリート」製餘水吐堰堤ヲ築造シタルニ對シ昭和九年九月十一日玄能ヲ以テ其ノ上半部ヲ破壞シタルモノニシテ該行爲ニ對シ原審ハ之ヲ暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反トシテ被告人等ヲ各罰金十圓ノ刑ニ處シタルコトハ原審判決理由ノ明示スル所タリ然レトモ被告人等カ之ヲ損壞シ去リタルハ法律上正當ノ行爲ニシテ處罰サルヘキニアラサルコトハ後記理由ニヨリテ明白ニ御座候第一點ハ一、抑農業用水路ハ舊曆二百二十日ヲ期シ一般ニ之ヲ乾水シ以テ稻ノ生熟ヲ助長シ一面以後翌年迄稻田ヲ乾燥シテ以テ翌年度產稻ノ良果ヲ收メントスルハ殆ント全國ヲ通シテノ慣習ト稱シテモ不可ナカルヘク從テ九郷半用水モ古來コノ慣習ヲ重ンシ毎年二百二十日ヲ期シ用水路ヲ〆切リ一面係爭堰ノ個所ニ設置シタル堰ハ之ヲ破壞シ去リ以テ悉ク本流ニ落水シ九郷半用水沿岸被告人等居村ノ稻ノ生育ニ資シ來リタルコトハ第一審判決原審判決モ之ヲ認メ居ル所ニシテ且ツ證人黑崎松藏　黑崎齊一郎　加藤德藏　黑崎勝吉等ノ異口同音ニ證言スル所ナリ若シ反對ニ係爭堰ヲ其ノ儘ニ存置シ依然九郷半用水ニ注水スルニ於テハ被告等居村ノ田地ハ浸水ノ害ヲ蒙リ農家ノ生命トスル米穀ノ收穫ヲ見ルヲ得サルニ至ランコレ實ニ被告等居村ノ死活問題ナリ從テ古來ヨリノ慣習トシテ二百二十日ヲ期シ堰ヲ破壞シ來リタルハ當然至極ノ次第ナリ二、元來鬼怒川ハ其ノ流水全國稀ニ見ル急激ノモノニシテ又洪水ノ量モ多大ナルコト全國ニ比類ナク往年十數度ニ亙ル洪水ニハ田畑ニ濁水氾濫シ果テハ流失シタルモノアリ人畜ノ死亡ヲ來シ沿岸ノ農家ハ他ニ移轉シタル等頗ル慘狀ヲ極メタルモノナリ以上ノ實狀ヨリシテ鬼怒川沿岸ノ被告等部落民ハ古來ヨリ鬼怒川ニ堰堤又ハ之ニ類スル流用障礙物ヲ築造若ハ設置シ以テ洪水ノ危險率ヲ增進スルコトハ最モ恐怖憂慮シ來リタルトコロナリ三、而シテ栃木縣河內郡古里村及平石村ノ兩村中鬼怒川ヨリ離レテ水利ノ便十分ナラサル水田ニ對スル灌漑用水ノ爲古クヨリ水組ナルモノアリテ同水組ハ前記屋敷地內ノ鬼怒川原ニ用水路ヲ設ケ堰堤ヲ築キ來リタルモ前述ノ事情ヨリ該鬼怒川沿岸部落民トノ取極メニヨリ堰堤ハ堅牢ナル設備ヲ爲ササルコト（洪水ノ際ハ押シ流サルル程度ノモノ）毎年二百二十日ニハ取拂フコト（此ノ時期以後ハ水田ニ水ノ必要ナキニ至ルヨリ）築堤及取拂ヒハ地元卽チ堰所在地部落民ヲシテ爲サシムルコト（部落民等ノ恐怖スル水害對策ノ爲堅牢物ヲ以テ堰ヲ作ラサルコト二百二十日ニハ必ス取拂フコトヲ確實ニ實行スル自衞ノ爲）トナシ古來ヨリ慣習トシテ之ヲ實行シ來リタルモノナリ四、然ル處明治四十五年中水組ハ右取極メノ約ニ反シテ地元部落民ニ築堤ヲ請負ハシメス而カモ堅牢ナル設備ヲナシタル處ヨリ水組ト部落民トノ間ニ紛爭ヲ來シ裁判事件迄惹起スルニ至リ該紛爭ハ漸ク大正二年春頃ニ至リ水組ハ九郷半用水普通水利組合ヲ設立シ該組合ハ管理者タル時ノ河內郡長龜山忠之助ト部落民トノ間ニ左ノ如キ契約成立シ示談相整ヒタルモノナリ契約ノ趣旨(1)堰ハ蛇籠ニテ築クコト卽チ永久的設備ヲ爲サス直チニ取拂ヒ得ル程度ノ設備タルコト

(2)堰ハ毎年二百二十日ヲ期シ取拂フコト但シ第一堰ハ十五間第二堰ハ十間ヲ取拂フコト尤モ洪水ノ爲右ニテ危險ヲ感スルトキハ全部取拂ヒ得ルコト(3)築堰及取拂ヒハ部落民ヲシテ爲サシムルコト而シテ右契約ノ趣旨ハ該契約成立以來昭和八年ニ至ル迄（本件ノ工事ニ至ル迄）實行セラレ來リ其ノ間自他何等ノ故障ナカリシモノナリ五、然ルニ昭和九年ニ至ルヤ縣ハ被告等部落民ノ總意ヲ無視シ而カモ確固トシテ存在スル前記慣習及契約ヲ介意セス突如前記ノ如キ堅牢ナル永久的築堰ヲ爲シタルモノナリ左レハ縣ノ爲シタル右築堰處分ハ永年行ハレ來リタル慣習ヲ無視シ且部落民タル被告等カ前記契約ニ基キ保有スル權利ヲ侵害シ延ヒテ被告等部落民カ其ノ祖先ノ代ヨリ最モ恐怖憂慮シ來リタル水害ノ危險率ヲ增大シ爲メニ一日ト雖晏如タリ得サル破目ニ陷レタルモノナルヲ以テ極メテ不法不當ノ處分タルヲ免レサルモノナリ六、前記古來ヨリノ慣習及大正二年中ノ契約ノ存在ハ證人黑崎松藏　黑崎齊一郎　加藤德藏　黑崎勝吉等ノ各證言及凑定治ノ證明書ニヨリテモ明白ニ且第一審及ヒ原審判決モ之ヲ認ムル所タリ卽チ被告等ハコノ古來ヨリノ慣習及ヒ大正二年ノ契約ニヨリ舊曆二百二十日タル九月十一日ヲ期シ之ヲ破壞シタルモノニシテ何等疚シキ點ナク寧ロ權利ノ實行行爲ニ屬スルモノタリ七、原審ハ之ニ對シ右慣習ハ單純ニ係爭地ニ設置セラレタル堰堤ノ種類及設置者ノ如何ヲ問ハス之ヲ破壞スル權限ヲ西下ケ橋部落民ニ認メタルニ非スシテ被告人部落民カ判示水利組合ヨリ堰堤ノ設置ヲ請負ヒ然モ一時的ナル工事ヲ爲シタルコトヲ前提トシテ破壞ノ權能ヲ認メタルモノナレハ被告人等ノ判示所爲ハ右慣行ニヨリ律シ得サルコト明白ナレハ右辯疏モ採用シ難シトテ被告ノ抗辯ヲ排斥シタリ排斥ノ要旨ハ(1)當事者ノ異ナル點ト(2)一時的設置ニアラスシテ半永久的ナル設備ナルトノ二點ニヨリテ之ヲ排斥シタルコトニ歸著ス而シテ該見解ノ全然誤謬ナル點ヲ左ニ指摘セントス(1)當事者ノ異ナリテウ點ニ就キテハ只一片ノ形式論ニ過キス設置ノ當事者ハ水利組合ニシテ縣ニアラスソノ理由ハ縣ハ水利組合ノ申請ニ基キ之ヲ爲シタリトノ點及內務省ノ補助金アル爲メ監督ノ意味ニ於テ縣カ工事ヲ設計スルニ過キス完成ノ上ハ水利組合ニ引渡スモノナルコト是等ノ點ハ證人菊地幸作　長山粂三ノ證言ニヨリテ明白ニシテソノ堰堤所有權ノ實體ハ水利組合ニシテ縣ニアラサルノミナラス元來水利權ノ問題ハ物權的性質ヲ有スルモノナルニヨリ慣習ハ何人ニ對シテモ對抗シ得ヘク單ニ契約當事者タル水利組合ニ限ラス假令縣ト雖慣行ヲ破ルニ於テハ之ニ對抗シ得ヘキハ論ヲ俟タサル所ナリ(2)永久的設備ナルカ故ニ破壞シ得スト稱スルモ元來多年ノ慣行及水利組合トノ契約ハ永久的ノ堰堤ヲ造ラサルコト一時的ノ設備トシテ毎年之ヲ撤去スヘキコトニナリ居リタルニモ拘ラス永久的ノ設備ヲ爲シ慣行及契約ニ違反シタルニヨリ慣行及契約上ノ權利ニ基キ之ヲ撤去シタルモノナルニヨリ純然タル權利行爲ニ屬シ犯罪行爲ヲ以テ律シ得ヘカラサルコト敢テ論議ノ要ナキ所タリ然ルニ原審カ之ヲ犯罪行爲ト認定シタルハ擬律錯誤ニシテ破毀ヲ免レスト思料致候ト云フニアレトモ

權利ノ行使ハ法律ノ認ムルトコロニ從テ之ヲ爲スヘク之ニ依ラサル行爲ハ權利行使ト謂フヲ得サルハ

勿論其ノ行爲ニシテ罰條ニ觸ルルモノハ其ノ罪責ニ任セサルヘカラス原判決判示事實ニ依レハ被告人等ハ栃木縣河内郡古里村大字下ヶ橋字西下ヶ橋部落民ナルカ昭和九年七月中栃木縣カ九郷半用水普通水利組合ノ申請ニ基キ縣營同用水幹線改良事業ノ一部トシテ官有地タル同村大字下ヶ橋字屋敷地内鬼怒川原ノ右幹線用水路ノ東側ニ長サ二〇米上幅〇・三米前面直立後面一割法高〇・七米ノコンクリート製餘吐堰堤ヲ築造シタルニ對シ水害ヲ來タス虞アリト爲シ同年九月十日該堰ヲ破壞セムコトヲ謀議シタル上翌十一日午前八時頃ヨリ外十數名ト共同シテ交互ニ玄能ヲ振ヒテ該堰ヲ破壞シ同十一時頃迄ニ該堰中二・五米ノ原形ヲ殘シタル外殆ト其ノ上半部ヲ損壞シタルモノトスサレハ前掲コンクリート製堰堤ノ築造カ所論慣行竝約旨ニ違反スルモノナリトスルモ從來二百二十日ヲ期シテ取拂ヒ來リタル蛇籠堰ノ場合ト異ナルコト勿論ナルカ故ニ該違反ヲ問ヒ其ノ撤去ヲ求ムルニハ他ニ方法アリ民法第七百二十條第二項刑法第三十七條所定ノ如キ場合ヲ除キ擅ニ之ヲ損壞スルカ如キハ法ノ許容セサルトコロナレハ被告人等ノ行爲ハ權利行爲ト謂フヲ得サルハ勿論原判決擬律ノ罰條ニ觸ルルモノトス然ラハ原審ノ擬律ハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

【要旨】

同第二點ハ舊曆二百二十日ヲ期シ係爭堰ヲ撤去セサルニ於テハソノ以後九郷半用水沿岸殊ニ堰元タル被告等居村カ農作物浸水ノ害及洪水ノ水害ヲ蒙ル恐アルコトハ單ニ被告等カ之ヲ辯疏スルノミナラス第一審以來ノ各證人ノ證言ノ一致スル所タリ被告等カ之ヲ自救權ノ作用トシテ係爭堰ヲ撤去シタリトノ辯疏ニ對シ原審ハ被告等ニ判示堰堤撤去請求ノ權利アリ判示堰堤ノ設置カ右主張ノ如キ危害ヲ與フルトスルモ本件犯行當時現實ニ急迫セル危害存シタラハ格別斯ル事態存セスシテ單ニ將來水害ヲ生スル惧アリトノ理由ヲ以テ訴訟ニヨラスシテ自力ニヨリ其ノ權利ヲ實現スルハ公序良俗ニ反スルヲ以テ被告等ノ所爲ハ自救行爲トシテ認容シ難シトシテ該辯疏ヲ排斥シ去リタルモノナレトモコレ甚シキ辟見ト云ハサルヘカラスト思料ス凡ソ洪水ナルモノハ數年實現セサルコトアルト同時ニ即時ニモ到來スルコトアルヘク天下何人カヨク何日何時實現スルト指摘シ得ルモノアランヤコレ洪水ノ恐ルヘキ所以タリ若シソレ原審ノ唱フル如ク現在洪水ナシトノ理由ヲ以テ堰堤ノ撤去ヲ怠リ突如洪水ノ到來ニ遭遇セハ沿岸ハ之カ爲メ崩壞ノ害ニ逢ヒ悔イヲ千歲ニ殘スモ及ハサルヘシ如斯場合ノ救濟ニコソ學說判例カ自救權ノ作用ヲ認メタル所以ナリ原審ノ云フカ如クハ寧ロ絶對ニ自救權ヲ認メサルニ如カサルナリ原審ハ曰ク現實ニ急迫セル危害存シタラハ格別カカル事態存セスシテ單ニ將來水害ヲ生スル惧アリトノ理由ヲ以テ云々ト說明スレトモ前陳ノ如ク危害現實ニ存シタリトハ既ニ危害ヲ蒙リタル場合ニシテ最早自救權ヲ行使スルモ益ナク又之ヲ行使スル能ハス自救權ノ作用ハ寧ロ目下以後危險ノ存スル恐アル確實性アル場合ニ其ノ必要ヲ認ムルモノナルコトハ今更呶々ヲ要セサル所ナリト思料ス苟クモ目前危害發生シ居ラストスルモ目下ヨリ直チニ將來ニ向ツテ危害ノ發生スルコトノ確實性アルニ於テ自救權ノ發動ハ之ヲ認容セサルヘカラサルコト勿論ナリト云ハサルヘカラス況ンヤ洪水ノ如キハ其ノ實現ノ時機極メテ不明ニ屬シ直チニ實現スルヤモ知レスコノ洪水ニ對シ單ニ將來水害ヲ生スル惧アリトノ理由ニテハ自救權ノ發動ヲ認メ難シト云フニ在リテハ其ノ理由ノ不備甚シク到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニアレトモ原判示事實ニ依レハ被告人等ハ判示コンクリート製堰堤ノ築造ニ對シ水害ヲ來タス虞アリト爲シ判示ノ如キ損壞行爲ヲ爲シタルモノナレハ所謂自救權ノ行使ニ非サルコトヲ判示シタルモノト謂フヘク從テ原判決ニハ所論ノ如キ理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

慣行竝規約ニ反シ築造セラレタル堰堤ノ損壞ト刑法第三十五條竝暴力行爲等處罰ニ關スル法律

○尊屬殺人殺人未遂被告事件（昭和十年（れ）第七二三號 同年七月二十五第二刑事部判決 棄却）

【上告人】被告人 八瀨久吉 辯護人 緒方弘

【第一審】和歌山地方裁判所 【第二審】大阪控訴院

○判示事項

鑑定人ノ自ラ定メタル日時場所ト檢事辯護人ニ對スル通知

○判決要旨

裁判所受命判事受託判事カ自ラ立會ヲ爲スノ必要ナシト認メ立會ヲ爲スヘキ日時及場所ヲ定メサル場合ニ於テ鑑定人カ便宜定メタル鑑定ノ日時場所ハ刑事訴訟法第百五十九條ニ依リ通知スルコトヲ要セス

【參照】刑事訴訟法第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同法第百五十九條 押收又ハ搜査ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條 規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限リ在ラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十年ニ處ス押收ノ剃刀一挺（證第二號）ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ生來嫉妬心極メテ强ク妻ヲ換ユルコト數次其ノ他數名ノ婦女ト同棲セシモ概ネ悋氣ノ爲之ヲ離別シタルカ昭和六年頃カヨト結婚シ數十年前被告人等父子ヲ遺棄シ逃走セル實母藤田ひさの（萬延元年八月生）カ病臥セルヲ聞知シ昭和九年五月妻ト共ニ同人ヲ迎ヘ孝養シ居リタル處翌月十九日右兩名ヲ伴ヒ大阪市ヨリ肩書地ニ轉居シ株式現物店ヲ開業シ大野祿三郎（當三十年）ヲ店員トシテ住込マシメタルカ右轉居當時ヨリカヨカ祿三郎ト密通セルモノト邪推シ同月二十二日遽ニ祿三郎ヲ解雇シカヨハ離別スルコトト爲シタルカ同月二十五日ノ夕刻祿三郎カカヨヲ訪ネ來ルモノト推斷シ嫉妬ノ情禁シ難キ折柄同夜午後九時過頃自宅奥六疊ノ間ニ於テカヨノ肩先ニ手拭ヲ掛ケ揉ミ居タル際偶其ノ肉體ニ接觸シ同人ト祿三郎トノ密通狀態ヲ想起シ憤懣ノ情ニ堪ヘスカヨヲ殺害センコトヲ決意シ突如右手拭ニテ其ノ頸部ヲ絞扼シ更ニ剃刀（證第二號）ヲ以テ左右ノ手腕關節部ニ斬付ケ因テ同人ヲ殺害シタルモノト速斷シ斯クテハ自己モ亦死ヲ免レサルヘク寧ロ中風症ノ爲臥床シ萬事人手ヲ要スル實母ひさのヲモ殺害シ同人ヲシテ病苦ヲ免レシムルト共ニ弟等ニ煩累ヲ遺ササランコトヲ決意犯意繼續ノ上ひさのノ頸部ニ斬付ケ前頸部左側ニ長サ十五糎深サ四糎

ニ達スル大切創ヲ負ハシメ同人ヲシテ總頸動脈切斷ニ因ル急性大出血ニ因リ即死セシメタルモカヨニ對シテハ左右ノ手腕關節部ニ治療約三週間ヲ要スル切創ヲ負ハシメタルニ止リ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

而シテ被告人ハ本件犯行當時心神耗弱ノ狀況ニ在リタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中尊屬殺人ノ點ハ刑法第二百條ニ殺人未遂ノ點ハ同法第二百三條第百九十九條ニ該當スル處以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ一罪ト爲シ重キ前者ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中無期懲役ヲ選擇シテ處斷スヘキ處被告人ハ心神耗弱者ナルカ故ニ同法第三十九條第二項第六十八條第二號ニ依リ法律上ノ減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處スヘク押收物件中主文掲記ノ剃刀一挺（證第二號）ハ本件犯行ノ用ニ供シタル被告人ノ所有物ナルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ全部負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人緒方弘上告趣意書第二點ハ原判決ハ不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタル違法アルモノトス原審ハ第一回公判ニ於テ辯護人ノ鑑定ノ申請ヲ採用シ鑑定人ハ小南又一郎ヲ選定シタル上第二回公判ニ於テ同人ニ對シ宣誓ノ上被告人ノ本件犯行當時ニ於ケル精神狀態ニ付鑑定スヘキ旨命シ必要ニ應シテ北區刑務支所ニ於テ被告人ヲ診察シ尙本件記錄ヲ閲覽スルコトヲ許容シ鑑定ノ結果ハ鑑定書ヲ以テ報告スヘキ旨命シタルニ依リ同鑑定人ハ本件鑑定ヲ爲スニ至リタルモノナリ然レトモ本件鑑定人ノ鑑定ニ當リテハ檢事及辯護人ニ對シ其ノ鑑定ヲ爲スヘキ日時及場所ヲ通知シタルコトナシ即刑事訴訟法等二百二十七條ニハ檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會スルコトヲ得ト規定シ同條第二項ニ依リ準用セラルヘキ第百五十九條ニ依レハ鑑定ヲ爲スヘキ日時及場所ハ急速ヲ要スル場合ノ外豫メ檢事及辯護人ニ通知スヘキコト明白タリ然ルニ原審記錄ヲ閲スルニ同鑑定人ハ大阪刑務所北區刑務支所ニ於テ昭和十年二月二十二日三月一日三月八日及三月十八日ノ四回ニ亙リ被告人ノ檢診ヲ爲シタル結果本件鑑定書ヲ作成シタルモノナレトモ同鑑定ヲ爲スニ際シテハ何等檢事及辯護人ニ鑑定ノ日時及場所ヲ通知セサリシコト歷然タリ抑々辯護人ノ有スル鑑定立會ノ權限ハ辯護人カ其ノ資格ニ於テ當然保有スル所ノ固有ノ權利ニシテ辯護人ハ之ニ依リ被告人ノ利益ノ爲ニ鑑定ニ要スル材料ノ調査提供ヲ爲シ或ハ鑑定ノ經過ヲ知悉シ該鑑定カ適切公平ニ履踐セラレタリヤ否ヤ卽證據資料タル鑑定ノ價値ヲ知悉シ置クヘキ必要アルカ故ナリトス斯ル立會ノ權限ヲ許容シタル以上當然鑑定ノ日時及場所ハ之ヲ通知スヘク而シテ其ノ立會ノ機會ヲ與ヘサルヘカラサルハ多言ヲ要セサル所ナリトス然ルニ拘ラス本鑑定ニ於テ前記ノ如ク事茲ニ出テサリシハ畢竟辯護人ノ辯護權ノ行使ヲ不法ニ制限シタルモノト云フヘク原判決ハ破毀セラルヘキモノト信スト云レニ在レトモ

刑事訴訟法第二百二十七條第二項ハ裁判所又ハ受命判事受託判事カ鑑定ニ立會フ場合ニ於テハ其ノ日

時及場所ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ裁判所又ハ受命判事受託判事カ鑑定人ノ爲ス鑑定材料ノ蒐集又ハ鑑定ヲ爲ス經過等ニ付自ラ立會ヲ爲スノ必要ナシト認メ立會ヲ爲スヘキ日時及場所ヲ定メサル場合ニ於テ鑑定人カ其ノ都合上定メタル鑑定ノ日時場所ハ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スルノ要ナキモノトス本件鑑定人カ鑑定材料トシテ所論被告人ヲ檢診シタルトキハ裁判所之ニ立會ハサリシモノナレハ其ノ日時場所ニ付所論ノ如ク通知ナキモ何等違法ノ點ナク論旨ハ理由ナシ（其ノ他上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【要旨】

檢事池田克關與

○縣會議員選擧罰則違反被告事件（昭和十年（れ）第七二四號 同年七月二十六日第四刑事部判決 棄却）

【上告人】被告人　尾崎虎雄

辯護人　濱田國松　星島二郎　深谷茂　吉岡榮八　原木莊治　外一名

【第一審】岡山地方裁判所【第二審】廣島控訴院

○判示事項

被疑者ノ氏名記載ナキ證人訊問調書ノ效力——衆議院議員選擧法第百十五條第二號ノ適用

○判決要旨

一强制處分ニ依ル證人訊問調書ニ被疑事件ヲ表示スルニ當リ被疑者ノ氏名ヲ明記セサルモ其ノ調書ノ內容ニ依リ被疑者ノ何人ナルカヲ知リ得ルニ於テハ該調書ハ無效ニ非ス【要旨第一】

二衆議院議員選擧法第百十五條第二號ノ規定ハ苟モ選擧ニ關シ不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害スルニ於テハ其ノ目的ノ如何ニ拘ラス總テ之ヲ處罰スルノ趣旨ナリトス【要旨第二】

【參照】刑事訴訟法第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

被疑者ノ氏名記載ナキ證人訊問調書ノ效力　衆議院議員選擧法第百十五條第二號ノ適用

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事、又ハ飜譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

衆議院議員選擧法第百十五條　選擧ニ關シ左ノ各號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧人、議員候補者議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ

二　交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害シタルトキ

三　選擧人、議員候補者議員候補者タラムトスル者、選擧運動者若ハ當選人又ハ其ノ關係アル社寺學校會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ選擧人、議員候補者議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ヲ威迫シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ六十日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和九年八月二十日施行セラレタル岡山縣兒島郡選擧區ニ於ケル同縣會議員脇本良夫ノ死亡ニヨル闕員一名ニ付テノ補闕選擧ニ當リ無投票ニテ當選シタルモノニシテ該選擧ニ付キ立候補スルニ當リ前議員脇本カ中立ナリシ關係上被告人モ亦中立ニテ立候補シ無投票ニテ當選セン"コトヲ望ミ居リタルトコロ同年七月二十六日頃同郡藤戸町星島邸ニ於テ政友會代議士星島二郎ト會見シタル際平野最太郎モ亦立候補ノ意思アルヲ聞キ同代議士及同席シタル政友會員ニシテ縣會議員ナル三宅千秋ニ對シ平野ヲシテ立候補ヲ斷念セシムル樣盡力方ヲ依賴シタルトコロ星島代議士ヨリ被告人ヲ支援スルニ付テハ政友會ニ入會スルヲ便宜ナリトスルノ故ヲ以テ其ノ入會ヲ勸誘セラレタルヨリ之ヲ承諾シ入會申込書(證第二號)ニ署名拇印シタル上同代議士ニ交付シ且之ヲ政友會ニ提出スル時期ヲ一任シタリ而シテ平野最太郎ハ同代議士ノ斡旋ニヨリ立候補シタルモ八月七、八日頃他方民政黨側ニ在リテ被告人ヲ政友會側ヨリ立候補シタルモノト思惟シタル爲高島史岳カ民政黨岡山支部ノ支持ヲ得テ立候補セントスル情勢アルコトヲ聞知スルヤ被告人ハ無投票當選計畫ニ蹉跌ヲ來スヘキニヨリ前記ノ如ク政友會トハ密接ナル關係ヲ有スルニ至レルニモ拘ラス之ヲ祕シ飽ク迄嚴正中立ナリト詐稱シテ高島ヲモ立候補ヲ斷念セシメンコトヲ企テ同月九日午前中自己ノ選擧事務長難波信太郎ヲ岡山市所在ノ民政黨岡山支部ニ遣ハシ同支部ノ幹部ニ自己ハ嚴正中立ナルニヨリ民政黨岡山支部ニ於テモ候補者ヲ擁立スルコトナク無投票ニテ當選ヲ得シメラレ度キ旨虛僞ノ事實ヲ告ケテ懇請セシメ更ニ同日午後被告人肩書居宅ニ於テ右民政黨支部ヨリ尙被告人ノ眞意ヲ確メン爲特ニ來訪シタル幹部森末繁雄　永山久吉外二名ニ對シ故ラニ前記政友會トノ關係ヲ祕シ「自分ハ嚴正中立ニシテ政友系中立ニアラス不偏不黨ナル」旨虛僞ノ聲明ヲ爲シ以テ同人等ヲ通シ高島史岳ヲシテ被告人カ眞實嚴正中立ナル旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ卽日選擧長ニ候補辭退ノ屆出ヲ爲サシメ以テ右詐術ニ因リ高島史岳ノ選擧ノ自由ヲ妨害シタルモノナリ

被疑者ノ氏名記載ナキ證人訊問調書ノ效力　衆議院議員選擧法第百十五條第二號

法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十五條第二號ニ該當スルヲ以テ其ノ罰金刑ヲ選擇シ主文ノ刑ヲ量定處斷シ刑法第十八條ニ則リ罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置日數ヲ定メ訴訟費用ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ之ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

判決要旨第一點ニ關スル事實關係ハ辯護人濱田國松外二名上告趣意書第一點及之ニ對スル說明中ニ揭クル所ノ如シ

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人濱田國松　星島二郎　深谷茂上告趣意書第一點原判決ハ其ノ證據說明ノ部ニ「被告人尾崎虎雄ニ對スル縣會議員選擧罰則違反被疑事件ノ證人三宅千秋ニ對スル豫審判事ノ訊問調書（記錄七一丁以下）ニ其ノ供述トシテ證第二號ノ入會申込書ハ尾崎カ立候補シテ援助ヲ受クル爲入會ヲ勸メラレ入會ノ決心ハナシタルモ其ノ時期ハ星島代議士ニ一任シタリト云フ關係上日附ヲ入レサリシモノト思フ旨ノ記載　ト說明シタリ然ルニ同證人訊問調書（記錄七一丁以下）ヲ閱スルニ「證人三宅千秋右縣會議員選擧罰則違反被疑事件ニ付昭和九年九月十七日岡山地方裁判所ニ於テ豫審判事甍傳ハ裁判所書記服部勝太郎立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ……豫審判事ハ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ

【要旨第一】

該當スルモノナリヤ否ヤヲ取調ヘ之ニ該當セサルコトヲ認メ僞證ノ罰ヲ告ケ宣誓ヲ爲サシメタリ」ト記載シアリテ豫審判事ハ右證人ニ對シ何ノ誰ニ係ル縣會議員選擧罰則違反被疑事件ニ付證人トシテ訊問シタルモノナリヤ又被疑者何ノ誰トノ關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシメタルモノナリヤヲ知ルニ足ル記載ナシ從テ同證人訊問調書ハ無效ノセノナリトス然ルニ之ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ所論證人訊問調書ヲ査スルニ該調書ニハ右縣會議員選擧罰則違反被疑事件トノミ記載シアリテ被疑者尾崎虎雄ノ氏名ノ記載ナキコト洵ニ所論ノ如シト雖右調書記載ノ內容ニ徵スレハ該證人ハ尾崎虎雄ニ對スル縣會議員選擧罰則違反被疑事件ニ關シ訊問セラレタルコト明瞭ナルニヨリ同調書ニ明記セル刑事訴訟法第二百一條等ニ依ル身分關係ノ問査ハ右證人ト被疑者虎雄トノ間ノ關係ニ付行ハレタルモノナルコトヲ認知スルニ足ルヲ以テ縱令所論調書中ニ被疑者虎雄ノ氏名ヲ明記スル所ナシトスルモ之カ爲該調書ヲ無效トスヘキモノニ非ス然レハ原判決カ右調書ヲ證據ニ引用シタレハトテ所論ノ如キ違法アリト云フヲ得ス論旨ハ其ノ理由ナシ

辯護人吉岡榮八　原木莊治上告趣意書第一點原判決ハ昭和九年八月九日午前中被告人ハ自己ノ選擧事務長難波信太郎ヲ岡山市所在ノ民政黨岡山支部ニ遣ハシ同支部ノ幹部ニ自己ハ嚴正中立ナルニヨリ氏政黨岡山支部ニ於テモ候補者ヲ擁立スルコトナク無投票ニテ當選ヲ得セシメラレ度キ旨虛僞ノ事實ヲ

被疑者ノ氏名記載ナキ證人訊問調書ノ效力　衆議院議員選擧法第百十五條第二號ノ適用

告ケテ懇請セシメ更ニ同日午後被告人肩書居宅ニ於テ右民政黨支部ヨリ尙被告人ノ眞意ヲ確メン爲特ニ來訪シタル幹部等ニ對シ故ラニ前記政友會トノ關係ヲ祕シ「自分ハ嚴正中立ニシテ政友系中立ニ非ス不偏不黨ナル」旨虛僞ノ聲明ヲ爲シ以テ同人等ヲ通シ高畠史岳ヲシテ被告人カ眞實嚴正中立ナル旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ卽日選擧長ニ候補辭退ノ屆出ヲ爲サシメ以テ右詐術ニ依リ高畠史岳ノ選擧ノ自由ヲ妨害シタルモノナリト做シ依テ府縣制第四十條衆議院議員選擧法第百十五條第二號ニ該當スル犯罪ナリト認定セラレタルモノナリ仍テ同法中罰則條項ヲ案スルニ議員候補者タルコトヲ止メシムル行爲ニ付テハ特ニ同法第百十三條第一、二號ノ處罰規定ヲ存スル所ナリ而シテ本件ハ同條號ニ該當セサルコト明カナリトス又選擧人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選擧運動者又ハ當選人ニ對スル場合ノ犯罪態樣ニ關シテハ同法第百十五條第二號ニ於テ特定シ夫等ノ者ニ對シ選擧ノ自由妨害ヲ爲シタル場合ヲ處罰スル旨ヲ規定シタルモノナレハ同條第二號ハ斯ル者ニ對スル選擧ノ自由ヲ妨害シタル行爲ヲ除外シ不特定人ヲ對象トシタル一般的場合ノ犯行ニ係ルモノニ止マルト解セラル然ラハ結局本件ハ罪ヲ構成セサルモノナルヲ以テ原判決ハ法令ニ違反シタルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

衆議院議員選擧法第百十五條第二號ハ同條第一號及第三號ノ場合ト異ナリ其ノ選擧人議員候補者議員候補者タラムトスル者選擧運動者又ハ當選人ニ對スルト否トヲ問ハス苟モ選擧ニ關シ交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選擧ノ自由ヲ妨害スルニ於テハ投票ヲ得ルノ目的ノ有無議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ニ出テタルト否等總テ其ノ目的ノ如何ニ拘ラス之ヲ處罰スルノ趣旨ニシテ所論ノ如ク敍上特記ノ者ヲ除外シタル不特定人ヲ對象トシタル犯行ニ係ルモノニ止マルモノニ非ス又同法第百十三條第一號ハ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル等ノ目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者等ニ對シ金錢其ノ他ノ利益ノ供與ヲ爲ス等同法第百十二條第一號又ハ第二號ニ揭クル行爲ヲ爲シタル者ヲ又同法第百十三條第二號ハ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト等ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タラムトシタル者等ニ對シ金錢其ノ他ノ利益ノ供與ヲ爲ス等同法第百十二條第一號ニ提クル行爲ヲ爲シタル者ヲ各處罰スルノ趣旨ナルヲ以テ右第百十二條第一號又ハ同第二號ニ揭クル行爲以外ノ行爲タル僞計詐術等不正ノ方法ヲ以テ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシメ選擧ノ自由ヲ妨害スルニ於テハ該行爲カ前揭法第百十五條第二號ノ罰則ニ觸ルルコトハ何等妨ケアルコトナク同條ト前揭法第百十三條第一號第二號トハ互ニ牴觸スルコトナシ然リ而シテ原判決ノ認定セル事實ハ論旨所揭ノ如ク被告人カ判示ノ如ク縣會議員候補者タラムトセル高畠史岳ヲシテ判示ノ如キ詐術ニ因リ其ノ立候補ヲ止メシメ同人ノ選擧ノ自由ヲ妨害シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人ノ右判示行爲カ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル敍上衆議院議員選擧法第百十五條第二號ニ該當スルコト勿論ニシテ原判決カ之ヲ同法條ニ問擬

被疑者ノ氏名記載ナキ證人訊問調書ノ效力　衆議院議員選擧法第百十五條第二號ノ適用

處斷シタルハ固ヨリ正當ナリ論旨ハ其ノ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○公選投票收賄被告事件（昭和十年（れ）第七三一號　一部事實審理　同年七月三十日第四刑事部判決　一部棄却）

【上告人】　被告人　板谷寅之助　森田信太郎　辯護人（中井一夫　關浩）

【第一審】　篠山區裁判所　【第二審】　神戸地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第三百五十三條ノ適用

○判決要旨

開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公開手續ヲ停止シタル場合ハ勿論被告人ノ不出頭其ノ他如何ナル事由ニ基クヲ問ハス苟モ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニハ公判手續ヲ更新スヘキモノトス

【參照】　刑事訴訟法第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

○事實

判示關係事實ハ判決理由所掲ノ如シ

○主文

被告人板谷寅之助ニ對スル本件被告事件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

被告人森田信太郎ノ本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人板谷寅之助辯護人中井一夫　關浩上告趣意書第一點原判決ハ公判手續ヲ更新スヘキ事由アルニ拘ラス更新ヲ爲ササル違法アリ破毀ヲ免レサルモノトス原審記錄ヲ査スルニ原審第二回公判期日タル昭和十年三月十一日ニハ被告人出廷審理ヲ受ケタルモ昭和十年三月二十日ノ第三回公判期日ニハ被告人板谷ハ出廷セス同人ノ辯護人亦出廷セス（同被告人ノ辯護人ハ長岡時光　中井一夫　岡邊正男　宮原忠太郎ノ四氏ナルコトハ記錄上明白ナリ）故ニ同日ノ右公判期日タルコトハ明瞭ナルモ被告人ノ公判期日タリ得ス或ハ曰ハン右期日ハ他ノ相被告ト共ニ被告人ノ爲ニモ公判ヲ開廷シタリト果シテ然ラハ此

點モ亦法律違反ナリ蓋シ刑事訴訟法ニ於テハ被告人缺席ノ儘公判ヲ開ク事ヲ得サルヲ原則トス唯例外トシテ罰金以下ノ刑ニ當ル事件ニ代理人ヲ出頭セシメ得ルコト（三百三十一條）罰金以下ノ刑ニ當ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人ノ陳述ヲ聞カスシテ裁判ヲ爲シ得ルニ過キス此他公判期日ニ被告人任意退廷シ又ハ法廷警察權ニヨリ裁判長ヨリ退席ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聞カスシテ判決ヲ爲シ得ルニ過キス而シテ被告人カ期日ニ出頭セサル場合ニ尙任意退廷ト同一視シテ公判期日ヲ開キ得ヘキカト云フニ然ラス被告人ノ任意退廷ハ陳述ヲ肯セサルト同視スヘク其ノ本質ハ被告人ノ陳述ノ拒否ノ場合ニシテ此場合ハ止ムナク原則ヲ離レテ例外トシテ裁判ヲ爲シ得ルニ過キス之ニ反シ被告人期日ニ出頭セサル場合ハ期日ノ懈怠又ハ回避ニシテ强制力ヲ用ヒテ被告人ヲ法廷ニ出現セシメ陳述辯解ヲ爲サシメ得ルモノニシテ被告人在廷ノ本則ニ據リ眞實發見ニ適セシメ得ルモノニシテ辯論ノ拒否（三百六十六條）ト全ク本質ヲ異ニスルモノナリ故ニ本件ニ於テ被告人カ昭和十年三月二十日ノ公判期日ニ出頭セサル以上敍上ノ例外ノ何レニモ該當セサルニ因リ被告人ノ爲ニ公判期日ヲ開クニ由ナシ又裁判ヲ爲スニ由ナシ原審モ此點ヲ是認シ右期日ニ出頭セサル被告人ニ對シ昭和十年四日一日ノ公判期日ノ召喚狀ヲ發セリ（記錄一〇七一丁）故ニ昭和十年三月二十日ノ公判期日ハ他ノ相被告人ノ公判期日ニシテ絕對ニ被告人ノ公判ニ非ス尙右公判調書ニハ被告人ヲ他ノ相被告ヨリ分離スル旨ノ決定アリト雖右ハ被告人ノ公判期日カ開カレタル證左ニ非ス事件ノ分離併合ハ公判審理ノ便宜ニ出テ公判期日ニ於テ爲スヘキ限リニ非ス又被告人ノ在廷スルト否トニ關スルモノニ非ス卽チ原審カ公判開廷ノ違法ヲ敢テ爲シタルニ非サル以上被告人ノ爲ニハ原審ニ於テハ第一第二第四第五ノ公判期日開廷サレタルモノト言ハサルヘカラス然ルニ右第二回公判期日ハ昭和十年三月十一日第四回公判期日ハ昭和十年四月一日ニシテ兩公判期日ノ間ハ二十二日アリ所謂引續キ十五日以上公判期日ヲ開廷セサリシコトニ該當シ公判手續ヲ更新スヘキニ拘ラス昭和十年四月一日ノ公判調書ヲ見ルニ公判手續更新ノ事ナシ果シテ然ラハ原判決ハ公判手續ヲ更新スヘキ事由アルニ拘ラス更新セサリシモノナルニ因リ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ刑事訴訟法第三百五十三條ニ依レハ開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シタル場合ハ勿論其ノ他如何ナル事由ニ基クヲ問ハス苟モ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニハ當然公判手續ヲ更新セサルヘカラス故ニ若シ該法條ニ違反シ引續キ十五日以上開廷セサリシニ拘ラス公判手續ヲ更新セサリシ場合ニハ同法第四百十條第十六號ニ從ヒ常ニ上告ノ理由アルモノトス記錄ヲ査スルニ原審第二回公判ヲ開廷シタルハ昭和十年三月十一日ニシテ其ノ第三回公判ハ同月二十日ナリシモ同期日ニハ被告人板谷寅之助及辯護人共ニ出頭セス而シテ本件ハ被告人ノ出頭ナクシテ開廷シ得ヘキ事件ニ非サルヲ以テ原審ハ同被告人ニ對シ審理ノ手續ヲ爲サス更ニ期日ヲ指定シ同年四月一日ヲ第四回公判期日トシテ其ノ召喚狀ヲ發シ同日公判ヲ開廷シタルモノナルコト明ナルヲ以テ前示法條ニ所謂

引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ該當シ原審ハ須ラク其ノ公判手續ヲ更新セサルヘカラサルモノトス然ルニ原審第四回公判調書ニ依レハ所論ノ如ク毫モ公判手續ヲ更新シタル形跡アルコトナシ然レハ原審公判手續ハ前示刑事訴訟法第三百五十三條ニ違背シ同法第四百十條第十六號ニ依リ本論旨ハ其ノ理由アリ而シテ右ノ違法ハ本件事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキコト明白ナルヲ以テ原判決中同被告人ニ關スル部分ハ到底破毀ヲ免レサルモノトス本論旨ハ此ノ點ニ於テ理由アリ依テ爾餘ノ論旨ニ付テハ其ノ說明ヲ與フルノ要ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ被告人板谷寅之助ニ對シテハ刑事訴訟法第四百四十三條爾餘ノ被告人ニ對シテハ同法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク裁判ス

檢事樫田忠美關與

○商法違反公正證書原本不實記載行使被告事件

（昭和十年（れ）第七六二號　同年八月一日第二刑事部判決　棄却）

【上告人】　被告人　篠原惠作　辯護人　芳賀喬一　鈴木喜三郎　犀川久平　堀口行松　朱盛淇

【第一審】　東京區裁判所　【第二審】　東京地方裁判所

○判示事項

株式會社ノ設立ニ關スル虚僞ノ登記ト其ノ申請資格ナキ者ノ共犯

○判決要旨

株式ノ引受並株金拂込ノ未濟アルニ拘ラス株式總數ノ引受アリ且各株ニ付第一回ノ拂込アリタル旨ノ設立ニ關スル虚僞登記ノ犯罪ハ其ノ申請資格ナキ者ト雖其ノ資格アル者ト共謀シテ之ヲ遂行スルコトヲ得ルモノトス

【參照】　非訟事件手續法第百八十七條　株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

株式會社ノ設立ニ關スル虚僞ノ登記ト其ノ申請資格ナキ者ノ共犯

一　定款
二　株式ノ引受ヲ證スル書面
三　株式申込證
四　取締役及ヒ監査役又ハ檢査役ノ調査報告書及ヒ其附屬書類
五　檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
六　發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類
七　創立總會ノ決議錄

刑法第六十五條　犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

同法第百五十七條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和四年秋頃豫テ小塚貞義等カ發起人ト爲リ成田急行電鐵株式會社ヲ設立シ東京成田間ニ電氣鐵道ヲ敷設シ鐵道營業ヲ爲ス免許ヲ受ケ居ルコトヲ由井彦太郎ニ通シ右由井ハ伯爵松浦厚ヨリ之ニ投資スルコトノ承諾ヲ得テ爾來被告人ハ右由井　小塚及船津貞三等ト共ニ右會社設立ニ協力シ居タルトコロ同年十二月中同會社發起人小塚等ハ資本總額金一千萬圓株式總數二十萬株一株ノ金額五十圓第一回株金拂込額一株ニ付金五圓ト定メテ同會社ヲ設立スルコトト爲シタルカ當時右株式總數ノ引受ナク且第一回株金拂込ハ所定金一百萬圓ノ半額ニ滿タサル狀態ナリシヲ以テ其ノ頃東京市淺草區向柳原町二丁目一番地由井彦太郎自宅及同市麴町區丸之內二丁目十八番地昭和ビル內同會社創立事務所等ニ於テ前記由井　船津及小塚等ト同會社ノ設立及其ノ旨登記ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ株式總數ノ引受及資本ニ對スル所定拂込額ニ付其ノ創立總會ヲ欺罔シ更ニ其ノ旨虛僞登記ヲ爲サンコトヲ謀議シ共謀ノ上

第一　昭和四年十二月二十五日前示會社創立事務所ニ於テ同會社創立總會開催セラレタルカ之ニ先達チ被告人及前記由井　船津　小塚等ハ三橋金太郎龜割安藏他數名ヨリ手形等數通ヲ借入レ之ヲ引受株式ニ對スル株金拂込ノ爲ニ受取リタルカ如ク裝ヒ且被告人及船津ニ於テ第一回株金拂込領收書控ヲ作成シ之ヲ右事務所ニ備付ケ同總會ニ於テ由井彦太郎ハ專務取締役船津貞三ハ常務取締役ニ各選任セラレ他ノ役員ト共ニ同會社株式總數ノ引受及資本ニ對スル拂込額等ニ付調査ノ上報告ヲ爲スニ際シ同人等ハ其ノ當時眞實ノ同會社株式引受ハ僅ニ九萬五百株卽株式總數ノ約四割五分ニシテ其ノ內第一回拂込アリタルハ僅ニ八萬九千二百株合計四十四萬六千圓卽所定ノ第一回拂込總額一百萬圓ノ四割四分六厘ニ過キサルニ拘ラス株式總數ノ引受並各株ニ付金五圓宛合計一百萬圓ノ拂込アリタル旨虛僞ノ調査報告書ヲ作成シ之ニ基キ同總會ニ其ノ旨報告ヲ爲シ因テ同總會出席中ノ株主ニシテ右事情ヲ知ラサル香取鴻　岩井力三郎　岩井堯　大谷志善　鈴木博等ヲシテ其ノ旨誤信シ右報告ヲ承認セシメ以テ同總會ヲ欺罔シ

第二　昭和五年四月二十二日當時成田急行電鐵株式會社ノ株式中其ノ引受及第一回拂込アリタルハ九萬五百株之ニ對スル金四十五萬二千五百圓ニシテ其ノ餘ノ引受拂込ハ未濟ナルニ拘ラス右會社ノ役員タル由井彦太郎　船津貞三等

ハ前示被告人トノ共謀ニ基キ東京區裁判所ニ於テ同所登記官吏ニ對シ連署ヲ以テ同會社カ昭和四年十二月二十五日資本總額金一千萬圓一株ノ金額金五十圓各株ニ付拂込ミタル株金額金五圓ヲ以テ設立セラレタル旨虚僞ノ内容ヲ記載シタル登記申請書ヲ提出シ因テ同官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲シ即日之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ創立總會欺罔ノ點ハ商法第二百六十一條第一項第一號刑法第六十五條第一項ニ同第二ノ登記簿原本不實記載ノ點ハ刑法第百五十七條第一項第六十條ニ同不實ノ記載アル登記簿原本行使ノ點ハ同法第百五十八條第一項第百五十七條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ右第二ノ前後二個ノ所爲ハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ犯情重シト認ムル不實ノ記載アル登記簿原本行使ノ一罪トシ其ノ刑ニ從ヒ以上何レモ罰金刑ヲ選擇處斷スヘキトコロ右第一ノ罪ト第二ノ不實記載登記簿原本行使ノ罪トハ刑法第四十五條本文ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ則リ右各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額以下ノ範圍ニ於テ被告人ヲ罰金二百五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人芳賀喬一　鈴木喜三郎　犀川久平　堀口行松　朱盛洪上告趣意書第一點ハ原判決ハ非訟事件手續法第百八十七條ヲ看過シ爲ニ本件ニ付不法ノ認定ヲ爲シ被告人ニ對シ刑法第百五十七條第一項同第百五十八條第一項ヲ適用處斷シタル違法アリト謂ハサルヘカラス即チ株式會社ノ設立登記申請ハ非訟事件手續法第百八十七條ニ由リ取締役監査役カ其ノ連署ヲ以テ爲スヘキモノニシテ右資格ナキモノノ如キハ登記申請ニ參與スヘキモノニ非サルノミナラス法律上之ニ關與シ得ヘカラサルモノナリ然リ而シテ被告人ハ成田急行電鐵株式會社ノ發起人ニ非ス取締役監査役ニモ非サルヲ以テ右成田急行電鐵株式會社ノ登記申請ニ當リ之カ書面ニ連署スルトカ其ノ他何等カ關與シ得ヘキ關係ニアリタルモノニ非ス故ニ右登記申請ニ付被告人ハ何等相關係セサリシコトハ本件一件記錄全體ニ徵シ明白疑ナキトコロナリ然ルニ原判決理由第二ニ依レハ中略「前示被告人トノ共謀ニ基キ東京區裁判所ニ於テ同所登記官吏ニ對シ連署ヲ以テ同會社カ昭和四年十二月二十五日資本總額金一千萬圓一株ノ金額五十圓各株ニ付拂込ミタル株金額金五圓ヲ以テ設立セラレタル旨虚僞ノ内容ヲ記載シタル登記申請書ヲ提出シ因テ同官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲シ即日之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ」ト判定セラレタリ然レトモ前述ノ如ク被告人ハ取締役監査役ニ就任シタルモノニ非サルヲ以テ登記申請書ニ連署スヘキ筈ナク法律上ニ於テモ又之ヲ爲シ得ヘカラサル所ナリ或ハ右理由ニ所謂連署トハ被告人篠原惠作ヲ指シタルモノニ非スシテ相被告人タリシ由井彦太郎等ノ連署ヲ云フモノナリト解センカ然ラハ被告人カ右登記申請ニ付如何ナル行爲ヲ爲シタリト謂フニアルカ按スルニ刑法第百五十七條第一項ノ公務員利用ノ無形文書僞造罪ハ（イ）公務員ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ爲スコト（ロ）善意ノ公務員

ヲシテ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルコトニ依テ成立スル犯罪行爲ナルカ故ニ同罪ノ著手アリトナスニハ公務員ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ具體的ニ爲スカ少クモ此ノ具體的ノ虚僞陳述ト不可分的ノ行動ヲ開始セサルヘカラス果シテ被告人篠原ニ斯ノ如キ行爲又ハ他ノ被告人ノ右ノ如キ行爲ニ加功參與シタルノ行動アリヤ如何此ノ點ニ關シ原裁判所ノ援用シタル證據ニ依レハ四、檢事ノ由井彦太郎ニ對スル第一回聽取書ニ同人ノ供述トシテ前略「其ノ後其ノ設立登記ヲ昭和五年四月頃爲シタルカ夫等ノ仕事ハ主トシテ常務取締役船津貞三カ芳賀辯護士ト致シタルコトニテ自分等役員ハ其ノ虚僞登記申請書ニ印ヲ押シタルニヨリ大部分ハ其ノ事情ヲ知リ居タル旨ノ記載」トアリテ被告人惠作ハ右登記申請ニハ反ツテ無關係ナリシコトヲ證明スルニ足レリト謂フヘシ此ノ事ハ由井彦太郎ノ供述ヲ俟ツ迄モナク法律上當然ノ事ニ屬スルナリ蓋シ前述ノ如ク被告人篠原ハ成田急行電鐵株式會社ノ役員ニ非サルヲ以テナリ尤モ被告人惠作ニ付最モ不利益ナル證據材料ニ依レハ被告人ハ他ノ人々ト共ニ成田急行電鐵株式會社ノ創立總會ヲ通過セシメ併セテ設立登記ヲ爲スコトノ相談ヲ爲シタリト謂フニアルヲ以テ此ノ時ニ於テ虚僞登記ニ關スル犯罪ノ共謀著手アリシモノノ如ク觀ラルルノ觀ナキニ非スト雖元來登記ヲ爲スト謂フ目的ハ總會欺罔罪ノ成立要件ナルヲ以テ同罪ニ吸收セラレ從ツテ登記ヲ爲スト謂フ相談ノミヲ以テ當然ニ更ニ刑法第百五十七條第一項ノ成立ヲ招來スルモノニアラスト斷セサルヘカラス卽チ被告人惠作ノ行爲ヲ最大不利益ニ解シタリトテ同人ノ行爲ハ之ヲ刑法第百五十七條第一項虚僞登記罪ヨリスレハ縱令犯罪行爲ナリトスルモ輕キ豫備ノ程度ニ過キサルヲ以テ被告人惠作ニ對シ刑法第百五十七條第一項同法第百五十八條第一項ヲ適用處斷シタル原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルカ理由不備又ハ其ノ齟齬アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト謂ハサルヘカラスト云フニアリテ

【要旨】

株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘキモノナルコト論旨所論ノ如シ然レトモ其ノ申請ノ資格ナキモノト雖其ノ會社ノ設立登記ヲ爲スコトニ付事實上又ハ法律上相當ノ利害關係ヲ有スル者アリ夫等ノ者カ申請資格アル者ヲシテ株式ノ引受並株金拂込ノ未濟アルニ拘ラス株式總數ノ引受アリ且各株ニ付第一回ノ拂込アリタルモノトシテ登記申請ヲ爲スヘキ事ヲ敎唆スルコトアリ得ヘク又之等ノ者ト共謀スルコトアリ得ヘシ而シテ共謀シタル場合ニアリテハ申請資格者ハ其ノ共同ノ犯意ヲ實行スルモノナレハ申請ノ適格ヲ有セサルノ故ヲ以テ犯意ノ遂行ヲ爲シ得サルモノト謂フヲ得ス刑法第六十五條第一項ハ此ノ理ヲ示シタルモノニ外ナラス原判決ノ判示事實ニ依レハ被告人ハ昭和四年秋頃豫テ小塚貞義等カ發起人トナリ成田急行電鐵株式會社ヲ設立シ東京成田間ニ電氣鐵道ヲ敷設シ鐵道營業ヲ爲ス免許ヲ受ケ居ルコトヲ由井彦太郎ニ通シ由井ハ伯爵松浦厚ヨリ之ニ投資スルコトノ承諾ヲ得爾來被告人ハ右由井　小塚及船津貞三等ト共ニ右會社設立ニ協力シ居タルトコロ同年十二月中同會社發起人小塚等ハ資本總額一千萬圓株式總數二十萬株一株ノ金額五十圓第一回株金拂込額一株ニ付金五圓ト定メ同會社ヲ設立スルコトト爲シタルカ當時右株式總數ノ引受ナク且第一

回株金拂込ハ所定金一百萬圓ノ半額ニ滿タサル狀態ナリシニ拘ラス由井　船津及小塚等ト同會社ノ設立及其ノ旨ノ登記ヲ爲ス目的ヲ以テ右株式總數ノ引受及資本ニ對スル所定ノ拂込額ニ付其ノ創立總會ヲ欺罔シ更ニ其ノ旨ノ虚僞登記ヲ爲サムコトヲ謀議シ共謀ノ上第一、被告人及由井　船津　小塚等ハ三橋金太郎　龜割安藏其ノ他數名ヨリ手形等數通ヲ借入レ之ヲ引受株式ニ對スル株金拂込ノ爲ニ受取リタル如ク裝ヒ且被告人及船津ニ於テ第一回株金拂込領收證控ヲ作成シ之ヲ同會社設立事務所ニ備付ケ昭和四年十二月二十五日同事務所ニ於テ開催セラレタル創立總會ニ於テ由井ハ專務取締役船津ハ常務取締役ニ各選任セラレ他ノ役員ト共ニ同會社株式總數ノ引受及資本ニ對スル拂込額等ニ付調査ノ上報告ヲ爲スニ際シ眞實株式ノ引受アリタルハ九萬五百株ニシテ卽株式總數ノ約四割五分其ノ內第一回ノ拂込アリタルハ八萬九千二百株合計四十四萬六千圓卽所定ノ第一回拂込總額一百萬圓ノ四割四分六厘ニ過キサルニ拘ラス株式總數ノ引受竝各株ニ付金五圓宛合計一百萬圓ノ拂込アリタル旨虚僞ノ調査報告書ヲ作成シ之ニ基キ同總會ニ其ノ旨報告ヲ爲シ因テ同總會出席中ノ株式引受人（原判決ニ株主トアルハ誤記ト認ム）ニシテ右事情ヲ知ラサル香取鴻　岩井力三郎　岩井堯　大谷志善　鈴木博等ヲシテ其ノ旨誤信シ右報告ヲ承認セシメ以テ同總會ヲ欺罔シ第二、昭和五年四月二十二日當時右會社ノ株式中其ノ引受及第一回ノ拂込アリタルハ九萬五百株之ニ對スル金四十五萬二千五百圓ニシテ其ノ餘ノ引受竝拂込ハ未濟ナルニ拘ラス右會社ノ役員タル由井竝船津等ハ前掲被告人トノ共謀ニ基キ東京區裁判所登記官吏ニ對シ連署ヲ以テ同會社カ昭和四年十二月二十五日資本總額一千萬圓一株ノ金額金五十圓各株ニ付拂込ミタル株金額金五圓ヲ以テ設立セラレタル旨虚僞ノ內容ヲ記載シタル登記申請書ヲ提出シ因テ同官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲シ卽日之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモノニシテ其ノ事實ハ原判決引用ノ證據ニ依リ之ヲ認ムルニ足ルサレハ被告人ハ原判決擬律ノ罰條ニ依リ其ノ罪責ヲ免レス要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルコトナク又理由不備理由齟齬ノ違法モ存在セス論旨理由ナシ

同第二點ノ原裁判所ハ創立總會ノ本質ヲ誤リ延イテ商法第二百六十一條ニ依ル犯罪ハ總會欺罔罪ナルニ拘ラス株主欺罔罪ナルカ如ク誤解シ被告人篠原惠作ヲ右法條ニ該當スルモノト斷定シタル法律違背ノ不法アリ卽チ本件成田急行電鐵株式會社ハ所謂募集設立ナルヲ以テ（一件記錄ニヨリテ明ナル通リ）商法第百三十九條ニ據リ創立總會ノ終結ニヨリ同株式會社ノ成立ヲ見茲ニ始メテ株主ナルモノヲ生スルニ至ルモノナルコトハ右商法ノ規定ニ徵シ疑ヲ容レサルトコロナリ然ルニ原裁判所ハ其ノ理由ニ於テ「同總會出席中ノ株主ニシテ右事情ヲ知ラサル香取鴻　岩井力三郎　岩井堯　大谷志善　鈴木博等ヲシテ其ノ旨誤信シ右報告ヲ承認セシメ以テ同總會ヲ欺罔シ云々」ト說キ已ニ業ニ成田急行電鐵株式會社ノ創立總會ニ出席シタル右ノ者等ハ株主トシテ出席シタルモノナルカ如ク誤解シタルヲ始メトナシ左ノ如キ擬律錯誤ノ違法ヲ敢テセルモノナリ（イ）商法第二百六十一條第一項第一號ハ其ノ規定自體ニ徵シ明日ナルカ如ク總會ヲ欺罔スルコトニ依ツテ成立スルモノニシテ個々ノ株主又ハ株式引受人ヲ欺罔スルニヨツテ構成スル犯罪ニアラス（ロ）故ニ株主又ハ株式引受人ノ全部カ其ノ報告ノ虚僞ナルコトヲ知ル場合ニハ決シテ同罪ノ成立スルコトナシト解セサルヘカラス（ハ）然ラハ株主又ハ株式引受人中ノ一人一株ノ權利者ノミ善意ニシテ其ノ他ノ出席株主又株式引受人

ノ全體カ惡意ナリシ時卽虛僞報告ナル事ヲ知レル時ト雖尙且商法第二百六十一條第一項第一號ノ總會欺罔罪成立スルニ至ルカ同條ハ前述ノ如ク總會欺罔罪ニシテ株主又ハ株式引受人ヲ欺罔スルノ犯罪ニ非サルヲ以テ本問ノ場合ハ其ノ成立ヲ否定セサルヘカラス（ニ）商法第二百六十一條第一項第一號ノ犯罪ハ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキトアリテ同法第二百六十二條第一項第一號總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキニ成立スル可罰行爲トヲ區別シタル法意ニ徵スルトキハ右ノ所論ハ益々其ノ理由ト根據トヲ有スト爲ササルヘカラス以上ノ點ニ關シ大審院カ大正十四年（れ）五八七號同年六月九日刑事第六部ニ於テ言渡シタル判決要旨ニ依レハ創立總會カ欺罔セラレタリト爲スニハ出席シタル株式引受人全員カ欺罔セラレタルコトヲ要セス創立總會カ或事項ニ付欺罔セラレタリト爲スニハ其ノ總會ニ出席シタル株式引受人ノ議決權ノ過半數ニ相當スル者カ欺罔セラレタルニ依リ總會ノ決議アルニ至リタルコトアルヲ以テ足リ必スシモ出席者全部カ欺罔セラレタルコトアルヲ要スルモノニ非サルモノトス云々トアリ（ホ）然ラハ本件ニ於テ成田急行電鐵株式會社ノ創立總會カ欺罔セラレタリト爲スニハ商法第百三十一條第二項ニ依リ二十萬株ノ半額十萬株ニ對スル引受人カ出席シ其ノ過半數ノ議決權ニ依リ一切ノ決議ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ少クモ五萬一株ノ株式引受人カ善意ナリシコトノ事實ヲ確メ同總會カ欺罔セラレタルモノナルコトヲ證據ニ依リテ認定セサルヘカラス然ルニ原判決ハ事茲ニ出テス漫然被告人惠作ニ前記法條ニ依ル罪責アリト斷定シタルハ甚タ不法ナリ（ヘ）原裁判所カ被告人ニ付總會欺罔ノ罪責アリトシタル論據ニ從ヘハ善意ノ株主香取鴻外四名ノ者カ欺罔セラレタリト云フニ在レトモ同人等ハ孰レモ發起人トシテ右創立ニ參與シタル人々タルノミナラス大谷志善ノ一千株ノ他ハ各々百株ノ株式引受人ニ過キサルヲ以テ合計僅カニ一千四百株ノ株式引受人カ欺罔セラレタルニ止マル故ニ本件ニ蒞ムニ商法第二百六十二條ヲ以テスルハ格別同法第二百六十一條第一項第一號ニ問擬シタル原判決ハ違法ナリト云フヘク且又之ヲ出席者ノ數ノ方面ヨリ觀ルモ右創立總會ニ出席シタル多數株式引受人中僅ニ前記五名又ケカ欺罔セラレタリト云フ本件事案ニ於テハ未タ之ヲ以テ所謂總會ヲ欺罔シタルトキニ該當セサルモノト爲ササルヘカラス要スルニ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

所論株主トアルハ株式引受人ノ誤記ナルコト明カナリ而シテ商法第二百六十一條第一項第一號ニ所謂裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキトアルハ同條所定ノ事項ニ付人ヲ欺罔スルニ足ルヘキ方法ニ依リ不實ノ申立又ハ報告ヲ爲シ裁判所又ハ總會ヲ錯誤ニ陷ラシムヘキ所爲アル場合ヲ汎稱シ之カ爲ニ裁判所又ハ總會カ錯誤ニ陷リタルコトヲ要セサルモノナルコト當院ノ判例（大正十二年三月二十七日判決）トスルトコロナリサレハ論旨引用ノ判決ノ如キ場合ハ勿論原判決判示第一ニ揭ケタル如キ場合（詳細ハ論旨第一點ニ對シ揭ケタリ）卽株式ノ引受アリタルハ總株式ノ半數以下ニシテ第一回ノ拂込モ亦之ニ照應スル程度ノ狀態ナルニ拘ラス他ヨリ手形等ヲ借入レ之ヲ引受株式ニ對スル株金拂込ノ爲ニ受取リタル如ク裝ヒ且第一回株金拂込領收證控ヲ作成シテ之ヲ創立事務所ニ備付ケ進ンテ株式總數ノ引受並各株ニ付第一回ノ拂込アリタル旨虛僞ノ調査報告書ヲ作成シ之ニ基キ創立總會ニ其ノ旨ノ報告ヲ爲シ因テ同總會出席中ノ株式引受人ニシテ該事情ヲ知ラサル者ヲシテ其ノ書誤信セシメタル事實ナレハ之亦前記法條ニ所謂總會ヲ欺罔シタルトキニ該スルモノトス所論商法第二百六十二條第一號ハ官廳又ハ總會ニ對シ單ニ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタル場合ニ關スルモノニシテ原判示ノ如キ行爲ニ適用アルモノニ非ス要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ法律違背ノ不法アルコトナシ論旨理由ナシ

同第三點ハ商法第二百六十一條第一項第一號ノ犯罪ヲ構成スル基本タル要件ハ本件ニ關シテハ商法第百三十四條ナルコト同條ノ規定ニ照シテ疑ヲ容レサル所ナリ取締役及監査役又ハ檢査役ニ對シ創立總會ニ報告セシムル事項ハ（イ）株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ（ロ）各株ニ付第一回ノ拂込アリタルヤ否ヤ（ハ）發起人カ受クヘキ特別利益會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用竝發起人ノ受クヘキ報酬ノ額カ正當ナリヤ否ヤ其ノ他ノ事項ニシテ本件ニ於テハ前記（ハ）

ハ無關係ナルニ依リ（イ）（ロ）ニ外ナラサルナリ右總會ニ對スル報告ハ意思表示ナルカ觀念通知ナルカ其ノ他ノ事實發表トナルカハ暫ク措キ心裡表示ニ屬スルコトハ疑ヲ容レサル所ト云フヘシ前記商法ニ要求シタル資格ヲ有スル者カ右報告ヲ爲スニ當リ虛僞ノ報告ヲ爲セハ法律ノ要求スル行爲ノ要件ヲ充スニ依リ何等ノ疑問ヲ生スルノ餘地ナシト雖何等資格ヲ有セサル者カ右資格ヲ有スル者ノ行爲ニ共同加功シタリト爲サンニハ右表示行爲其ノモノニ參與シタルカ又ハ之ヲ爲スニ必要ナル行爲ニ參加シタル事實ナカルヘカラス此ノ行爲ナキ所ニ共犯ノ成立ヲ肯定スヘカラサルナリ本件被告人惠作ハ取締役ニ非ス監査役ニ非ス檢査役ニモ非ス且又發起人ニモ非サリシヲ以テ同人ニ付他ノ有資格ノ被告ト共ニ右法條ニ依ル罪責アリト爲スニハ前述ノ如ク報告テフ實行行爲或ハ之ニ直接間接必要ナル行爲ニ加擔參與シタル事實アルコトヲ要スルナリ然ルニ被告人惠作ハ何等斯ル事實アルコトナシ尤モ原判決援用ニ係ル證據材料ニ依レハ同人カ創立總會ヲ欺罔シ之カ通過ヲ計ル事ニ共謀シタル事實アルコト及船津貞三ノ依賴ニ依リ領收證ノ作成ヲ爲シタルコトノ事實アリタルモノノ如シト雖斯ル書類其ノ他ノ資料ハ商法第百三十四條ノ要求スル報告ノ事項トナルヘキモノニ非サルヲ以テ是等ハ法律上事實上報告ノ必要ナキモノナリ故ニ被告人カ本件犯罪行爲ノ共犯者トシテ關與シタリト爲サンニハ前記報告ニ當リ右有資格者ト共ニ共同シテ報告シタリトカ之ヲ代理シテ報告シタリトカ又ハ同調査報告書ノ作成ニ參加助力シタリトカ右報告ノ著手ト關係アル何等カノ行爲ニ關與シタル事實ナカルヘカラス然ルニ前記ノ如ク被告人惠作ノ爲シタル行爲ハ假ニ有責行爲ナリトスルモ法律上豫備ノ範圍ヲ超越セサルモノナルカ故ニ被告人惠作ニ對シ共犯ノ罪責アリト斷シ商法第二百六十一條第一項第一號ヲ適用シタル原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルカ少クトモ理由不備ノ違法アリト爲ササルヘカラスト云ヒ』同第四點ハ原裁判所ハ商法第二百六十一條ニ要求スル發起人取締役監査役檢査役ノ資格ナキ被告人惠作ニ對シ刑法第六十五條第一項ヲ適用シ同人ニモ亦商法違反ノ罪責アリト斷定セラレタリ然レトモ普通ノ犯罪ニ在リテハ身分ナキ者ト雖身分アル者ト共ニ犯罪ヲ共同セハ共犯トシテ律セラルコト固ヨリ當然ナリト雖商法第二百六十一條ハ株式會社ニ於ケル資本充實ノ原則ヲ全カラシメンカ爲同條所定ノ身分ヲ有スル者ニ對シテ課シタル特別義務ニシテ此ノ義務違背者ヲ處罰セントスルニ在ルヲ以テ之ヲ犯罪ハ規範違反ナリトノ見地ヨリスレハ普通刑法上ノ犯罪ニ付國家ノ命スル規範嚴守ノ義務ノ外更ニ右商法ニ於テ命スル特別ノ規範ヲ守ルヘキ義務ニ違反シタル者ノミニ對シ科サルル刑罰ナリト解セサルヘカラス刑法第八條ニ依リ刑法總則ノ規定ハ原則トシテ總テノ犯罪ニ付其ノ適用ヲ見ルモノナリト雖同條但書ニ依リ特別ノ規定アルモノハ其ノ限ニ非サルコトヲ明示セラ居レリ從テ明示的規定ナシトスルモ其ノ性質上共犯ニ親シマサルモノニアリテハ右但書ノ適用又ハ準用ニ依リテ其ノ適用ヲ排除スルヲ相當ト爲ササルヘカラス然リ而シテ前述ノ如ク商法第二百六十一條ノ法意ハ特別規範ヲ特定ノ身分ヲ有スル者ニノミ課スルモノト爲スヲ相當トスルカ故ニ本件被告篠原惠作ノ如ク特別ノ規範嚴守ノ義務ヲ負擔セサル無資格者ノ如キ者ニ對シテハ刑法第六十五條第一項ノ適用ヲ爲ササルヲ以テ法ノ精神ニ適合スルモノト言ハサルヘカラス蓋シ商法第二百六十一條ト云ヒ同第二百六十二條ニ依ル處罰行爲ト言ヒ實質上ハ何レモ學者ノ所謂行政罰ニ過キサルヲ以テナリ然ラハ即チ原判決ハ此點ニ於テモ亦破毀ヲ免レサルモノト斷セサルヘカラスト云ヒ』同第五點ハ本件被告人篠原惠作ニ付同人カ商法第二百六十一條ノ要求スル身分ヲ有セサルモ同人ニ付尙同條ニ依ル罪責アリト爲シタル原判決援用ノ證據ヲ閲スルニ曰ク「檢事ノ被告ニ對スル聽取書ニ同人ノ供述トシテ前略自分ハ株主トシテ何氣ナク裝ツテ之ヲ承認シ他ノ何ニモ知ラヌ株主等ヲ瞞シ其ノ總會ヲ欺イテ其ノ報告ヲ承認サセ無事終結ノ上同會社ノ設立ヲ遂ケタリ云々」ト云フニ依ツテ之ヲ觀レハ被告人惠作ハ所謂不作爲ニ依ツテ本件犯罪行爲ニ加功シタルモノナリト認定セラレタルモノノ如シ果シテ不作爲ニ因ル被告人ノ行爲カ罪責ヲ負フヘキモノナリヤ否ヤ按スルニ不作爲カ結果ニ對シ原因力ヲ有スト爲サンニハ不作爲其ノモノカ法律上契約上又ハ慣習上不作爲ヲ爲スヘカラサル義務アルコトヲ前提トシ之ニ違背シタル場合ニ限リ結果ニ對シ罪責アリト解スルヲ相當トスヘシ爲ラハ被告人篠原ハ右總會ニ於

テ一株式引受人トシテ總會ニ對シ積極的ニ眞實ヲ發言スル義務アリヤ斯ノ如キ責任ハ法律上ハ勿論契約慣習何レニ於テモ何等義務ヲ負擔スルモノニ非スト云フヘシ果シテ然ラハ被告人篠原カ沈默ヲ守ッテ創立總會ヲ通過セシメタル不作行爲ハ法律上刑事責任ヲ負擔スルモノニ非サルニ不拘原裁判所カ之ヲ以テ罪責アリト爲シタルハ甚タ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニアレトモ

商法第二百六十一條第一項所定ノ所謂身分ナキモノト雖其ノ所定ノ身分アル者ヲ教唆シテ同條第一項第一號所定ノ犯罪ヲ爲サシムルコトヲ得ヘク又其ノ身分アルモノト共謀シ身分アル者ヲシテ其ノ實行ノ衝ニ當ラシメ依テ以テ其ノ共同ノ犯意ヲ遂行スルコトヲ得ルモノトス之會社ノ設立又ハ其ノ登記等同號所定ノ事項ニ付事實上法律上利害關係ヲ有スル者アル場合ニ起リ得ヘキ現象ナリトス原判決判示第一事實ハ論旨第一點第二點ニ對シ說明シタル如クニシテ要スルニ被告人ハ判示ノ如ク判示會社ノ設立ニ協力シ進ンテ判示ノ如ク共謀シ其ノ資格アル者ヲシテ其ノ實行ノ衝ニ當ラシメ依テ以テ其ノ共同ノ犯意ヲ遂行シタルモノニシテ其ノ判示事實ハ原判決引用ノ證據ニ依リ之ヲ認ムルニ足ルサレハ原判決ニハ所論ノ如キ理由不備等ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨何レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○業務上過失致死傷被告事件（昭和十年（れ）第七〇六號　同年八月二日第四刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　川島八雄　辯護人　長田三保二

【第一審】白河區裁判所　【第二審】福島地方裁判所

○判示事項

工事列車乘務車掌ノ注意義務

○判決要旨

工事列車ニ乘務スル車掌ハ列車ノ初發ノ場合ハ勿論凡ソ發車ノ際其ノ可能ナル限リ連結器制動機ノ作用等ヲ檢査スヘキ義務アルモノトス

【參照】刑法第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ工事列車乘務車掌ノ注意義務

三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

建築列車運轉心得第二十五條　車掌ハ列車出發ノ際ニ連結器制動機ノ作用、貨車側板ノ開閉、車軸發熱ノ有無等ヲ檢査シ運轉中モ屢々列車ノ狀態ニ注意スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト、能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正八年十二月鐵道省車掌ヲ拜命シ昭和九年四月五日東京建設事務所棚倉詰所勤務ト爲リ當時尙水郡線塙驛ト同線鐵道敷設工事中ナリシ同線棚倉驛ノ北方約二粁餘ノ工事場トノ間ヲ往復シ居リタル該工事列車ノ乘務車掌トシテ之カ發著ノ合圖列車狀態ノ檢査等ニ從事シ居リタルモノナルトコロ昭和九年四月二十六日福島縣東白河郡社川村字板橋地內ナル右工事場ニ於テ其ノ乘務セル機關手山口淸一郎運轉機關車一輛無蓋貨車七輛編成ノ工事列車カ前記塙驛ノ北方約一粁ナル久慈川畔ヨリ積載シ來リタル砂利ヲ三回ニ散布シ逆行ノ儘更ニ不用土砂ヲ二回ニ積込ミ且之ニ從事シ居リタル現場監督宮本雅一外人夫二十一名ヲ該各貨車ニ乘車セシメタル上棚倉驛ヘ出發スルニ際シ乘務車掌タル被告人ハ列車ノ連結器其ノ他諸般ノ狀態ニ付檢査ヲ爲ス等周到ナル注意ヲ爲シ事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス之ヲ懈リ漫然列車ニ何等異狀ナキモノト輕信シ同列車ノ第一輛目貨車ト第二輛目貨車間ノ連結器ノピンカ拔ケ居リタルヲ看過シタル儘機關手ニ對シ發車ノ信號ヲ爲シタルヨリ同列車カ同日午後四時四十分頃發車シ同所ヨリ約二百米逆進シテ下リ勾配ノ地點ニ差蒐ルヤ第二輛目以下ノ貨車六輛ハ前記連結器ノピンカ拔ケ居リタル爲連結ヲ離レテ該下リ勾配軌道ヲ驀進シ始メ遂ニ之ヲ約二粁南方ナル同縣同郡棚倉町字花園地內根小屋川ニ墜落轉覆スルニ至ラシメ因テ之レニ乘車シ居リタル人夫齋藤和一ヲ胸內臟器壓迫ニ因リ卽死ニ現場監督宮本雅一ヲ頭蓋骨折竝兩大腿骨折ニ因リ同日午後八時四十分人夫鈴木嘉吉ヲ强壓ノ爲ノ胸內出血ニ因リ同日午後七時同古木松吉ヲ頭部打撲症ニ因リ同年同月二十九日午後二時四十五分頃各死亡スルニ至ラシメ同駒井信達ニ治療約百日間ヲ要スル右大腿骨折ヲ同鈴木彌一郎ニ治療約三週間ヲ要スル腰部打撲症ヲ同鈴木正義ニ約三週間ヲ要スル右肩胛關節脫臼ヲ同生田目里見ニ治療約二週間ヲ要スル腰部打撲症ヲ同矢吹庄左衞門ニ治療約二十日間ヲ要スル全身各部打撲症ヲ同松本庄之助ニ治療約十四日ヲ要スル顏面數ケ所ノ擦過症ヲ各負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百十一條ニ該當スルトコロ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條前段第十條ニ則リ犯情最モ重シト認ムル齋藤和一ニ對スル業務上過失致死罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍內ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條第一項第四項ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人長田三保二上告趣意書第一點原判決理由ニ依レハ被告人有責ノ原因ヲ工事列車發車ノ際注意カ足ラサリシモノト認メ而カモ此ノ發車ニ際シトハ苟モ列車カ運轉ヲ停止シ再ヒ進發スル如何ナル場合

ヲモ指稱シ本件ニ於テハ椿事出來ニ接著セル最終運轉ノ直前發車ノ合圖了リ居殘リタル數人ノ人夫カ貨車ノ間隙又ハ側面ヨリ攀上リ了リ將ニ車輪ノ回轉セントスル瞬間ヲ指摘セルモノト解セラル然レトモ建設列車運轉規程竝一般列車運轉法規ニ於テ「列車ノ出發ニ際シ」ナル意義ハ新ニ列車ノ編成配置終リ初發所ヨリ進發スルトキ竝途中初發ニ準スヘキ相當時間停車シ該列車ノ一般狀態ニ變化ヲ生スヘキ虞アル場合ニ於ケル所謂出發ヲ指稱シ苟モ列車カ一旦停車シタル後再ヒ運行ヲ爲ス總テノ場合ヲ含ムモノニ非ス蓋シ新ニ列車ヲ編成シタル場合ハ勿論相當長時間停車シタル際ハ自然的又ハ人爲的ニ列車ノ連絡機其ノ他ニ隨時ノ變化ヲ起シ運轉不完全ノ狀況ニ陷ルナキヲ顧慮シ車掌ヲシテ念ノ爲點檢セシムルモノニシテ通常列車ニ變化ヲ生スヘキ虞レナキ場合ニ於テハ檢査ノ要ヲ認メス且實際ノ取扱トシテ斯ル際ノ點檢ハ到底爲シ能ハサルトコロニ屬ス故ニ國有鐵道ニ於テハ一般旅客列車カ各驛ニ數十秒又ハ數分停車スル際車掌カ檢査ヲ爲ササルハ勿論建設列車ニ於テハ一層其ノ必要ヲ認メス發車ノ時ハ格別一旦工事列車トシテ運轉シ數分若クハ數十分停車スルモ必スシモ之カ檢査ヲ爲ス必要ナク實際ニ於テモ亦之ヲ爲シ得ス又爲ササルハ法規ノ解釋上當然ナルノミナラス第一審證人高橋庄之助ノ陳述ニヨリテ明瞭ナリ殊ニ本件ノ場合則被告人ハ土砂積込中ヲ參酌シ列車ヲ一周シテ車體竝連結狀態ヲ點檢シ異狀ナキヲ認メ現場人夫監督ヨリノ合圖ヲ待チ發車合圖ヲ爲シタルハ被告人ハ出發ニ際シ十二分ノ注意ヲ爲シタルモノト謂フヘク其ノ後ノ事態ハ現場ニアル人夫監督ノ責務ニ屬シ被告人ノ關知シ得サル所ナリ原審ノ求ムル所明瞭ナラサルモ若出發ニ際スルノ意味ヲ本件人夫監督カ被告人ニ對シ出發準備完了ノ合圖ヲ爲シタル後尚一應列車ヲ一巡シテ異狀ナキヲ認メ後部定位置ニ歸リタル際始メテ出發合圖ヲ爲スヘキモノナリト斷スルニ於テハ机上ノ推理實狀ノ無視モ甚シキ暴論ト云ハサルヘカラス此ノ如キ理論ヲ完全ニ推シ進メントスル時ハ本件被告人タル車掌ハ人夫監督ヨリ合圖ヲ受ケ發車信號表示ノ爲自己ノ定位ニ歸著スル其ノ間ニ於テモ亦異狀發生セサルモノトモ限ラス宜シク再ヒ之ヲ見直ストカ又ハ別ニ他人ニ依賴シテ監視セシムルトカ爾餘ノ方法ヲ採ラサルヘカラストノ論結ヲ生シ終ニ其ノ終末ヲ見出スコト能ハサルニ至ルヘシ敍上原審判決ハ徒ラニ追究ニ急キ空理ニ去リ遂ニ法規慣行ヲ無視シタル違法アルモノト信スト云ヒ』同第二點本件工事列車ノ連結器カ分離セラレタル時機ニ就テハ最終停車ノ時ヨリ被告人タル車掌カ出發合圖ヲ與フル爲後部車掌室ニ歸リタル間則チ主トシテ土砂積込作業中カ或ハ車掌カ自室ニ歸著シタル時ヨリ發車ノ瞬間迄ノ間則チ主トシテ作業了リ乘遲レタル數名ノ人夫カ乘込ミツツアリシ間カ將又列車出發ノ後上リ勾配ニ至ルマテノ間則列車推進運轉中ナリシカノ三期ニ區別スルコトヲ得而シテ此ノ分離時機ノ如何ニヨリ被告人ノ責任ニ重大ノ關係ヲ來タスモノナルヲ以テ先ツ裁判ハ此ノ時機ノ確定ヲ爲ササルヘカラス第一審ニ於テハ連結機ハ最後ノ推進運轉中ニ分離セラレタルモノト想定シ被告人ヲ無罪トシタリ然ルニ第二審ニ於テハ此ノ點ニ關シ只「……棚倉驛ヘ出發スルニ際シ乘務車掌タル被告人ハ列車ノ連結機其ノ他諸般ノ狀態ニ付檢査ヲ爲ス

等周到ナル注意ヲ爲シ……懈リ漫然列車ニ何等異狀ナキモノト輕信シ同列車第一輛目貨車ト第二輛目貨車間ノ連結機ノピンカ拔ケ居リタルヲ看過シタル儘機關手ニ對シ發車ノ信號ヲ爲シタルヨリ同列車カ同日午後四時四十分頃發車シ……」ト判示シ漠然列車出發前ト認メタリ然レトモ此ノ列車出發前ニハ被告人ノ責任ノ有無ヲ斷定スヘク少ナクトモ二箇ノ異ナリタル敍上ノ時期アリ本論第一點ニ述ヘタル「出發ニ際シ」ノ字義ニ關シ何等判示說明ナキ本件ニ於テハ宜シク一定時一巡ノ後被告人タル車掌カ車掌室ニ乘込ム職務執行ノ適否爾後ノ監視ヲ人夫監督ニ委シタルノ當否人夫監督ノ發車合圖マテノ注意義務ノ內容等ヲ明瞭ニ區別說明シ其ノ執レノ場合ニ注意ヲ缺キタルカカ責任ノ生スル所以ヲ明瞭ニセサルヘカラス此等ニ關シ原判決ハ理由說明明瞭ヲ缺キ過失ノ因テ生シタル時期ヲ不明ニシテ結局罪トナルヘキ事實ノ開陳ナキノ不法アルモノト信スト云ヒ』同第三點前論ニ於テ敍述セル如ク原判決ハ漠然發車前ニ連結機檢査ニ付不十分ナリシト說示シ居ルモ其ノ具體的程度內容ニ就キテハ何等說明ナク適當ナル證據ナシ此ノ點ニ關スル原判決引用ノ證據ニ原審檢證調書中ニ連結機ニ何等異狀ナカリシ記載ト鑑定人谷澤一郎ノ鑑定書中ニ連結機カ進行中ノ際ノ車體動搖ニヨリ分離セサル旨及連結機ノピンヲ拔キ上ケタル儘推進スル場合ニハ本件椿事ノ原因トナリ得ル旨ノ記載同人ノ東京建設事務所長ニ對スル報告書等中ヨリ被告人ニ不利トナルヘキ材料ヲ列擧シ特ニ被告人ノ列車ノ點檢前後ノ時間ニツキ答辯一、二ニシテ曖昧ナルヲ以テ被告人ノ事實隱蔽虛僞ノ陳述ノ有力ナル理由トナシタル等第二審ニ於テハ徒ラニ第一審ノ無罪ノ裁判ヲ覆スニ精心シ被告人有利ノ證據ヲ無下ニ排斥シタルアリ事實ノ認定ニ付重大ナル錯誤アリト認ムル顯著ナル事由アリ此ノ點ニ付原判決ハ違法タルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

建築列車運轉心得第二十五條ニ車掌ハ列車出發ノ際ニ連結器制動機ノ作用貨車側板ノ開閉車軸發熱ノ有無等ヲ檢査シ運轉中モ屢列車ノ狀態ニ注意スヘキ旨規定セルニ徵スルトキハ本件ノ如キ建築列車ニ乘務スル車掌ハ列車ノ初發ノ場合ハ勿論縱令初發ニ非サル場合ト雖其ノ可能ナル限リ常ニ發車ノ際叙上ノ檢査ヲ爲シ且運轉中ニ在リテモ絕エス列車ノ狀態ニ注意シ危害ノ發生ヲ未然ニ防止シ其ノ業務ノ執行ニ因リ人ノ生命身體等ニ對シ危害ヲ釀スコトヲ豫防スヘキ注意義務ヲ有スルコト明ナリ然レハ此ノ義務ヲ怠リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ刑法第二百十一條所定ノ過失致死傷罪ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルハ當然ナリトス然リ而シテ原判決ノ判示スル所ハ被告人ハ大正八年十二月鐵道省車掌ヲ拜命シ昭和九年四月五日東京建設事務所棚倉詰所勤務ト爲リ當時尙水郡線塙驛ト同線鐵道敷設工事中ナリシ同線棚倉驛ノ北方約二粁餘ノ工事場トノ間ヲ往復シ居リタル該工事列車ノ乘務車掌トシテ之カ發著ノ合圖列車狀態ノ檢査等ニ從事シ居リタルモノナルトコロ昭和九年四月二十六日福島縣東白川郡社川村字板橋地內ナル右工事場ニ於テ其ノ乘務セル機關手山口淸一郎運轉機關車一輛無蓋貨車七輛編成ノ工事列車カ前記塙驛ノ北方約一粁ナル久慈川畔ヨリ積載シ來リタル砂利ヲ三回ニ散布シ逆行ノ儘更ニ不

用土砂ヲ二回ニ積込ミ且之ニ從事シ居リタル現場監督宮本雅一外人夫二十一名ヲ該各貨車ニ乘車セシメタル上棚倉驛ヘ出發スルニ際シ乘務車掌タル被告人ハ列車ノ連結器其ノ他諸般ノ狀態ニ付檢査ヲ爲ス等周到ナル注意ヲナシ事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス之ヲ懈リ漫然列車ニ何等異狀ナキモノト輕信シ同列車ノ第一輛目貨車ト第二輛目貨車間ノ連結器ノピンカ拔ケ居リタルヲ看過シタル儘機關手ニ對シ發車ノ信號ヲ爲シタルヨリ同列車カ同日午後四時四十分頃發車シ同所ヨリ約二百米逆進シテ下リ勾配ノ地點ニ差蒐ルヤ第二輛目以下ノ貨車六輛ハ前記連結器ノピンカ拔ケ居リタル爲連結ヲ離レテ該下リ勾配軌道ヲ驀進シ始メ遂ニ之ヲ約二粁南方ナル同縣同郡棚倉町字花園地内根小屋川ニ墜落顚覆スルニ至ラシメ因テ之ニ乘車シ居リタル人夫齋藤和一ヲ胸内臟器壓迫ニ因リ即死ニ現場監督宮本雅一ヲ頭蓋骨折竝兩大腿骨折ニ因リ同日午後八時四十分人夫鈴木嘉吉ヲ强壓ノ爲ノ胸内出血ニ因リ同日午後七時同古木松吉ヲ頭部打撲傷ニ因リ同年同月二十九日午後二時四十五分頃各死亡スルニ至ラシメ同駒井信達ニ治療約百日間ヲ要スル右大腿骨折ヲ同鈴木彌一郎ニ治療約三週間ヲ要スル腰部打撲傷ヲ同鈴木正義ニ約三週間ヲ要スル右肩胛關節脫臼ヲ同生田目里見ニ治療約二週間ヲ要スル腰部打撲傷ヲ同矢吹庄左衞門ニ治療約二十日間ヲ要スル全身各部打撲傷ヲ同松本庄之助ニ治療約十四日間ヲ要スル顏面數ケ所ノ擦過傷ヲ各負ハシメタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ右判示ニ依レハ原判決ハ右連結器ノピンハ右發車ノ信號以前ニ於テ既ニ拔ケ居リタルモノニシテ被告人カ右發車ノ信號以前ニ周到ノ注意ヲ以テ之カ檢査ヲ爲サハ右事實ヲ發見シ得ヘカリシニ拘ラス其ノ爲シ得ヘキ右注意ヲ缺キタル爲之ヲ發見セス何等異狀ナキモノト輕信シ發車ノ信號ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルモノナルコト明ナリ然レハ原判決ノ說示ニ缺クル所ナク所論ノ如キ不法アルコトナシ而シテ右原判示事實ハ原判決ノ擧示スル證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ非難スルハ當ラス記錄ニ徵スルモ原判決ノ右認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナケレハ如上ノ理由ニ依リ被告人ニ過失アルハ明白ニシテ原判決カ被告人ノ右行爲ヲ過失致死傷罪ニ問擬シタルハ正當ナリ論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事樫田忠美關與

○強盜致死 強盜殺人未遂 竊盜住居侵入被告事件（昭和十年(れ)第七四一號 同年八月二日第四刑事部判決 棄却）

【上告人】 被告人 和歌山縣八郡市 江藤久雄　辯護人 高野精一 水戸野百治 中島寛二

【第一審】 札幌地方裁判所小樽支部 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

準强盜致死傷ト其ノ適條

○判決要旨

竊盜カ刑法第二百三十八條ノ行爲ヲ爲シ因テ人ヲ殺傷シタルトキハ同法第二百四十條ヲ適用スレハ足リ同法第二百三十五條及同法第二百三十八條ヲ援用スルヲ要セス

【參照】 刑法第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論ス

同法第二百四十條　强盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處ス押收ニ係ル出刄庖丁一挺及金槌一挺ハ之ヲ沒收ス證第一號乃至第五號及第十八號乃至第三十四號ノ衣類ハ被害者ニ還付ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正七年四月十六日小倉區裁判所ニ於テ住居侵入竊盜罪ニ依リ懲役一年六月ニ處セラレタル外大正十一年九月十五日小倉區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役二年六月ニ處セラレ小倉刑務支所ニ於テ服役中大正十二年四月十六日同支所工場內便所ノ壁ヲ破リテ逃走シテ朝鮮ニ渡リ大正十四年七月二十二日平壤地方法院ニ於テ建造物損壞逃走住居侵入竊盜横領罪ニ依リ懲役六年ニ處セラレ右兩刑ノ執行ヲ終リテ昭和五年五月二日平壤刑務所ヲ出テ更ニ同年十月三十一日豐原區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役三年六月ニ處セラレ昭和九年四月中右刑ノ執行ヲ終リ同年五月八日頃ヨリ小樽市錦町十八番地表具師林憲次方ノ職人トナリタルモノナルトコロ

第一　一　昭和九年七月二十八日夜十二時頃小樽市稻穗町西七丁目一番地渡邊順一方裏口ヨリ屋內ニ侵入シ茶ノ間押入內ヨリ同人所有ノ仙臺平袴一著外衣類二十數點（時價合計約三百圓相當）ヲ

二　同年八月十二日夜十二時頃高島郡高島町四十三番地齋藤米治方便所ノ小窓ヲ外シテ屋內ニ侵入シ奧ノ間ノ箪笥及押入內ヨリ同人所有ノ掛布團一枚外衣類十數點（時價合計約九十圓相當）ヲ

三　同年十月八日夜十二時頃小樽市富岡町一丁目三十一番地坂東平吉方勝手口ヨリ屋內ニ侵入シ茶ノ間及寢室內ヨリ同人所有ノ三ツ揃合着洋服一著外衣類時計等十三點（時價合計約百三十五圓四十錢相當）ヲ各竊取シ

第二　曾テ林憲次ト共ニ障子ノ張替ニ行キタル小樽市石山町五十二番地毛利友吉方カ相當裕福ナルヲ知レルヨリ月末ニハ必ス多額ノ現金用意セラレアリテ同家ニ押入ルニ於テハ多額ノ金品ヲ盗取シ得ルモノト思惟シ同年十月三十一日午前一時頃自己所有ノ出刄庖丁一挺（證第六號）懐中電燈一個（證第七號）金槌一挺（證第八號）ヲ携ヘテ同家ニ侵入シ先ツ電話線ヲ切斷シテ外部トノ通話ヲ斷チタル上右友吉夫妻ノ寢室ニ忍込ミ友吉ノ枕許ニ在リタル簞笥内ヨリ木綿唐草模様ノ風呂敷ニ包ミタル衣類二包ヲ取リ出シテ之ヲ同家臺所ニ運ヒタル後右寢室ニ引返シテ更ニ右簞笥内ヨリ衣類ヲ取リ出サントシタル際友吉カ眼ヲ覺シタル氣配アリタルヨリ發見セラレ驚キ立テラレンコトヲ虞レ所携ノ金槌ヲ以テ同人ノ頭部ヲ數回强打シタルトコロ同人ノ妻君モ眼ヲ覺マシ友吉ト共ニ「泥棒々々」ト連呼シタルヨリ再ヒ金槌ニテ友吉ヲ毆打シタルニ金槌ノ柄折レタルヲ以テ前記出刄庖丁ニテ友吉ヲ殺害スヘク逃レントスル同人ノ背後ヨリ斬付ケタルカ君カ夫友吉ヲ庇ヒ「何ンテモ上ケルカラ」ト言ヒテ尚モ追跡セントスル被告人ヲ遮ルヤ被告人ハ右出刄庖丁ヲ以テ君ノ左胸部左背部等ヲ突刺シテ即死セシメ更ニ兇器ヲ揮ヒテ友吉ヲ屋内ニ追廻シ同人ヲ或ハ斬リ或ハ突刺シ同人ノ左背部第六胸椎ノ高サニ長サ三糎深サ約十糎ノ刺創外十七個所ニ治療約七週間ヲ要スル創傷ヲ加ヘタルモノニシテ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシカ再ヒ右寢室ニ引返シ前記簞笥内ヨリ君所有ノ衣類ヲ取出シ先キニ取リ出シ臺所ヘ運ヒ置キタルモノヲモ合セ結局同人所有ノ鼠色錦紗女コート一枚外衣類二十一點（時價合計金五百八圓相當）ヲ强取シ

タルモノニシテ右第一、第二ノ住居侵入第一ノ竊盗竝第二ノ强盗致死及强盗殺人未遂ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一　第二ノ住居侵入ノ點ハ刑法第百三十條第五十五條ニ第一ノ竊盗ノ點ハ各同法第二百三十五條ニ第二ノ强盗致死ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ强盗殺人未遂ノ點ハ同法第二百四十三條第二百四十條後段ニ夫々該當シ以上竊盗强盗致死强盗殺人未遂ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ヲ適用シ最モ重キ强盗致死罪ノ一罪トシ之ト右住居侵入罪トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ其ノ内重キ强盗致死罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其ノ所定刑中死刑ヲ選擇シ被告人ヲ死刑ニ處シ主文第二項掲記ノ物件ハ何レモ本件第二ノ犯行ノ供用物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク主文第三項特記ノ物件ハ本件第二ノ犯行ノ贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ之ヲ被害者ニ還付スヘク尙訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理　由

辯護人高野精一　水戸野百治上告趣意書第一點原院判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法ノ判決ナリト信ス原院判決ハ犯罪事實第二トシテ「曾テ林憲次ト共ニ障子ノ張替ニ行キタル小樽市石山町五十二番地毛利友吉方カ相當裕福ナルヲ知レルヨリ月末ニハ必ス多額ノ現金用意セラレアリテ同家ニ押入ルニ於テハ多額ノ金品ヲ盗取シ得ルモノト思惟シ……　中略）……友吉カ眼ヲ覺シタル氣配アリタルヨリ發見セラレ驚キ立テラレンコトヲ虞レ所携ノ金槌ヲ以テ同人ノ頭部ヲ數回强打シタルトコロ同人ノ妻君モ眼ヲ覺シ友吉ト共ニ「泥棒々々」ト連呼シタルヨリ再ヒ金槌ニテ友吉ヲ毆打シタルニ云々」ト判示シ其ノ法律適用ニ關スル部分ヲ見ルニ「法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中……（中略）……第二ノ强盗

致死ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ……夫々該當シ」ト判示シタリ卽チ原院判決認定ノ事實ニ依レハ（一）被告人ハ當初多額ノ金品ヲ盜取スル目的ヲ以テ毛利友吉方ニ侵入シ次テ（二）友吉カ眼ヲ覺マシタル氣配アリタルヨリ發見セラレ騷サ立テラレンコトヲ虞レ所携ノ金槌ヲ以テ同人ノ頭部ヲ數回强打シ更ニ（三）同人ヲ斬付ケ及妻君カ夫ヲ庇ヒ被告人ヲ遮ルヤ被告人ハ右出刄庖丁ヲ以テ君ノ左胸部左背部等ヲ突刺シテ卽死セシメタルコト明ナリ因テ之カ法律適用ニ付テハ（一）ノ事實ハ盜取行爲トシテ刑法第二百三十五條ニ又（二）ノ事實ハ竊盜財物ヲ得テ其ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル所謂準强盜トシテ刑法第二百三十八條ニ夫々問擬シ然ル後（三）ノ事實ニ付キ刑法第二百四十條ヲ適用スヘキナリ然ルニ原院判決ハ事茲ニ出テス漫然刑法第二百四十條ヲ適用シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ「第二點原院判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス（一）第一審判決ハ第一ノ犯罪事實トシテ一乃至三ノ事實ヲ判示シ之ヲ常習特殊竊盜ト認定シ昭和五年法律第九號盜犯等防止及處分ニ關スル法律第二條刑法第二百三十五條ヲ適用シ判示第二ノ事實ト相俟ツテ犯情重キ常習特殊竊盜强盜殺人及同未遂罪ト爲シ被告人ヲ死刑ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シタリ然ルニ原院判決ハ判示第一ノ事實トシテ第一審判決ト同一ノ事實ヲ認定シナカラ之ヲ以テ犯情重キ常習特殊竊盜ニ非スト爲シ昭和五年法律第九號盜犯等防止及處分ニ關スル法律第二條ヲ適用セス單ニ刑法第二百三十五條ヲ適用シタルニ拘ラス第一審判決ト同一刑ノ言渡ヲ爲シタルハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料ス（二）第一審判決ハ第二ノ犯罪事實ニ付「曾テ林忠次ト共ニ障子ノ張替ニ行キタル小樽市石山町五十二番地毛利友吉方ハ相當裕福ニシテ月末ニ必ス多額ノ現金ヲ用意シ置クモノト思惟シ同家ニ押入リ金品ヲ强取センコトヲ企テ……（中略）……同人等ヲ殺害セントト決意シ云々」ト判示シタリ卽チ第一審判決ハ被告人ハ當初ヨリ强盜ノ意思ヲ以テ毛利友吉方ニ押入リ發見セラレ騷キ立テラレンコトヲ虞レ同人及其ノ妻君ヲ殺害セント決意セルモノナリト認定判示第一ノ事實ト共ニ被告人ニ對シテ死刑ノ判決ヲ言渡シタリ然ルニ原院判決ハ前揭上告論旨第一點所論ノ如ク被告人ハ當初盜取ノ意思ヲ以テ毛利友吉方ニ押入リ發見セラレ騷キ立テラレンコトヲ虞レ妻君カ夫友吉ヲ庇ヒ「何ンテモ上ケルカラ」ト言ヒテ尙モ追跡セントスル被告人ヲ遮ルヤ被告人ハ右出刄庖丁ヲ以テ君ノ左胸部左背部等ヲ突刺シテ卽死セシメタル旨認定シタリ卽チ原院判決ハ第一審判決ト異リ（一）被告人ハ當初竊盜ノ意思ヲ以テ毛利友吉方ヘ押入リタルコト及（二）毛利友吉ノ妻君ニ對シテハ殺害ノ目的意思ナカリシコト明カナルニモ拘ラス第一審判決同樣ノ刑ニ處シタルハ之亦刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト信ス以上第一點及第二點ヲ綜合スルトキハ原院判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルノミナラス刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノトシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ仍テ按スルニ刑法第二百三十八條ハ竊盜カ同條所定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ强盜トシテ其ノ罪ヲ論ス

【要旨】

ヘキ旨ヲ規定ス而モ該規定ノ趣旨タルヤ斯カル場合ノ竊盜ニ對スル科刑ヲ强盜ニ準スルニ止マルモノニ非スシテ其ノ罪質ヲ變更シテ强盜ト爲スノ趣旨ニ外ナラス又刑法第二百四十條ニ所謂强盜中ニハ同法第二百三十六條ニヨリ强盜ノ罪トシテ處分スヘキモノハ勿論右第二百三十八條ニ依リ强盜ヲ以テ論スヘキモノヲモ包含スルモノナリ然レハ竊盜カ右第二百三十八條ノ行爲ヲ爲シタルトキハ强盜ヲ以テ論スヘク而シテ同條ノ强盜カ人ヲ殺傷シタルトキハ右第二百四十條ヲ適用スレハ足リ右第二百三十五條及同第二百三十八條ヲ援用スルノ要アルコトナシ故ニ原判決カ判示第二ノ所論ノ行爲ニ對シ右第二百四十條後段ヲ適用シ同第二百三十五條及同第二百三十八條ヲ援用セサリシハ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ擬律上ノ違法アルコトナシ次ニ刑ノ量定ニ付按スルニ原判決ハ第一審判決ト所論ノ如ク其ノ認定ヲ異ニシタリト雖犯情ニ於テハ尙死刑タルヲ免レサルモノト認定シタルモノニシテ記錄ヲ精査シ諸般ノ事情ヲ參照スルモ原判決ノ量刑ニ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルヲ發見セス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

○收賄被告事件（昭和十年（れ）第六六四號同年八月十七日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　北島慈幢

辯護人　石渡秀吉　相澤隼人　鹿了六　矢留文雄

【第一審】名古屋地方裁判所　【第二審】名古屋控訴院

○判示事項

市立高等女學校教諭ノ收賄罪

○判決要旨

市立高等女學校教諭カ所屬女學校ノ入轉學希望者ニ對スル試驗委員トシテ其ノ事務ニ從事中他人ノ依賴ヲ受ケ其ノ希望者ヲ入轉學セシメタル謝禮又ハ報酬トシテ金品ノ贈與ヲ受クルカ如キハ收賄罪ヲ構成スルモノトス

【參照】刑法第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其ノ他ノ職員ヲ謂フ

市立高等女學校教諭ノ收賄罪

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

同法第百九十七條第一項　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

大正六年勅令第五號公立學校職員制第六條　高等學校尋常科高等學校豫科、師範學校中學校高等女學校實業學校、青年學校竝盲學校及聾唖學校ノ中等部ノ教諭ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇助教諭ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

地方長官ハ師範學校教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學校主事ヲシテ兼ネテ園務ヲ掌ラシム

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人北島慈幢ヲ懲役二月ニ處ス本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス押收ニ係ル證第三十號中ノ額面金三十圓ノ商品切手一枚額面金二十圓ノ商品切手一枚額面金十圓ノ商品切手一枚及證第三十一號中ノ額面金十圓ノ商品切手一枚ハ孰レモ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人北島慈幢ハ大正七年九月十六日ヨリ昭和八年六月二十日迄ノ間名古屋市立第一高等女學校教諭（就任後二、三年ニシテ首席教諭トナル）トシテ毎年三月施行サルル同校ノ入學試驗ニ際シ試驗委員トシテ同試驗ノ考査ヲ擔任シ又入學試驗及轉入學試驗ニ於ケル生徒ノ入學轉入學ノ許否決定ニ付キ同校校長ノ相談役タルノ任務ニ參與シ其ノ他同校教務ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ

（イ）昭和七年十二月下旬頃相被告人西村彌市ヨリ當時岐阜縣私立佐々木高等女學校ニ在學シ右市立第一高等女學校第一學年ニ轉入學ヲ希望シ居リタル林玉江ノ轉入學許可方ニ付キ特別ノ盡力ヲ與ヘラレ度キ旨懇請セラレテ之ヲ了承シ同女カ其ノ轉入學ヲ許可セラルルヤ昭和八年一月末頃三重縣三重郡富田町大字東富田七百二十四番地ナル右被告人ノ居宅ニ於テ玉江ノ母林しづヨリ玉江ノ轉入學許可ニ關スル自己ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝將來同女ノ在學中ニ於ケル自己ノ教務上ノ盡力ニ對スル報酬ノ趣旨ニ出テタルモノナルコトヲ諒シナカラ額面金三十圓ノ商品切手一枚（證第三十號中ノ額面金三十圓ノ商品切手）ノ贈與ヲ受ケ

（ロ）（一）昭和八年三月下旬施行ノ右市立第一高等女學校ノ入學試驗ニ際シ同年三月中頃朝倉銚太郎ヨリ同人ノ次女銓子ノ入學許可ニ付キ特別ノ盡力ヲ與ヘラレ度キ旨懇請セラレテ之ヲ承諾シ同女カ同校ニ新入學ヲ許可セラルルヤ同年四月上旬頃右朝倉銚太郎ヨリ前記被告人居宅ニ於テ同女ノ新入學ニ關スル自己ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝將來同女ノ在學中ニ於ケル自分ノ教務上ノ盡力ニ對スル報酬ノ趣旨ニ出テタルモノナルコトヲ諒シナカラ額面金十圓ノ商品切手及證第三十一號中ノ額面金十圓ノ商品切手ノ內孰レカノ一ニ該當ス）ノ贈與ヲ受ケ

（二）昭和七年六月頃ヨリ昭和八年四月二十一日頃マテノ間右朝倉銚太郎ヨリ當時前記佐々木高等女學校ニ在學中ノ同人ノ長女あい子ノ右市立第一高等女學校ヘノ轉入學許可方ニ付キ再三特別ノ盡力ヲ與ヘラレ度キ旨懇請セラレテ之ヲ了承シ同女カ昭和八年四月下旬右市立第一高等女學校第二學年ニ轉入學ヲ許可セラルルヤ同年五月上旬頃前記被告人居宅ニ於テ朝倉銚太郎ヨリ右あい子ノ轉入學許可ニ關スル自己ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝將來同女ノ在學中ニ於ケル自己ノ教務上ノ盡力ニ對スル報酬ノ趣旨ニ出テタルモノナルコトヲ諒シナカラ額面金二十

圓ノ商品切手一枚（證第三十號中ノ額面金二十圓ノ商品切手）ノ贈與ヲ受ケ

（八）昭和八年三月下旬施行ノ右市立第一高等女學校ノ入學試驗ニ際シ豫テ其ノ前頃相被告人西村彌市及同校給仕水谷光子ヨリ光子ノ從妹水谷澄子ノ入學許可ニ付キ特別ノ盡力ヲ與ヘラレ度キ旨懇請セラレテ之ヲ了承シ同月二十五日前記高等女學校校長室ニ於テ入學許可決定ニ當リ當時ノ校長タリシ神長樞ニ右澄子ノ入學許可アリタキ旨進言シ其ノ結果同女ノ新入學ヲ許可セラルルヤ同年四月初澄子ノ伯母森ゑづ水谷光子及西村彌市ノ協議ニ基キ森ゑづヨリ前記被告人居宅ニ於テ右澄子ノ入學許可ニ關スル自己ノ職務行爲ニ對スル謝禮竝將來同女ノ在學中ニ於ケル己自ノ教務上ノ盡力ニ對スル報酬ノ趣旨ノ下ニ提供シタルモノナルコトヲ諒シナカラ額面金十圓ノ商品切手一枚（證第三十號中ノ額面金十圓ノ商品切手ノ內何レカノ一ニ該當ス）ノ贈與ヲ受ケ以テ右自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノナリ

而シテ被告人ノ判示收賄ノ各所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人北島慈幢ノ判示所爲ハ刑法第百九十七條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘキトコロ被告人ニ對シテハ諸般ノ情狀ニ鑑ミ右刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ本裁判確定ノ日ヨリ一年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク尙被告人ノ收受シタル賄賂ナル證第三十號中ノ額面金三十圓ノ商品切手額面金二十圓ノ商品切手額面金十圓ノ商品切手及證第三十一號中ノ額面金十圓ノ商品切手各一枚ハ孰レモ同法第百九十七條第二項前段ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

被告人北島慈幢辯護人石渡秀吉上告趣意書第一點原審判決ハ審理不盡若ハ理由不備ノ違法アリト思料ス原審判決ハ「被告人北島慈幢ハ大正七年九月十六日ヨリ昭和八年六月二十日迄ノ間名古屋市立第一高等女學校教諭（就任後二、三年ニシテ首席教諭トナル）トシテ每年三月施行サルル同校ノ入學試驗ニ際シ試驗委員トシテ同試驗ノ考査ヲ擔任シ又入學試驗及轉入學試驗ニ於ケル生徒ノ入學轉入學ノ許否決定ニ付同校校長ノ相談役タルノ任務ニ參與シ其ノ他同校教務ヲ擔當シ居リタルモノ」ト事實ヲ認定シ其ノ認定理由トシテ「證據ヲ按スルニ冒頭記載ノ如ク判示期間被告人北島慈幢カ名古屋市立第一高等女學校教諭（判示時期ニ首席教諭ト爲ル）……ヲ奉職シ判示事務ニ從事シ居リタル事ハ孰レモ右被告人等ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ各供述竝原審公判調書中各被告人ノ夫々判示同趣旨ノ供述記載ニ依リテ之ヲ認ム」ト判示セリ而シテ尙被告人北島慈幢ニ對スル判示事項（イ）（ロ）（ハ）ノ各事實ニ付右自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル旨ヲ判示セラレタリ然レトモ被告人ノ教諭タル事ハ該供述ニ依リテ認ムルコトヲ得ルトスルモ判示各項カ其ノ職務ニ關スルモノト認ムルハ不當ナリ公務員ノ職務ノ範圍ハ法令ニヨリテ定マルモノナレハナリ法令事項ハ法律問題ニシテ刑事訴訟法ニ所謂證據ニ依リテ認定スルヲ要セサル事項ナルコト勿論ナルモ該法令ヲ引用シテ說明スルニ非サレハ職務ノ範圍ヲ決定スルコトヲ得ス職務ノ範圍ヲ決定セサレハ被告人カ收賄罪ノ主體トシテ職務ニ關シテト云フ事ヲ得サ

ルヘシ本件被告人カ如何ナル法令ニ基ク職務ニ關スル行爲トシテ收賄シタルモノナリヤ不明ナリ前記判示ハ被告人ノ供述ヲ證據トシテ職務ニ關スルモノト認定シタレトモ被告人ノ供述ハ法令ニ基ク職務ナリヤ否ヤヲ主觀的ニ信シタルノミナルヲ以テ客觀的ニ存在スル根據ヲ審理且說明スルヲ要ス然ラサレハ被告人ノ主觀的誤信ニ基ク供述ニヨリテ客觀的存在事實ノ有無ヲ左右スルニ至レハナリ而シテ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニハ生徒ノ入退學ニ關シテハ入學資格ニ關スル規定ノミニシテ入學許可ニ關スル規定ハ存セス明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則ニハ生徒ノ入學資格ノ規定校長ノ職務トシテ生徒ノ卒業退學懲戒等ニ關スル規定アルモ入學許可ニ關スル規定無ク同令第五十三條ニ於テ學則ヲ文部大臣ニ屆出ツヘキ旨及該學則中規定スヘキ事項トシテ入學事項等ヲ規定セルヲ以テ右省令ハ學校設置者カ生徒ノ入學許可ニ關スル規定ヲ定ムヘキ趣旨ト解スルヲ得ヘシ而シテ本件ハ名古屋市立ノ學校ニ關スルモノナルヲ以テ愛知縣及名古屋市ノ規定又ハ命令ニ於テ生徒ノ入學ニ關スル事項ハ定マルモノト云フヘシ該事實ヲ明ニセサレハ誰カ生徒ノ入學許可ニ關スル權限アリヤ不明也從テ敎諭タル本件被告人カ生徒ノ入學ニ關スル職務關係不明ナリト謂フヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ原判決ハ審理不盡若ハ理由不備ノ違法存スルヲ以テ破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在リ

按スルニ苟モ公務員其ノ職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ瀆職罪ヲ構成スヘシ原判決ノ確定シタル事實ニ從ヘハ被告人ハ名古屋市立高等女學校ニ敎諭トシテ在職中同校カ毎年三月施行スル入學試驗ニ試驗委員トシテ又ハ校長カ入轉學ノ許否ヲ決定スルニ當リ事實上其ノ相談協議ニ關與スル等敎務ヲ擔當シ居リタリト云フニ在リ而シテ同女學校敎諭ハ公立學校職員制（大正六年勅令第五號）第六條ニ基キ生徒ノ敎育ヲ掌ルモノナレハ刑法ニ所謂公務員タルコト疑ナシ然リ而シテ收賄罪ノ犯罪事實ヲ判示スルニ當リテハ其ノ犯罪ノ主體カ公務員タルコトヲ知リ得ヘキ程度ニ於テ具體的ノ判示ヲ必要トシ其ノ職務權限カ法令ニ基因スルコトヲ必要トスルコト夙ニ判例ノ存スル所ナリト雖其ノ準據法令ノ如キハ常ニ必スシモ判文ニ之ヲ明示セサルヘカラサルモノニ非サルナリ然カモ既ニ名古屋市立高等女學校ノ敎諭カ公務員タルコト上敍ノ如クナル以上同敎諭カ原判示ノ如ク他人ヨリ同校ニ入轉學斡旋方ノ依賴ヲ受ケ之レカ謝禮又ハ入轉學希望者ノ將來ニ於ケル敎務上ノ盡力ニ對スル報酬トシテ判示商品券ノ贈與ヲ受クルカ如キハ其ノ入轉學希望者ニ對スル許否ノ決定權カ校長ニ專屬スルト否トニ拘ラス又請託關係ノ有無ヲ論セス均シク敎育上ノ職務ニ關係ヲ有スルコト勿論ナリトス蓋シ公務員カ他人ヨリ或ル利益ヲ收受シタル場合其ノ利益カ職務ニ關係アリヤ否ヤハ單ナル事實認定ノ問題ニ非スシテ一定ノ職務權限ヲ有スル公務員カ夫等ノ利益ニ關係ヲ有スルコトカ公務員タル身分地位ヨリ觀察シテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルヘキ事情アリヤ否ヤヲ客觀的ニ評價シテ判斷スヘキ法律上ノ問題ニ屬スレハナリ原判決ニハ所論ノ如ク審理不盡又ハ理由不備ノ不法存在セス論旨理由ナシ

【要旨】

同第二點原審判決ハ重大ナル事實誤認ノ違法アリト思料ス原判決ニ於テ認定シタル被告人北島慈幢ニ對スル判示ノ各事實（イ）額面金三十圓ノ商品切手一枚（ロ）ノ（一）額面金十圓ノ商品切手一枚及（二）額面金二十圓ノ商品切手一枚（ハ）額面金十圓ノ商品切手一枚計四點ニ付夫々入學許可ノ謝禮及教務上ノ盡力ニ對スル報酬ノ趣旨ノ下ニ贈與ヲ受ケタルモノト認定セル旨ヲ判示セラレタリ然レトモ右授受ノ事實ハ被告人ノ供述及證人ノ證言等ヲ綜合考察スレハ受領シタル被告人及ヒ贈與者ノ身分地位ヨリ觀テ右程度ノ贈與品ハ一般社會上ノ儀禮トシテ手土產品ト見テ差支ヘ無カルヘシ古來我國ノ習慣ヨリスルモ儀禮ノ美德ナルハ勿論ニシテ問題ハ儀禮ノ程度ヲ超過シタリヤ否ヤニ存スルモ現今ノ社會經濟事情ト當事者ノ身分地位ヨリ觀察シテ判示ノ前記商品券授受ノ事實ハ全ク儀禮ノ範圍內ノモノナリト信ス而シテ慣習又ハ條理ノ命スル所ニ從ヒ行爲カ善良ノ風俗ニ反セサルモノナルトキハ正當ナル行爲トシテ違法性ヲ缺クモノナルコトハ當然ニシテ法令ニ依ル行爲ヲ以テ形式的違法性ヲ缺クモノ又ハ實質的違法性ヲ缺クモノト謂フヘシ然リトセハ前記判示ノ商品券授受ノ各行爲ハ違法ヲ阻却セラルヘキ事實ニシテ犯罪ノ證明ナキモノナリ然ルニ原審判決ハ右違法ヲ阻却セラルヘキ事實ニ對シ之ヲ誤認シテ職務ニ關スル謝禮又ハ報酬トシテ違法ナル贈與ヲ受ケタルモノト認定シタル違法アリト信ス依テ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在レトモ

苟モ公務員其ノ職務ニ關シ特別ノ依賴ヲ受ケ之ニ對スル謝禮又ハ報酬ヲ受クルカ如キハ其ノ行爲自體公務員トシテノ職務上ノ地位ト相容レサルモノニシテ職務執行ノ公正ヲ疑ハルヘキ事情存在シ刑法カ瀆職罪ノ規定ヲ設ケテ禁遏セムトセル法益ヲ侵害スルモノト云ハサルヲ得ス從テ斯カル場合ニ在リテハ金品授受者ノ身分地位或ハ慣習ノ存否ノ如キハ之ヲ參酌スルコトナク金品ノ種類多寡ノ如何ヲ論セス瀆職罪ヲ構成スルモノト斷セサルヘカラス果シテ然ラハ一般社交上ノ慣習乃至儀禮ヲ云爲シテ本件行爲ノ違法性ヲ阻却スヘキモノナリト爲ス論旨ノ理由ナキコト自ラ明ナルヘシ

記錄ニ徵スルモ原判決ノ事實認定ニハ重大ナル過誤アルモノニ非ス論旨理由ナシ

被告人北島慈幢辯護人相澤隼人　六鹿了上告趣意書第一點原判決ハ「被告人北島慈幢ハ大正七年九月十六日ヨリ昭和八年六月二十日迄ノ間名古屋市立第一高等女學校教諭殊ニ二、三年ニシテ首席教諭トシテ每年三月施行サルル同校ノ入學試驗ニ際シ試驗委員トシテ同試驗ノ考査ヲ擔任シ又入學試驗及轉入學試驗ニ於ケル生徒ノ入學轉入學ノ許否決定ニ付同校長ノ相談役タルノ任務ニ參與シ其ノ他同校教務ヲ擔當シ居リタルモノナリ」ト說示スレトモ生徒ノ入學轉入學ノ許否決定權ハ同校長ノ專權ニ屬シ教頭タリシ上告人北島慈幢ニハ常ニ相談無ク採否ヲ決セラレタルコトハ當時ノ校長タリシ相被告岡田惠市同神長樞ノ供述ニ徵シテ明白ナリ故ニ上告人北島カ如何ニ入學希望者ノ請託ヲ容レントスルモ校長ニシテ其ノ節ヲ固持スルニ於テハ瀆職罪ノ法益ヲ侵害スヘキ危險無シ從テ瀆職罪ノ法益ヲ侵害スヘキ危險無キ事項ニ關與スル上告人北島カ假令入學志望者ヨリ請託ヲ受ケ且贈物ヲ受取リタリトスルモ德義上ノ問題ハ暫ク措キ直ニ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタリト認ムヘカラス尙上告人カ入學ヲ許可セラレタル生徒ノ父兄ヨリ「將來宜敷賴ム」旨ノ請託ヲ受ケタリトノ點ハ之レ父兄ト教師間ニ於ケル當然ノ挨拶ニシテ普通一般ノ辭令ト見ルヘク之ヲ以テ賄賂ノ條件タル請託ト認ムルカ如キハ社會通念ニ反シ妥當ナラサルモノトス依テ原判決ハ先ツ此點ニ於テ重大ナル事實誤認アルモノトシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

所論原判示冒頭ノ事實ハ被告人カ名古屋市立高等女學校教諭トシテ事實上如何ナル事務ニ從事セシヤヲ具體的ニ判示シタルニ過キス然リ而シテ名古屋市立高等女學校ノ教諭カ刑法ニ所謂公務員ニシテ同校ニ於ケル教育ニ從事シ教務ヲ擔當スルノ職務權限ヲ有スルモノナルコト共同辯護人石渡秀吉ノ上告趣意書第一點ノ論旨ニ對シ說明スル所ノ如クナレハ斯カル權限ヲ有スル被告人カ所論判示冒頭認定ノ如ク每年三月施行セラルル同校ノ入學試驗ニ際シ試驗委員トシテ同試驗ノ考査ヲ擔任シ又ハ入學試驗轉入學試驗ニ於ケル生徒ノ入學轉入學ノ許否決定ニ付同校長ノ相談役タルノ任

務ニ參與スルコトアルヘキハ當然ニシテ斯カル行爲ハ教務ニ從事スル教諭ノ職務ノ範圍ナルコト疑ヲ容レス果シテ然ラハ被告人カ敍上職務ニ牽聯セル事項ニ付特別ノ依頼ヲ受ケ其ノ謝禮又ハ報酬ノ意味ヲ以テ交付セラレタル金品ヲ收受スルトキハ收賄罪ヲ構成スヘキヤ疑ヲ容レサルナリ若シ夫レ被告人カ生徒ノ入轉學ニ際シ之カ許否ノ決定權ヲ有スルヤ否ヤノ如キハ本件收賄罪ノ成否ニ消長ヲ來タスヘキ事項ニ非サルコト勿論ナルノミナラス原判決ノ判示スル所ニ從フモ被告人ニ敍上許否ノ決定權アリト爲スモノニ非サルコト判文自體明ナリ記錄ニ徵スルモ原判決ニハ所論ノ如キ事實誤認ノ不法存在セス論旨採ルニ足ラス（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○業務上横領私文書僞造行使被告事件（昭和十年（れ）第八一三號　同年八月二十九日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　安田兵馬　【辯護人】田坂貞雄　鎌田正治

【第一審】高知地方裁判所　【第二審】大阪控訴院

○判示事項

共有金ニ對スル横領罪ノ成立

○判決要旨

共有者ノ一人カ其ノ占有セル共有金ヲ擅ニ自己一人ノ爲費消スルニ於テハ該共有金全部ニ付横領罪成立ス

【參照】刑法第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人安田兵馬ヲ懲役八月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中七十五日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第二十號ノ一中得能通淸名義ノ僞造委任狀一通ハ之ヲ沒收ス訴訟費用中證人得能通淸　池昇　三宅蘗　小西寅之助（以上第一審）大村傳太郎　小西寅之助　中平傳吉　三宅蘗　池昇　十河政太郎　奥田正春（以上第二審）ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔ト

スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ高知市潮江天神町所在眞如寺ノ維持保存等ヲ目的トシテ創立セラレタル第一號乃至第二十二號及特別第一號眞如寺維持金ト稱スル會員三十四名乃至七十名ヲ講員トスル總株數六十口乃至百口一回ノ掛金毎月二圓乃至五十圓三ケ月乃至十二ケ月ヲ一期ト定メ毎期ニ講會ヲ開催シ抽籤又ハ入札ノ方法ニ依リ取當人ヲ定ムル組合組織ノ賴母子講ノ管理人兼會計主任トシテ講會ノ開催取當人ノ決定講員ヨリ提供シタル擔保物ノ處理保管講員ヨリ徵收シタル掛金ノ出納保管竝落札金ノ給付等ノ事務ヲ取扱ヒ居リタル者ナルトコロ

第一　昭和七年六月十四日頃前記眞如寺ナル第一號眞如寺維持會事務所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ同講講員得能通清ノ名義ヲ冒用シ同人カ仙頭五郎ニ對シ「第一號眞如寺維持會講六月十四日總會ヘ出席ノ上陳述ヲ爲シ決議ニ贊成ノ件ヲ委任スル」旨ノ委任狀一通ヲ作成シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シテ僞造ヲ遂ケ（證第二十號ノ一中）即日同所ニ於テ同總會ニ提出行使シ

第二　犯意繼續シテ

一（イ）昭和六年十月二十九日頃第十號講眞如寺維持會ノ眞如寺持株第二番株ヲ眞如寺ニ於テ落札シ因テ昭和七年一月三十一日頃同寺ニ交付スヘキ同講講員四十餘名共有（安田旨代ヲ除ク）ノ講金千二百九十圓ヲ

（ロ）昭和七年十一月十二日頃特別第一號講眞如寺維持會講員小西寅之助外三十三名共有ノ講金九百圓ヲ

（ハ）昭和八年二月初頃第一、三、六、八、九號講眞如寺維持會講員池昇ヨリ拂込アリタル同講講員數十名共有ノ講金百圓ヲ

（ニ）昭和八年三月七日頃第十二號講眞如寺維持會ノ眞如寺持株第一番株ヲ眞如寺ニ於テ落札シ同年六月二十一日頃因テ同寺ニ交付スヘキ同講講員四十餘名共有（安田旨代ヲ除ク）ノ講金五百八十八圓ヲ

（ホ）同年八月十一日頃特別第一號講眞如寺維持會ノ眞如寺持株第二番株ニ配當スヘキ同講講員小西寅之助外三十三名共有ノ講金百四十圓ヲ

孰レモ前記業務上保管中其ノ頃擅ニ同市ニ於テ自己ノ用途ニ費消横領シ

二　昭和八年六月十七日頃第十一及十二號講眞如寺維持會講員仙當余子榮外九十一名ノ共有ニ係ル高知市江ノ口字榎ノ本千二十八番宅地三十四坪五合九勺ヲ業務上保管中擅ニ同市ニ於テ自己ノ用途ニ費却横領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示第一ノ私文書僞造ノ點ハ刑法第百五十九條第一項ニ僞造私文書行使ノ點ハ同法第百六十一條第一項第百五十九條第一項ニ各該當スルトコロ右私文書僞造ト其ノ行使トハ其ノ間手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ重キ後者ノ刑ニ從フヘク判示第二ノ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルコロ以上ハ併合罪ニ係ルヲ以テ重キ業務上横領罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中七十五日ヲ右本刑ニ算入スヘク主文第三項掲記ノ文書ハ判示僞造私文書行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ從ヒテ之ヲ沒收スヘク訴訟費用中主文第四項掲記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人田坂貞雄　鎌田正治上告趣意書第六點ハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原決判ハ其ノ事實理由第

二ノ一（イ）乃至（ニ）ニ於テ本件各目的物ハ何レモ各講員ノ共有金ナルコトヲ認メタルニ拘ラス其ノ全額ニ對シ上告人ノ横領ヲ認定シタリ然レトモ上告人ハ右各講中第一、三、六、八、九、十二號及特別第一號講ノ講員トシテ多數ノ講株ヲ所有セルヲ以テ（第一審第三回公判提出持株表及原審證人中平傳吉調書末項援用）自己モ亦該共有權者ノ一人ナルコト論ヲ俟タス然レハ右上告人自身ノ持分ニ對シテハ他人ノ所有物ニ對シテノミ成立スル本罪ヲ構成スルニ由ナキヲ以テ少クトモ此ノ點ヲ除外スヘキニ拘ラス事茲ニ出テス全額ニ對シ横領ヲ肯定シタルハ擬律錯誤ノ違法アリ此ノ點ニ關シ從來反對ノ判例ヲ示サレタルモ單純横領ト異リ本件ノ如ク業務横領ニ關シテハ自ラ別異ノ觀點ニ於テ之ヲ考察スルヲ要ス蓋シ被告人ハ眞如寺維持會講ノ管理人トシテ收支一切ノ常務ヲ取扱ヒ居リタルモノニシテ單ニ特定講ノ收支金ノミヲ機械的ニ保管シタルモノニ非ス卽チ各講關係ノ收入支出ヲ總括シテ之ヲ取扱フ權限ヲ有シタルコト業務ノ性質ニ照シ自ラ明カナリ（原判決事實理由冒頭援用）從ツテ自己ノ占有ニ歸シタル金圓ヨリ支出スヘキモノヲ支出シ各人ヘ分配スヘキモノヲ分配シタル上計算上ノ殘餘財產ニ對シ之ヲ不正ニ領得スルコトニ因リテ始メテ本罪ヲ構成スルモノニシテ清算以前ニ於テハ單純ナル保管金ニ過キサルヲ以テ問題ヲ生セス本件モ亦實ニ此ノ經過ニ於テ結果的ニ發生セルモノナリ從ツテ其ノ自己ノ持分ニ屬スル所得ハ之ヲ當然收受シ得ヘキ立場ニアルヲ以テ斯カル組織ノ下ニ斯カル權限ヲ有スル被告人ニ對シテハ其ノ持分ニ對スル部分ニ迄横領ヲ認ムヘキ筋合ニアラサルヤ論ヲ俟タス然ルニ原審ハ此ノ特殊關係ヲ看過シ單純横領ノ場合ト同一觀察ノ下ニ共有物全額ニ對シ本罪ヲ認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決カ證據ニ依リ確定シタル判示事實ハ被告人ハ原判示各講員ノ共有ニ係ル金員ヲ業務上保管中擅ニ自己ノ用途ニ費消シタルモノナリト謂フニ在リテ斯クノ如キ場合ニ被告人カ所論ノ如ク本件講金ノ共有者ノ一人ナリトスルモ他ノ一面ニ於テ他ノ共有者モ亦該共有金ノ全部ニ付所有權ヲ有スルカ故ニ擅ニ之ヲ自己一人ノ爲メ費消スルニ於テハ該共有金全部ニ付横領罪成立スルコト勿論ナリトス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○收賄賄賂要求被告事件（昭和十年（れ）第八一三號　同年九月二日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　飯田靜治
原審辯護人　林德太郎　外一名
辯護人　（牧野賢男　野野芳大　林德太郎　後藤傳兵衛）

【第一審】相川區裁判所　【第二審】新潟地方裁判所

○判示事項

收賄罪ノ成立ト村會議員ノ職務關係

○判決要旨

村會議員カ村道改修工事ニ關スル豫算案ノ提出竝通過ニ盡力スヘキ旨ノ依賴ヲ受ケ金員ヲ收受シタルトキハ收賄罪成立ス

【參照】刑法第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

町村制第四十條　町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定ムル事

同法第七十二條　町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル十圓紙幣九枚五圓紙幣二枚（證第六號）ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ新潟縣佐渡郡吉井村村會議員ニシテ所謂役場派ノ領袖ナルトコロ昭和九年三月上旬頃同村會議員原審相被告人田中長治ヨリ同年度施行ノ救農土木工事ハ町村道立野線改修工事トシテ實施スヘク吉井村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力セラレ度キ旨依賴ヲ受クルヤ犯意繼續シテ同月十八日頃同村兒玉旅館ニ於テ右田中長治其ノ他立野部落ノ有力者等ト會合シ同人等ニ對シ該工事ハ立野線改修工事トシテ施行スヘク該村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力スヘキヲ以テ其ノ報酬トシテ金百圓ヲ提供セラレ度キ旨申向ケ因テ同年六月六日頃同村光輪寺ニ於テ右田中長治外六名ヨリ金百圓（證第六號）ノ交付ヲ受ケ尙其ノ際同人等ニ對シ縣ヨリ交付セラルヘキ該工事補助金全額ハ之ヲ立野線改修工事ニ使用シ得ル樣盡力スヘキヲ以テ更ニ金五十圓ヲ交付セラレ度キ旨申向ケ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍內ニ於

テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘク但同法第二十一條ニ從ヒ當審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトシ押收ニ係ル十圓紙幣九枚五圓紙幣二枚（證第六號）ハ被告人ノ收受シタル賄賂ナルヲ以テ同法第百九十七條第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人牧野賤男牧野芳夫林德太郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ「被告人ハ新潟縣佐渡郡吉井村村會議員ニシテ所謂役場派ノ領袖ナル處昭和九年三月上旬頃同村村會議員原審相被告人田中長次ヨリ同年度施行救農土木工事ハ町村道立野線改修工事トシテ實施スヘク吉井村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力セラレタキ旨依賴ヲ受クルヤ犯意繼續シテ同月十八日同村兒玉旅館ニ於テ……中略……該工事ハ立野線改修工事トシテ施行スヘク該村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力スヘキヲ以テ其ノ報酬トシテ金百圓ヲ提供セラレタキ旨ヲ申向ケ……中略……金百圓ノ交付ヲ受ケ尙同人等ニ對シ縣ヨリ交付セラルヘキ該工事補助金全額ハ之ヲ立野線改修工事ニ使用シ得ル樣盡力スヘキヲ以テ更ニ五十圓ヲ交付セラレ度キ旨申向ケ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シタルモノナリ」ト判示シ刑法第百九十七條第一項前段第五十五條ヲ以テ問擬セラレタリ然レトモ（一）賄賂罪ノ成立ニ關シテハ公務員タル身分ヲ有スルノミヲ以テ足レリトナスモノニアラスシテ職務權限ヲ有スルモノカ職務ニ關シテ爲シタルコトヲ要スルモノナリ村會議員ノ職務權限トシテハ町村制第五十三條ノ二ニ規定セラレタリ依テ同條ニ規定スル同法第三十九條竝第四十條ヲ檢スルニ同法第四十條第二項ニハ「町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但第七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此限ニアラス」ト規定セラレ但書ニヨリ職務權限ヲ排除セラレ居レリ故ニ本件ノ場合ノ如ク道路法第三十五條ニ基キ當該年度ニ於テ匡救町村土木事業費トシテ內務省農林省兩省ヨリ豫算提出セラレ帝國議會ノ協贊ヲ經テ縣ヘ補助シ更ニ縣會ノ議決ヲ經テ各町村ヘ割當補助ヲ爲シ其ノ四分ノ一ハ町村ノ負擔トナスヘキ立前ノ所謂救農土木事業費ニ基ク救農土木工事ナルモノニ付テハ町村會ノ權限ヨリ排除セラレ町村會議員ハ斯ル事業ニ付何等發案權議決權ヲ有スルモノニアラス加之該補助金ヲ特定ノ具體的ノ事業ニ付振向クルノ權限ヲ有スルノ限ニアラス（二）斯ル土木事業ニ付テハ町村長ノミカ執行機關トシテ費用ノ出入ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナレトモ此ノ補助金ヲ町村豫算ニ組入サルトキハ町村ノ事業トシテ使用スルコト能ハサルヲ以テ形式的ニ歲入豫算トシテ豫算面ニ計上スルニ過キスシテ之ニ就キ村會ハ何等實質的ノ議決權ヲ有スルモノニアラス而シテ町村會議員ハ町村ノ公務執行ニ付キテハ何等關知セサル所ナリトス故ニ町村會議員ハ本件ノ如キ具體的案件ニ付議案ヲ提出スル權限ナキモノナリ（三）該土木事業ニ付町村長カ業務

ノ執行ヲ爲スニ當リ具體的ニ「何々線」ト例ヘハ本件ノ如ク立野線ト專斷ニ行フヘキモノニアラスシテ縣ノ土木課ヨリ派遣セラレタル土木派遣所長ノ認定ヲ基トシテ始メテ決定セラルル故ニ線路ノ決定ハ村長ト土木派遣所長（官吏）トノ協議ニヨリテ具體的ニ定マリ其ノ線路ハ認定線トナルモノニシテ村會議員ハ斯ル土木事業ニ付キテハ認定線ヲ決定スル權限ヲ有セサルハ勿論ニシテ村會ノ豫算案トシテハ具體的線路ヲ指示スルモノニアラス豫算通過後村長ニ於テ線路ヲ認定スルモノナリ然ルニ原審ハ以上ノ如キ事實竝法規ヲ審理探究スルコトナク漫然本件被告人ヲ收賄罪ヲ以テ論シタルハ明ニ審理不盡且擬律錯誤ノ違法ヲ犯セルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ」辯護人後藤傳兵衞上告趣意書第二點ハ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ新潟縣佐渡郡吉井村村會議員ニシテ所謂役場派ノ領袖ナルトコロ昭和九年三月上旬頃同村會議員原審相被告人田中長治ヨリ同年度施行ノ救農土木工事ハ町村道立野線改修工事トシテ實施スヘク吉井村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力セラレ度キ旨依賴ヲ受クルヤ犯意繼續シテ同月十八日頃同村兒玉旅館ニ於テ右田中長治其ノ他立野部落ノ有志者等ト會合シ同人等ニ對シ該工事ハ立野線改修工事トシテ施行スヘク該村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力スヘキヲ以テ其ノ報酬トシテ金百圓ヲ提供セラレ度キ旨申向ケ因テ同年六月六日頃同村光輪寺ニ於テ右田中長治外六名ヨリ金一百圓（證第六號）ノ交付ヲ受ケ尙其ノ際同人等ニ對シ縣ヨリ交付セラルヘキ該工事補助金ハ之ヲ立野線改修工事ニ使用シ得ル樣盡力スヘキヲ以テ更ニ金五十圓ヲ交付セラレ度キ旨申向ケ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シタルモノナリ」ト判示セラレタリ然レトモ村會議員ニ救農土木工事トシテ爲ス村道ノ改修工事ノ實施ヲ爲スヘク之カ議案ヲ村會ニ提出スル職務又ハ權限ヲ有スルヤ否ヤ又縣ヨリ補助セラルル金額ヲ村會ハ自由ニ其ノ欲スル處ニ使用スルコトヲ得ル決議ヲ爲ス職務又ハ權限ヲ有スルモノナルヤ否ヤ換言スレハ判示ノ事項カ村會議員タル職務ノ範圍ニ屬スルモノナルコトニ付何等ノ說明ヲ與ヘス漫然其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ要求シタルモノナリト斷定シタルハ理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ」同第三點ハ町村會ニ於ケル議案ハ原則トシテ町村長之ヲ提出シ（町村制第七十二條）町村會議員ハ例外トシテ町村制第五十三條ノ二ニ依リ町村會ノ議決スヘキ事件ニ付キ議員三名以上ヨリ文書ヲ以テ發案スルヲ得ルノミ而カモ豫算ニ付テハ歲入歲出共ニ發案權ヲ有セス而シテ町村會ノ議決スヘキ事件ハ町村制第四十條ニ之ヲ規定セリ村道ハ道路法第十七條ニ依リ村長之ヲ管理シ之カ改築ニ付テハ同法第五十二條第一項第三號ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス從テ村道ノ改築ハ管理者タル村長カ監督官廳ノ認可ヲ經テ初メテ確定スルモノナレハ此ノ認可ヲ經サレハ工事ヲ施行スルコト能ハサルナリ而シテ改築又ハ修繕ヲ爲ス道路ノ選定及其ノ認可申請等ハ村道ノ管理者タル村長ノ職務權限ニ專屬シ村會議員ニハ何等ノ權限アルコトナシ果シテ然ラハ原判決ニ所謂「同年度施行ノ救農土木工事ハ町村道立野線改修工事トシテ實施スヘク吉井村會ニ其ノ議案ノ提出竝通過ニ盡力スヘク」云々ト判示シタルハ全ク議員ノ職務又ハ權限ニ屬

セサル事項ニ付キ權限アルモノノ如ク誤解シ賄賂罪ヲ認メタルモノニテ罪トナラサル事實ニ對シ科刑ヲ宣告シタル違法アリ破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ』同第四點ハ村會議員ニ改修ヲナス道路ヲ具體的ニ決定スル權限ナク其ノ權限ハ監督官廳ノ認可ヲ條件トシテ道路管理者タル村長ニ專屬スルモノナルコトハ前論點ニ之ヲ述ヘタリ而シテ本件記錄ニ編綴セラレタル第三十五號吉井村豫算書ヲ檢閲スルニ歳出臨時部第六款ニ農村振興土木事業費トシテ二千二百二十圓ヲ計上シアルモ原判決ノ認ムルカ如ク立野線改修工事云々ノ如キ具體的附記ノ存スルモノナシ原判決ハ如何ナル根據ニ基キ被告カ立野線改修工事ヲ提案又ハ議決乃至立野線工事ノ議案通過ニ盡力スヘキ權限アルコトヲ認メタルヤ解スルヲ得サルトコロナリ要スルニ原判決ハ何等法律上並事實上ノ根據ナクシテ不當ニ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ、同第五點ハ原判決ハ「縣ヨリ交付セラルヘキ該工事補助金ハ之ヲ立野線改修工事ニ使用シ得ル樣盡力スヘキヲ以テ更ニ金五十圓ヲ交付セラレ度旨申向ケ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ要求シタリ」ト判示セラレタリ然レトモ村會議員ハ農村振興土木事業費トシテ村長ノ提出シタル抽象的豫算額ヲ議決スルニ止マル而シテ村長ハ村會ニ於テ協贊ヲ經タル豫算額ノ範圍内ニ於テ改修スヘキ道路ヲ選定シ監督官廳ノ認可ヲ經テ初メテ改修スヘキ道路カ具體的ニ確定スヘキモノナリ殊ニ本件ノ農村振興土木費タルヤ國庫ノ補助ニ係リ國庫ヨリ各府縣ニ移讓シ一旦各府縣ノ豫算ニ計上セラレ更ニ府縣ヨリ町村ニ割當セラルルモノニテ其ノ性質國家ノ補助工事タル

關係上當該工事ノ選定執行等極メテ嚴重ニシテ道路管理者タル村長サヘ其ノ自由裁量ヲ許サス一々監督官廳ノ認可ニ待タサルヘカラサルナリ況ンヤ村會議員ニ該豫算ヲ立野線ノミニ使用スヘキコトヲ議決スル權限等毫モ存スルコトナシ之ヲ要スルニ立野線工事ヲ實施スルヤ或ハ他ノ道路工事ヲ爲スヤハ道路管理者タル村長ノ選定ト監督官廳ノ認可トノ二條件ノ完備ニ依リテ確定スルモノニテ村道中何レノ工事ヲナスヘキヤニ付キ職務ト權限ヲ有スル者ハ村長ト監督官廳ノ外ニ出ツルコトナク此間村會議員ノ職務又ハ權限ノ發動スル餘地寸毫モ存スルコトナシ然ルニ原判決ハ前揭ノ如ク村會議員ニ於テ改修スヘキ道路ヲ具體的ニ議決スル權限アルカ如ク又其ノ豫算ノ使途ヲ自由ニ議決スルコトヲ得ルカ如ク判示シタルハ本件事案ニ對スル被告等村會議員ノ職務權限ヲ誤解シタル結果ニシテ違法タルヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ改修ヲ要スル町村道ノ路線ヲ決定スルハ町村長ノ職務ニシテ町村會ノ職務ニ屬セサルコト道路法ノ規定上明白ナリト雖本件町村道ノ改修工事ニ付テハ其ノ費用ノ四分ノ一ハ町村之ヲ負擔スヘキモノナルカ故ニ町村長カ右決定ヲ爲シ之ヲ施行スルニ付テハ町村ノ歳入出豫算ニ右費用ヲ計上シ之ニ付テ町村會ノ議決ヲ經ルコトヲ要スルハ町村制ノ規定上疑ヲ容レサル所ナリ而シテ町村ノ豫算ニ付テハ町村長其ノ議案ヲ發スヘキモノニシテ町村會議員ニ於テ其ノ發案權ヲ有スルモノニアラスト雖町村會ニ右豫算案ノ提出セラルルニ當リ其ノ通過ノ爲ニ議決權ヲ行使スルコトハ同議員ノ職務タルヤ

寔ニ明白ナリト云フヘク且議員カ右議案ノ當否ヲ審案シテ議決ヲナスニ付テハ具體的ニ其ノ路線ヲ認識シ更ニ其ノ他ノ事情ヲ明ニスルコトヲ要スルヤ勿論ニシテ特定ノ路線其ノ他ノ事項ヲ條件トシテ議決ヲ爲シ得ヘキコト亦當然ナリトス從テ判示救農土木工事補助費全部ヲ判示町村道立野線改修工事ニ使用シテ該工事ヲ實施スルコトヲ條件トシテ豫算案ノ通過ニ盡力スルコトハ判示村會議員タル被告人ノ職務ニ關スルモノト認ムヘク而シテ此ノ目的ヲ以テ當該村長ヨリ豫算案ヲ提出セシムルコトニ盡力スルハ被告人ノ職務其ノモノニ非サルモ其ノ職務ト密接ノ關係アル事項ナリト云ハサルヘカラス然レハ則被告人ニシテ判示議案カ合法的ニ判示村會ニ提出セラルルコトヲ斡旋シ其ノ提出アルヤ其ノ通過ニ盡力スルコトニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ要求スルニ於テハ收賄ノ罪責ヲ免レサルコト明白ナリ原判決ハ其ノ行文簡粗ニシテ闡明ヲ缺クノ嫌ナキニ非スト雖全判決ヲ熟讀スレハ其ノ趣旨畢竟敍上ノ説明ニ異ナル所ナキヲ認メ得ルカ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ違法アリト爲スヲ得ス論旨結局理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○新聞紙法違反被告事件（昭和十年（れ）第七九七號　同年九月四日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】　被告人　高野清八郎　辯護人（竹内忠　大沼末吉）

【第一審】　東京區裁判所　【第二審】　東京刑事地方裁判所

○判示事項

新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ事項

○判決要旨

雜誌ニ掲載シタル事項ニシテ現社會革新ノ爲速ニ非合法的直接行動ヲ爲スノ必要アルコトヲ示唆慫慂スルカ如キモノハ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ニ該當ス

新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ事項

【參照】新聞紙法第四十一條　安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ編輯人竝發行人ノ各資格ニ於テ各罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ折算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市芝區白金三光町三百八番地新使命社ニ於テ新聞紙法ニ依リ發行スル雜誌「新使命」ノ發行人兼編輯人ナルトコロ昭和九年五月一日附發行ノ同誌五月號（第十一輯第五號）ニ「昭和維新の新意義」ト題シテ我國現下ノ混亂狀態ハ過去及現在ノ指導支配階級カ皇位大權ヲ蔑ニシ國利民福ヲ念トセス私利私慾ニノミ沒頭シテ敢テ自ラ覺ルトコロナキニ基因スルモノナレハ是等指導支配階級ヲ排擊シ皇位大權ヲ擁護確立スルコトヲ以テ昭和維新ノ本義ト爲ス旨論述シ（中略）ト說キテ現時ノ世相ニ亦直接行動ノ心要ナルコトヲ示唆シタル安寧秩序ヲ紊ス事項ヲ編輯掲載シ同月一日頃右雜誌約二千部ヲ東京市ヲ中心トシテ全國各地ニ頒布シ以テ發行シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ發行人竝編輯人ノ各資格ニ於テ新聞紙法第四十一條ニ該當スルヲ以テ同法所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍內ニ於テ被告人ヲ發行人竝編輯人ノ各資格ニ於テ各罰金五十圓ニ處シ被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ折算シタル期間勞役場ニ留置ス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人竹內忠上告趣意書第一第二審判決ニ於テハ本件被告事件ノ目的タル雜誌新使命（昭和九年五月一日附發行第十一輯第五號）ニ昭和維新ノ眞意義ト題シテ我國現下ノ混亂狀態ハ過去及ヒ現在ノ指導支配階級カ皇位大權ヲ蔑ニシ國利民福ヲ念トセス私利私慾ニノミ沒頭シ云々ト論シタル論文ヲ捉ヘテ文章ノ內容自體カ社會ノ安寧秩序ヲ紊ス事項ナリト判示シタルモ非常時日本ニ於ケル現下社會情勢ニ照シ明ニ誤レル見解ナリト云ハサル可カラス抑「安寧秩序」ナル字句ノ意義ハ其ノ時代々々ニ於テ夫々異ルヘク明治時代ニ於テ安寧秩序ヲ紊シタル事項ト雖大正昭和ノ時代ニ於テハ何等安寧秩序ヲ紊スモノニ非サル場合ハ多々アルヘク滿洲事變以來國ヲ擧ケテ非常時ヲ叫ヒ國家改造ノ聲巷ニ滿ツルトキ本件ノ問題トナレル「昭和維新ノ眞意義」ナル文章ノ如キハ以テ社會ノ安寧秩序ヲ紊スモノナリト言フ事ヲ得ス寧ロ社會ノ輿論ニシテ立派ナ一論文トシテ見ルヘキモノニシテ文章ノ勢餘リ字句偶過激ニ失スル場合アリト雖之ヲ以テ所謂新聞紙法第四十一條ニ云フ安寧秩序ヲ紊ス事項ト云フ事ヲ得ス新聞紙法第四十一條ニ云フ安寧秩序トハ文章全體ヨリ見テ言フヘキモノニシテ字句ニ拘泥スヘキモノニ非サルモノナリ第二審判決中「云々」ト說キテ現時ノ世相ニ直接行動ノ必要ナル事ヲ示唆シタル安寧秩序ヲ紊ス事項ヲ編輯掲載シトアリ文章自體カ如何ニモ直接行動ヲ示唆シタルモノノ如ク判示シタレトモ本件問題ノ論文ヲ熟讀翫味スルトキハ決シテ然ルヘキモノニ非ス只々國家ノ改造ヲ强調センカ

282371

爲メニ種々ノ言辭ヲ用ヒタルニ過キスシテ之ヲ現下ノ情勢ニ照シテ安寧秩序ヲ紊スモノナリトハ考ヘ得ヘカラサルモノト言ハサル可カラス抑彼ノ文章ヲ讀ミテ直接行動ノ必要ナル事ヲ示唆シタルモノナリト見ルハ早計ニシテ且ツ杞憂ニ過クルモノト言ハサル可カラス第二本件ハ社會ノ安寧秩序ヲ紊ス可能性アリヤ否ヤト云フ事ナリ假リニ文章其ノモノハ安寧秩序ヲ紊スモノナリト雖立派ナ批判力ヲ有スル者ノミ以外之ヲ讀マサルトセハ如何例ヘハ醫書ノ如キ普通人カ見レハ目ニ餘ルモノト雖醫書ナルカ故ヲ以テ風俗ヲ亂スモノトセス之ヲ公ニシテ何等罰セサルニ非スヤ之ヲ本件ニ徵スルニ雜誌新使命ハ一般社會ニ頒布セルモノニ非ス只々帝國軍人ノ一部ニ頒布シタルニ過キス殊ニ本件ノ新使命ナルモノハ茲數年間軍人有志ノ同人雜誌テアリ有志間ノ意見ノ交換機關ニシカ過キサルモノナリ然リトセハ安寧秩序ヲ紊ス恐レアルハ日本帝國軍人ノミト言ハサル可カラス之ヲ能ク考フルニ我帝國軍人カ斯ノ如キ一パンフレットニ依リ果シテ動スルモノナルヤ若シ動スルモノナリトセハ我國家ノ前途ヤ實ニ怪シム可ク我等ハ今日斯ノ如ク安閑トシテ枕ヲ高フスル事ヲ得サルモノナリ今日我等カ斯クノ如ク世界ノ一等國民トシテ國際聯盟マテ脫シ滿洲ニ安住ノ手ヲ延ハシ枕ヲ高フシ得ルハ上ニ天皇ヲ戴キ上官ノ命ハ天皇ノ命ト心得火ノ中水ノ中モノトモセサル爆彈三勇士ノ如キ帝國軍人アルカ爲メニ非サルヤ斯ノ如キ帝國軍人カヨシ若シ新使命ノ記事其ノモノカ一歩讓ツテ普通一般社會ニ於テハ安寧秩序ヲ紊スモノナリトスルモ軍人社會ニ於テハ絶對ニ安寧秩序ヲ紊スモノト言フヲ得ス若シ夫レ安寧秩序ヲ紊スト言フモノアリトセハ其ハ帝國軍人ヲ解セサルモノト云フ可ク軍人ヲ侮蔑スルノ甚シキモノナリ帝國軍人ヲ侮蔑スルモノハ又非國民ト云ハサル可カラス第三第二審判決ニ於テ雜誌約二千部ヲ東京市ヲ中心トシテ全國各地ニ頒布シ以テ發行シタルモノナリト判示シ軍人ノミニ頒布シタル事ヲ判示セス假リニ本件ノ論文カ社會ノ安寧秩序ヲ紊ス虞アリトスルモ其ハ一般社會ニ頒布シテコソ其ノ疑ヲ持ツモノニシテ若シ第二審裁判所ハ一般社會ニ頒布シタルモノト認定シタリトセハ如何ナル證據ヲ以テセルモノナルカ憲兵隊ノ報告書ニ徵スルモ檢事ノ聽取書ニ徵スルモ一般社會ニ頒布セサルモノナル事ハ明ナリ若シ其レ一般社會ニ頒布ノ虞アリトセハ未遂ト言ハサル可カラス未遂ハ之ヲ罰スルノ理由ナク此點ニ於テ明ニ違法アリト言フヘキナリ第二審ニ於テ檢事ハ本件ハ形式犯ナルカ故ニ被害ノ有無ヲ問ハス犯意ノ如何ヲ問ハス刊行物ノ記事自體ニ依ツテ判斷スヘキモノナル旨ノ論告ヲ爲シタリ然レトモ新聞紙法第四十一條ニ云フ安寧秩序トハ刊行ノ目的ニ依リ頒布ノ方法區域ニ依ツテモ定ムヘキモノニシテ記事自體ノミヲ以テ論スル事ヲ得サルモノト言ハサル可カラス苟モ結果ニ於テ何等ノ被害ナク又被告人本人モ何等認識ナキ場合ニ於テハ之ヲ罰スルノ必要ナキモノナリ之ヲ案スルニ本件ハ不能犯ヲ以テ論スヘキモノニシテ之ヲ敢テ有罪トスルハ違法アリト言ハサル可カラス形式犯ナルノ故ヲ以テ不能犯ナシト言フコトヲ得ス第四終リニ第二審ノ記錄中竹內辯護人ハ其ノ辯論ニ於テ「本件出版物ノ內容ハ軍ノ統制ヲ紊シタルモノト認ムヘキモノナリ」ト記載シアレト之ハ「認ムヘキモノニ非ス」ノ誤ニ付キ

訂正セラレ度ト云フニ在リ

【要旨】

然レトモ判示雜誌「新使命」（昭和九年五月一日附發行第十一輯第五號）ニ掲載シタル記事ノ内容ハ原判示ノ如クニシテ之ニ依レハ現社會ニ於ケル一切ノ支配指導者階級ハ徒ニ私利私慾ニ沒頭シ腐敗ノ極ニ達セルヲ以テ須ク之ヲ排擊シ昭和維新ノ實ヲ擧クヘク其ノ目的ヲ遂行スルカ爲ニハ合法的手段ニ依ルモ何等ノ效果ナキヲ以テ速ニ非合法的實力的ナル直接行動ニ出ツルノ必要ナルコトヲ示唆慫慂スルモノナルコト寔ニ明白ナリトス按スルニ我カ國體ヲ尊重スル愛國ノ精神ニ基キ現社會腐敗ノ素因ヲ排除シテ國利民福ヲ計ラムトスル諸般ノ合法的運動ハ固ヨリ之ヲ推奬スヘキモノナリト雖其ノ目的ヲ達成セムカ爲敢テ國法ヲ犯シ不法ノ暴力ヲ行使シ法律秩序ヲ無視シテ急速ニ社會革新ヲ斷行スヘシト爲スカ如キハ誤マレルノ甚シキモノニシテ斯ル行動ノ存スルアラハ我カ國ニ於ケル公共ノ平安紀綱ノ整肅ヲ保持スルコト能ハサルニ至ルヘク到底之ヲ看過許容スヘキニ非ルナリ左レハ現社會ヲ革新セムカ爲速ニ非合法的直接行動ヲ爲スノ必要アルコトヲ示唆慫慂スル記事ヲ雜誌ニ掲載スルカ如キハ其ノ目的動機ノ如何ヲ論セス客觀的ニ觀察シテ安寧秩序ヲ紊スモノト認メサルヲ得ス判示記事ハ右ノ意義ニ於テ正ニ新聞紙法第四十一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スモノニ該當スト云フヘク此ノ點ニ關スル原審ノ見解亦之ト其ノ軌ヲ一ニスルモノトス既ニ敍上ノ雜誌記事ニシテ安寧秩序ヲ紊亂スルモノナルコト明白ナル以上ハ縱令同記事カ全論文中ニ於ケル一項一節ニ過キサルモノトスルモ之カ爲右記事ヲ合法

視スルノ理由ト爲スニ足ラス況ヤ原判決擧示ノ證據ニ依レハ「昭和維新の眞意義」ナル題下ニ論述スルトコロハ其ノ全編ヲ通シ脈絡一貫シ判示摘錄ノ記事ハ實ニ其ノ核心ヲ爲スモノナルコトヲ知リ得ルニ於テオヤ而シテ右記事ヲ掲載シタル雜誌「新使命」ヲ東京市ヲ中心トシ廣ク全國各地ニ配布發行シタル事實ハ判示證據ニ徵シ明白ニシテ記錄ニ徵スルモ此ノ點ニ關シ原判決ニ何等ノ誤認アルコトナク從テ同雜誌ノ發行人兼編輯人タル被告人ハ判示所爲ニ付新聞紙法第四十一條違反ノ罪責ヲ負フヘキモノナルコト言ヲ俟タス尙新聞紙法ニ依リ發行スル雜誌ノ發行人兼編輯人カ其ノ雜誌ニ掲載シタル記事ノ安寧秩序ヲ紊スモノナルコトヲ認識セサリシ場合ト雖苟モ該記事自體ヲ客觀的ニ觀察シテ安寧秩序ヲ紊スモノト認メラルル場合ニ於テハ同法第四十一條ノ違反罪ヲ構成スルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ所論ノ如ク被告人ニ於テ安寧秩序紊亂ノ記事ナルコトヲ認識セス實害ノ發生セサルコトヲ主張シ又ハ雜誌刊行ノ目的讀者ノ資格範圍ヲ云爲シ被告人ノ所爲ヲ以テ同違反罪ノ未遂犯若シクハ不能犯ナリト論スルカ如キハ全ク誤謬ノ見解ナリトス要之原判決カ判示事實ヲ認メ之ヲ新聞紙法第四十一條ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法存スルコトナシ（論旨中第二審ニ於ケル竹内辯護人ノ辯論要旨ニ付云爲スルトコロアルモ原審公判調書ニ依レハ「本件出版物ノ内容ハ軍ノ統制ヲ紊ルモノト認ムヘキモノナク云々」ト記載シアルヲ以テ所論ノ如ク之ヲ訂正スルノ要ナシ）論旨ハ其ノ理由ナシ

（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○水利妨害被告事件（昭和十年（れ）第八一八號　同年九月十一日第三刑事部判決　破毀自判）

【上告人】被告人　藤本金助　辯護人　河田善兵衛

【第一審】高松地方裁判所　【第二審】大阪控訴院

○判示事項

慣行ニ反スル灌漑用水ノ揚送ト下流水利權者ノ正當防衛

○判決要旨

大旱魃ニ際シ或部落カ一定ノ用水路ヨリ從來ノ慣行ニ反シ多量揚送水シテ下流ノ田用水ヲ減少シ爲ニ該田地ノ稻カ枯死スル虞アル場合ニ於テ下流ノ水利權者カ其ノ侵害ヲ排除スル爲右部落ノ送水設備ヲ取除キタル行爲ハ正當防衛ヲ以テ論スヘキモノトス

【參照】刑法第三十六條第一項　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス判決確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス訴訟費用ハ全部被告人及第一審相被告人尾崎佐和太ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

香川縣綾歌郡ヲ貫流セシ大束川（ダイソクガワ）ノ流域ニ屬スル田約五百町歩ハ仁池掛（ニイイケガカリ）ト稱シ該池ノ貯水ヲ大束川ニ設置セラレタル數個ノ横井堰ヲ經テ引水シ稻作ノ灌漑用水ニ供シ居タル處同郡坂本村大字川原字北岸及土居兩部落ノ田約二十三町歩ハ元來大久保池掛ニテ同池ノ貯水ヲ以テ灌漑スヘキモノナルモ古來水量不足ノ場合ニハ前示大束川ノ上流ニ設置セラレタル播磨湧横井堰本掛水路ヨリ夫々七臺又ハ五臺ノ足踏水車ヲ以テ揚水補給シ得ル慣行認メラレ即チ兩部落ハ播磨湧横井堰本掛水路ヨリ夫々右足踏水車ヲ以テ揚水シ得ヘキ水量ヲ引用シ得ル水利權ヲ有シ大正十三年以來孰レモ右水車ニ枠ヘ五馬力發動機ヲ据付ケ昭和九年ノ大旱魃期ニモ亦之ヲ使用シ居リタル爲前示仁池掛ニ屬スル大束川下流ノ田同郡坂本村大字東坂本字三ノ池ノ約十六町歩及同郡川津村ノ約百五十町歩ハ甚シク灌漑用水ノ缺乏ヲ來シタルカ其ノ水利關係者ハ之ヲ北岸及土居兩部落ニ於テ古來ノ慣行ニ反シ前示ノ如ク發動機ヲ使用シ多量ノ揚送水ヲ爲ス爲ナリト思惟シ香川縣廳ニ該事情ヲ具シ相當處置ヲ講セラレ度キ旨再三陳情シタルニ拘ラス當局ニ於テハ荏苒善處セス時恰モ稻穗孕期ニ際シ急速ニ配水スルニ非サレハ枯死ノ虞アリシヨリ右解決ニ焦慮シ居

リタル折柄北岸部落ハ同年八月二十五日土居部落ハ同月二十八日頃ヨリ更ニ發動機ヲ使用シタル爲當時ノ川津村長タル被告人ハ翌月二日三ノ池部落ニ於テ同部落水利總代ナル原審相被告人尾崎佐和太ト相會スルヤ前示川津村及三ノ池部落ノ大東川下流田ニ對シ速カニ灌漑用水ヲ配給センニハ右兩部落ノ發動機使用ヲ阻止スル外ナシト談シ翌三日午前六時頃其ノ水利關係者ヲ三ノ池路上ニ集合シ該發動機ニ附屬セル灌漑用送水管ノ一部ヲ取外サシメ以テ右兩部落ヘノ送水ヲ阻止センコトヲ協議シ被告人等兩名ハ夫々手配ヲ爲シテ右水利關係部落民ニ其ノ旨ヲ通知シ翌三日午前七時頃三ノ池路上ニ會合シタル百二三十名ノ同部落民ニ對シ前示趣旨方途ヲ說明シ即時之ヲ決行スヘク激勵シ會集者ヲ二班ニ分チ夫々其ノ部署ヲ定メ茲ニ一同共謀ノ上同日午前八時頃先ツ藤本澤太外六七十名ハ土居部落ニ到リ高橋ツル方西隅ニ發動機ヲ据付ケ右播磨湧横井堰本掛ヨリ約二十尺揚水シ之ヲ約四十間西方ヘ送水スヘク設置セル同部落民共有ノ直徑五寸亞鉛板製灌漑用送水管約三十間ヲ取外シ次テ高尾金八外五六十名ハ北岸部落ニ到リ宮井米太郎方裏口ニ發動機ヲ据付ケ播磨湧横井堰本掛ノ水路ヨリ約十三尺揚水シ之ヲ約五十五間西方ヘ送水スヘク設置セル宮井郁夫外數名共有ノ前同種灌漑用送水管約十二間ヲ取外シ以テ兩部落ノ有スル前示水利權ヲ妨害シタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第六十條第百二十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ尙同法第二十五條ヲ適用シ情狀ニ因リ二年間其ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ主文ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

○主文

原判決ヲ破毀ス

被告人金助ハ無罪

○理由

辯護人河田善兵衞上告趣意書第三點被告ノ行爲ハ刑法第三十六條ニ該當シ處罰スヘキニアラサルニ原審カ水利妨害罪ニ問擬シタルハ違法ナリト信シ候昨昭和九年ハ非常ノ大旱魃ニシテ灌漑水ニ缺乏シ被告ノ居村川津村各字ノ水田百五十二町餘歩ノ耕作關係者ハ寢食ヲ忘レテ其ノ補給ニ狂奔セルノ際上流ニ在ル土居北岸兩部落ノ者ハ元來足踏水車ニ依リテ揚水スル水量ノ使用權アルニ過キサルニ之ヲ發動機ニ換ヘテ二倍乃至三倍ノ水量ヲ揚水使用セルヨリ流水ノ流下量ハ減少シ下流ニ在ル被告居村川津村ノ耕作者ノ權利トシテ使用スヘキ灌漑水ハ一層缺乏ヲ來シ稻ハ方ニ枯死セントスルノ狀態ニ陷レルヨリ被告及其ノ他ノ主ナル關係人ハ香川縣廳ニ對シ土居北岸兩部落ノ者ノ發動機使用ヲ差止メラレ度キ旨再三陳情歎願セルモ當局者ハ放任シテ顧ミス一方旱魃ハ倍々加ハリ一日ヲ猶豫セハ百五十餘町歩ニ渉ル稻ハ全部枯死スヘク此ノ水田ニ依リ生活スル幾千ノ農民ハ食糧ヲ失ヒ餓死ノ外ナキ急迫ノ場合而モ上流土居北岸兩部落ノ者カ從來使用權ナキ多量ノ流水ヲ使用シ下流被告及其ノ他ノ流水使用權者ノ使用ヲ妨害セルニ對シ其ノ妨害行爲ヲ排除スル爲發動機ニ添加セル送水管ヲ取リ外シタルハ即チ被告及其ノ他ノ水利權者ノ有スル使用權ヲ防衞スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ニシテ刑法第三十六條ニ該當スヘク處罰スヘキニアラサルナリ然ルヲ原審カ尙之ヲ水利妨害罪ヲ構成スルモノト斷シ處罰シタルハ違法ナリト信スト云フニ在リ

慣行ニ反スル灌漑用水ノ揚送ト下流水利權者ノ正當防衞

【要旨】

按スルニ所論北岸土居兩部落ニ於テ一定ノ用水路ヨリ從來ノ慣行ニ反シ濫リニ多量揚送水シテ其ノ水田ヲ灌漑セハ下流ニ位スル田地ノ灌漑用水ハ減少シ從テ其ノ水利權者ハ自己ノ權利ヲ侵害セラレ特ニ旱魃ニ際シテハ其ノ稻ノ成育ヲ阻害セラルヘキハ言ヲ俟タサルトコロニシテ斯ノ如キ場合水利權者カ右ノ如キ損害ヲ免レンカ爲北岸土居兩部落ノ揚送水ヲ阻止スルハ正ニ急迫不正ノ侵害ニ對シ其ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルモノト謂フヘク刑法第三十六條第一項ニ依リ處罰スヘカラサル行爲ナリト爲スヘキナリ原判決認定ノ事實ニ依レハ判示北岸及土居兩部落ノ田約二十三町歩ハ元來大久保池掛ニシテ同池ノ貯水ヲ以テ灌漑スヘキモノナルモ古來ヨリ水量不足ノ場合ニハ仁池掛ニ屬スル大東川ノ上流ニ設置セラレタル播磨湧横井堰本掛水路ヨリ七臺又ハ五臺ノ足踏水車ヲ用ヒ揚水補給シ得ル慣行（原判決引用ノ證據ニ徵シ明ナルカ如ク七臺又ハ五臺ヲ使用シ階段式ニ順次高所ニ揚水スルモノトス）認メラレ居リ即兩部落ハ前記播磨湧横井堰本掛水路ヨリ夫々足踏水車一臺ヲ以テ揚水シ得ヘキ水量ヲ引用シ得ル水利權ヲ有ス然ルニ昭和九年ノ大旱魃期ニ於テハ足踏水車ニ依ラス五馬力ノ發動機各一臺ヲ使用シタル爲メ仁池掛ニ屬スル大東川下流ノ田判示坂本村大字坂本字三ノ池ノ約十六町歩及川津村ノ約五十町歩ハ甚シク灌漑用水ノ缺乏ヲ告ケタルヨリ其ノ水利關係者ハ之ヲ北岸及土居兩部落ニ於テ古來ノ慣行ニ反シ發動機ヲ使用シ多量ノ揚送水ヲ爲スカ爲メナリト思惟シ香川縣廳ニ其ノ事情ヲ具シ相當ノ處置方ヲ再三陳情シタルモ荏苒善處スルトコロナク時恰モ稻穗孕期ニシテ急速ニ配水スルニ非サレハ枯死スルノ虞アリシヨリ愈右解決ニ焦慮シ居タル折柄北岸部落ハ同年八月二十五日土居部落ハ同月二十八日頃ヨリ更ニ發動機ヲ運轉シタル爲メ當時ノ川津村長タル被告人ハ同月二日三ノ池部落ニ於テ同部落水利總代尾崎佐和太ト相會シ川津村及三ノ池部落ノ大東川下流田ニ灌漑用水ヲ配給センニハ北岸土居兩部落ノ發動機使用ヲ阻止スルノ外ナシト談シ翌三日午前六時頃三ノ池路上ニ集合シタル下流水利關係者ト右兩部落ノ發動機ニ附屬セル灌漑用送水管ノ一部ヲ取外ツシ以テ其ノ送水ヲ阻止センコトヲ協議シ且手配シテ右水利關係部落民ニ其ノ旨ヲ通知シ同所ニ集合シタル百二三十名ノ同部落民ニ對シ前趣旨方策ヲ說明シ二班ニ分チ決行スルコトトシ一同共謀ノ上同日午前八時頃先ツ一班ハ土居部落ニ至リ高橋ツル方西隅ニ發動機ヲ据付ケ前顯播磨湧横井堰本掛ヨリ約二十尺揚水シ之ヲ約四十間西方ニ送水スヘク設置セル直徑五寸亞鉛板製灌漑用送水管約三十間ヲ取外ツシ次テ他ノ一班ハ北岸部落ニ到リ宮井米太郎方裏口ニ發動機ヲ据付ケ右同一本掛ノ水路ヨリ約十三尺揚水シ之ヲ約五十五間西方ニ送水スヘク設置セル前同種灌漑用送水管約十二間ヲ取外ツシタルモノニシテ原判決ハ北岸七居兩部落ニ於テハ大正十三年以來孰レモ足踏水車ニ替ヘ五馬力發動機ヲ据付ケ爾來水量不足ノ場合使用揚水シ居タル事實ヲ判示スルモ兩部落カ斯ル內容ノ水利權ヲモ取得シタリト爲スニ非サルコト判文上明白ナルノミナラス其ノ確定スルトコロハ前記ノ如ク兩部落共足踏水車一臺ヲ以テ揚水シ得ヘキ水量ヲ利用スルノ權利ナリ而モ五馬力發動機ノ揚水機能ハ足踏水車ニ優リ多クノ水量ヲ揚送水スル

コト顯著ナル事實ニ屬シ原判決掲記ノ證據ニ於テハ前者ハ後者ノ約三倍ナルコトヲ示セリ果シテ然ラハ北岸及土居兩部落ノ爲セル五馬力發動機ニ依ル揚水ハ慣行ニ反シ多量ニシテ下流水利權者ノ權利ヲ侵害スルモノナリト謂ハサルヘカラス從テ冒頭說明ノ理由ニ依リ原判決ノ確定シタル上揭被告人ノ行爲ハ所謂正當防衞トシテ之ヲ處罰スヘキモノニアラス尤モ原判決事實理由末尾ニ於テ兩部落ノ有スル水利權ヲ妨害シタルモノナリトノ記載アルモ是單ニ確定事實ニ對スル原審ノ法律上ノ意見ヲ附加シタルニ過キサルモノナレハ毫モ事實ノ確定ニ影響ナキトコロニシテ此ノ見解タルヤ誤テリ從テ被告人ニ對シ有罪ヲ言渡シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス論旨ハ其ノ理由アリ

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條第四百五十五條第三百六十二條ニ依リ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘク爾餘ノ論旨ニ對スル說明ヲ省略シ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○有價證券僞造行使詐欺被告事件（昭和十年（れ）第八四七號　同年九月十二日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　橋詰常松　辯護人　名川保男

【第一審】廣島地方裁判所　【第二審】廣島控訴院

○判示事項

代理人ノ犯罪行爲ト民法第百十條ノ適用

○判決要旨

民法第百十條ニ依リ代理人ノ越權行爲ニ付本人カ責任ヲ負フヘキ場合ニ於テモ代理人ノ該越權行爲ニ因ル詐欺罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

【參照】民法第百十條　代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

刑法第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

代理人ノ犯罪行爲ト民法第百十條ノ適用

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和六年五月一日ヨリ廣島市猿樂町百一番地ニ於テ中國內偵社ナル名稱ノ下ニ信用告知業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ

第一　同市堺町三丁目五番地株式取引員紀坂直吉ヨリ金融周旋方ノ依頼ヲ受ケ種々奔走シタル結果昭和八年十二月十九日同人ヲシテ同市草津南町九百三番地金融業萬谷孫八ヨリ金三萬圓ヲ利率月一分二厘（金額一ケ月ニ付三百六十圓）辨濟期限昭和九年六月二十五日ノ約旨ニテ借受ケシメ尙其ノ際約定利率カ利息制限法所定ノ範圍ヲ超過スルトコロヨリ直吉ヲシテ同月分ノ利息トシテ金三百六十圓ノ支拂ヲ爲スト同時ニ翌昭和九年一月ヨリ同年六月迄ノ利息中右超過部分ニ相當スル一ケ月ニ付金百十圓宛合計金六百六十圓ノ前拂ヲ爲サシメ爾餘ノ利息ハ毎月二十五日限リ二百五十圓宛ヲ被告人ヲ介シテ孫八ニ支拂ヲ爲スヘキコトト協定セシメタルカ

（一）昭和九年一月二十六日直吉カ前記協定ノ趣旨ニ從ヒ同月分ノ利息ヲ其ノ雇人ヲシテ被告人方ニ持參セシムルニ當リ既ニ右利息制限法超過部分ノ前拂ヲ爲シタル事實ヲ忘却シ辨濟期限迄ノ利息トシテハ爾後毎月金二百五十圓宛ノ支拂ヲ爲セハ足ルニ拘ラス漫然金三百六十圓宛ノ支拂ヲ爲ササルヘカラサルモノト誤信シ同月分ノ利息トシテ金三百六十圓ヲ持參セシムルヤ被告人ハ其ノ錯誤ニ因ルモノナルコトヲ覺知シナカラ斯ル場合右貸借ニ關係シタル自己ノ敍上地位ニ鑑ミ直吉ニ對シ毎月支拂フヘキ利息トシテハ金二百五十圓宛ニテ足ルモノナルコトヲ注意スヘキ告知義務アルニ拘ラス直吉ノ右錯誤ヲ利用シテ過剩額ヲ不當ニ領得セムコトヲ決意シ全ク右錯誤ニ氣付カサルモノノ如ク裝ヒ何等ノ注意ヲ爲スコト無クシテ該金員ヲ受取リ以テ其ノ差額金百十圓ヲ騙取シ爾後同年五月二十五、六日頃迄ノ間四ケ月ニ亘リ毎月二十五、六日頃直吉カ依然其ノ雇人ヲシテ利息トシテ金三百六十圓宛ヲ被告人方ニ持參セシムルヤ被告人ハ前同樣ノ方法ニ依リ其ノ都度全額ヲ受取リ以テ其ノ差額金百十圓宛合計金四百四十圓ヲ騙取シ

（二）同年六月辨濟期日到來スルヤ同月二十二日頃右直吉ニ對スル出資者ニシテ同人ノ萬谷孫八ニ對スル前記三萬圓ノ仕末方ヲ引受ケ居リタル同市紙屋町九十番地久保田誠之方ニ到リ當時孫八ニ於テハ辨濟期ヲ延期スルコトアルモ別ニ延期料ノ支拂ヲ要求スヘキ申出ヲ爲シ居ラサリシニ拘ラス誠之ニ對シ直吉ノ前記借務ノ辨濟期限切迫セルカ孫八ニ於テハ此ノ際支拂延期料トシテ金千五百圓竝利息制限法所定範圍外ノ六ケ月分ノ利息前拂トシテ金六百六十圓ノ交付ヲ受クルニ於テハ右辨濟期限ヲ同年十二月迄延期スヘキ意向ナル旨申詐リ尙其ノ際同年六月分ノ利息トシテハ前記ノ如ク金二百五十圓ノ支拂ヲ爲セハ足ルモノナルニ拘ラス恰モ金三百六十圓ヲ支拂フ要アルモノノ如ク僞リ申向ケ同人ヲシテ右辨濟期限ノ延滯竝同年六月分ノ利息ノ支拂ノ爲ニハ眞實必要ナル利息前拂金六百六十圓竝同年六月分ノ利息ノ殘金二百五十圓ノ外其ノ必要ナキ支拂延期料金千五百圓竝同年六月分ノ利息中既ニ支拂濟ナル利息制限法所定範圍超過部分タル百十圓モ亦必要ナルモノト誤信セシメ因テ右金員ノ總計トシテ金額二千五百二十圓ノ同人振出支拂人株式會社藝備銀行ナル小切手一通ヲ交付セシメ以テ之ヲ騙取シ

第二　被告人ハ豫テ家屋賃貸業者三宅貫一ヨリ其ノ所有家屋ノ賃借人ニ對スル家屋明渡請求訴訟手續等ノ委任ヲ受ケ其ノ訴狀又ハ委任狀ニ押捺スル爲同人ノ認印ヲ預リ居タルヲ奇貨トシ同人振出名義ノ約束手形ヲ僞造行使シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ

（一）昭和九年四月二十三日前記被告人方ニ於テ行使ノ目的ヲ於テ手形用紙ニ三宅貫一ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前記印章ヲ冒捺シ同人振出名義ノ被告人ニ宛テタル金額千六百七十圓滿期日昭和九年六月二日ナル約束手形竝金額二千圓滿期日昭和九年六月二十五日ナル約束手形各一通ヲ順次僞造シタル上前者ヲ同日後者ヲ同年五月十日何

レモ同市袋町有限責任廣島共立信用組合事務所ニ持參シ其ノ都度同組合理事朝倉久藏ニ對シ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ交付シテ行使シ其ノ旨誤信セシメ因テ手形割引名義ノ下ニ前者ニ付テハ金千六百五十二圓八十八錢ヲ後者ニ付テハ金十九百七十六圓五十錢ヲ其ノ都度自己ノ同組合ニ對スル預金口座ニ振込マシメテ夫々右金額ニ相當スル預金債權ヲ取得シ以テ財産上不法ノ利益ヲ得

（二）記前千六百七十圓ノ僞造手形ノ滿期日切迫スルヤ延期ノ爲ノ手形ヲ僞造行使シテ其ノ急場ヲ糊塗センコトヲ企テ同年五月三十一日前記被告人方ニ於テ前同樣手形用紙ニ三宅貫一ノ氏名ヲ冒署シ其ノ名下ニ同人ノ前記印章ヲ冒捺シ同人振出名義ノ金額千六百圓滿期日同年七月二十九日ナル約束手形一通ヲ僞造シタル上即日之ヲ前記組合事務所ニ持參シ同組合理事朝倉久藏ニ對シ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ裏ニ差入レタル金額千六百七十圓ノ僞造手形ト引換ニ差金七十圓ノ現金ト共ニ之ヲ同人ニ手交シテ行使シタルモノニシテ右詐欺並有價證券僞造同行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中有價證券僞造ノ點ハ刑法第百六十二條第一項第五十五條ニ僞造有價證券行使ノ點ハ同法第百六十三條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二項第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ最モ重キ僞造有價證券行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑ノ範圍內ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ原審未決勾留日數中一部ノ本刑算入ニ付同法第二十一條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人名川保男上告趣意書第一點ハ原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリ原審ハ事實ノ第二ノ（一）昭和九年四月二十三日前記被告人方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ手形用紙ニ三宅貫一ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ前記印章ヲ冒捺シ同人振出名義ノ被告人ニ宛テタル金額千六百七十圓滿期日昭和九年六月二日ナル約束手形並金額二千圓滿期日昭和九年六月二十五日ナル約束手形各一通ヲ順次僞造シタル上前者ヲ同日後者ヲ同年五月十日何レモ同市袋町有限責任廣島共立信用組合事務所ニ持參シ其ノ都度同組合理事朝倉久藏ニ對シ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ交付行使シテ其ノ旨誤信セシメ因テ手形割引名義ノ下ニ前者ニ付テハ金千六百五十二圓八十八錢ヲ後者ニ付テハ金千九百七十六圓五十錢ヲ其ノ都度自己ノ同組合ニ對スル預金口座ニ振込マシメテ夫々右金額ニ相當スル預金債權ヲ取得シ以テ財産上不法ノ利益ヲ得ト判示セリ然レトモ第二事實ノ冒頭記載ニヨレハ上告人ハ三宅貫一ヨリ同人ノ所有家屋ノ賃借人ニ對スル明渡請求訴訟手續等ノ委任ヲ受ケ其ノ訴狀又ハ委任狀ニ押捺スル爲メ同人ノ認印ヲ預リ其ノ認印ニテ本件手形ヲ作成セルコトヲ認メ得ヘク從ツテ上告人ハ三宅ヨリ右範圍ノ代理權ヲ取得シ居ルコト明ニシテ代理人カ其ノ權限ヲ越ヘタル行爲ニシテ第三者カ其ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有スル場合ハ民法第百十條ニヨリ其ノ行爲ハ相手方ニ對シテハ有效ニシテ本人ハ其ノ責ニ任セサルヘカラス本件上告人ハ前記三宅貫一ノ代理權アリ而シテ該手形ヲ振出シ廣島共立信用組合ニテ割引ヲ受ケタルモノナルヲ以テ同組合ハ前記法理ニヨリ三宅貫一ニ對シテハ有效ノ手形ヲ

取得セルモノナルヲ以テ何等錯誤ニ陷リタルコトナク僞罔又ハ詐欺等ノ問題生セス假リニ右法理理由ナシトスルモ上告人ハ三宅貫一ノ代理人トシテ三宅貫一ノ印迄預リ所持シ居ル處ノモノナルヲ以テ代理人以上密接ノ信任關係アリ代理權アル者ニシテ且民法第百十條ノ規定ノ適用アルヲ以テヨリ以上密接ノ信任關係アル印所持者ニ對シテハ勿論同條ノ適用アルモノナリ本人ノ印ヲ預リ所持シ居ルモノカ本人ノ名ニ於テ作成シタル證書ハ其ノ事情ヲ知ラサル相手方ニ對シ有效ナルコトハ御院民事部ノ判例トスル處ナルヲ以テ上告人ノ本件手形振出ハ相手方右組合ニ對シテハ完全有效ノモノニシテ右組合ハ錯誤ニ陷リタルコトモナケレハ又詐欺サレタルコトナキモノナリ（大正八年（オ）第三五號御院民事三部大正八年二月二十四日判決昭和五年（オ）第二一五號御院民事一部昭和五年八月四日判決昭和八年（オ）第四五一號法律新聞九年一月二十五日發行參照）然ルニ原審カ右行爲ヲ稱シテ利得詐欺罪ナリト認定セルハ法律解釋ヲ誤リ不法ニ法律ヲ適用セル違法アリト云ヒ」同第三點ハ原審ハ判決理由中第二冒頭ニ於テ被告人ハ豫テ家屋賃貸業者三宅貫一ヨリ其ノ所有家屋ノ賃借人ニ對スル家屋明渡請求訴訟手續等ノ委任ヲ受ケ其ノ訴狀又ハ委任狀ニ押捺スル爲同人ノ認印ヲ預リ居タルヲ奇貨トシ同人振出名義ノ約束手形ヲ僞造行使シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テト事實ヲ認定セリ然レトモ第一點ニ說明セル如ク本件手形ハ上告人カ三宅貫一ノ或ル代理權アリ且印迄託サレ居リ其ノ印ニテ三宅貫一ノ手形ヲ作成セル處ノモノナルヲ以テ有限責任廣島共立信用組合ニ對シテハ有效ニシテ本人タル三宅貫一ノ責任アル手形ナリ從ツテ金圓ノ騙取卽チ詐欺ヲ企テル等ノ事實ナク或ハ本人タル三宅貫一ニ對シテハ背任罪成立スルヤ計ラレサルモ相手方ニ對シテハ絕對ニ騙取ノ問題ヲ生スルモノニ非ス然ルニ之ヲ騙取ヲ企テト認定セルハ法律解釋ヲ誤リ不法ニ法律ヲ適用セル違法アリト云ヒ」同第四點ハ原審ハ判決ニ法律ニ照スニ云々詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二項第五十五條ニ該當スト判示セリ原判決中ニテハ明カナラサルモ同法第二百四十六條第二項ノ適用ハ犯罪事實第二ノ詐欺ニ適用セルモノト愚考スルモ犯罪事實第二ハ詐欺ト爲ラサルコトハ第一點說明ノ如クナルヲ以テ該法條ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ之ニ右法條ヲ適用セルハ犯罪事實ニアラサルモノニ不法ニ法律ヲ適用シ處罰シタル違法アリト云フニ在レトモ

原判決擧示ノ證據ヲ綜合スレハ所論判示第二ノ（一）ノ事實ヲ認ムルニ十分ニシテ右事實ハ被告人ハ判示日時行使ノ目的ヲ以テ手形用紙ニ三宅貫一ノ氏名ヲ冒書シ其ノ名下ニ豫テ同人ヨリ判示訴訟手續ノ依賴ヲ受ケ其ノ訴狀又ハ委任狀ニ押捺スル爲預リ居リタル同人ノ認印ヲ冒捺シ同人振出名義ノ判示約束手形二通ヲ僞造シ之ヲ判示朝倉久藏ニ對シ恰モ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ交付行使シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ手形割引名義ノ下ニ判示預金債權ヲ取得シ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノナリト謂フニ在リテ刑法第百六十二條第百六十三條第二百四十六條第二項等ニ該當スル犯罪ナルコト極メテ明白ナルカ故ニ原判決カ此等ノ法條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ記錄ヲ精査スルモ原判決ノ

右事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク被告人カ判示三宅貫一名義ノ約束手形ヲ作成シタル當時同人ト所論ノ如キ代理關係アリタルコトハ到底之ヲ認ムルコト能ハス原判決モ亦所論關係ヲ肯定シタルモノト認ムルニ由ナシ而シテ縱令所論ノ如ク本件事實ニ付民法第百十條ノ適用アリトスルモ同法條ハ代理人ノ越權行爲ニ付本人ノ責任ヲ認タル第三者保護ノ規定ニシテ同條ノ適用ト代理人ノ犯罪行爲トハ別個ニ觀察スヘキモノナルカ故ニ敍上ノ斷定ヲ左右スヘキモノニ非ス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナキモノトス（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省畧ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【要旨】

檢事棚町丈四郎關與

○傷害致死被告事件（昭和十年（れ）第八三五號　同年九月十八日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　國永美夫　辯護人（齋藤孝一郎　林連）

【第一審】福岡地方裁判所小倉支部　【第二審】長崎控訴院

○判示事項

豫審終結決定ト法定陪審事件

○判決要旨

檢事ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件トシ豫審ノ請求ヲ爲シ豫審終結決定ハ其ノ犯罪カ陪審法第二條ノ事件ニ該ラスト爲シタルトキハ檢事カ公判ニ於テ同條ノ事件ニ該ルトノ意見ヲ陳述スルモ法定陪審事件ト爲ルモノニ非ス

【參照】陪審法第一條　裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

同法第二條　死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

○事　實

第二審ニ於テハ普通刑事手續ニ依リ傷害致死ノ犯罪ヲ認メ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタリ而シテ本件豫審請求竝豫審終結決定及第一審ノ公判ニ於ケル檢事ノ陳述ハ判決理由ニ於テ摘示スルカ如クナリ

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人齋藤孝一郎上告趣意書第一點原審判決ハ被告人ニ對シ第一審以來被告人ノ權利タル陪審請求權ヲ拋棄セシメスシテ普通刑事訴訟手續ニ因リテ判決ヲ爲シタルハ法令違反ナリ本件被告人ヲ小倉支部ニ於テ檢事カ取調豫審請求ヲ爲シタル理由ハ殺人トシテ公判請求ヲ爲シタルニ豫審判事ハ其ノ終結決定ニ於テ傷害致死事件ト認定セリ然而小倉支部ニ於ケル第一回公判期日タル昭和十年一月十一日ニ立會檢事ハ起訴事實陳述ノ際豫審終結決定ト異ナリ明カニ殺意アルモノ（殺人）トシテ審理ヲ求メタリ果シテ然ラハ公判裁判長ハ被告人ニ對シ陪審法第二條ニ基キ法定陪審ニ因リ陪審員ノ審議ニ付スル旨言渡ヲ爲シ公判ヲ中止セサルヘカラス然ルニ不拘何等ノ宣言ヲ爲サスシテ審理ヲ續行シタリ又假ニ傷害致死事件トスレハ檢事竝豫審判事又ハ公判裁判長ハ被告人ニ對シ請求陪審ノ權利ヲ拋棄セシムルカ或ハ被告人ニ對シ陪審請求ノ權利アル旨ヲ諭旨セサルヘカラス然ルニ不拘捜査官竝豫審判事又ハ公判裁判長ハ被告人ニ對スル請求陪審ノ權利アルコトヲ告ケス又ハ其ノ機會ヲ與ヘスシテ審理ヲ續行シタル違法アリ本件事案ハ被害者タル妻アサハ奔放不貞ニシテ驕慢不禮全ク毒婦ノ典型ナルヲ以テ我國古來ノ慣習ニ基キ如斯被害者ニ對シテハ其ノ制裁ヲ如何ニスヘキヤハ陪審員諸公ノ最モ同情ニ値ス因テ檢事ノ陳述ノ如ク殺人事件トスレハ必スヤ被告人ニ有利ノ答申ヲ爲シタルモノト思料セラレ又請求陪

審ニ因リ本件カ陪審法定ニ於テ審理サレンカ必スヤ被告有利ノ輕キ判決ヲ受ケシナラン以上ノ理由ニヨリ本件上告ハ陪審ニ付セサル點ニ於テ法令違反ナルヲ以テ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ

然レトモ我カ陪審制度ハ所謂公判陪審ニシテ刑事訴訟ニ於ケル普通手續ニ對シ特別手續タリ而シテ陪審法ハ公判ヲ基礎トシタル刑事裁判ニ關スル法規ナレハ同法ニ依ルヘキ所謂法定陪審事件（陪審法第二條ノ事件）ハ一ニ公判ノ起頭ニ至リ決セラレ豫審ノ階梯ニ於テハ未タ定マラス從テ假令檢事カ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ナリトシ豫審ヲ請求シタル場合ニ在リテモ事件ヲ公判ニ付スル豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ニシテ陪審法第二條ノ事件ニ該ラサルトキハ固ヨリ法定陪審事件ニ非サルナリ加之斯ル事件ノ公判開始後檢事カ公判裁判所ニ對シ法定陪審事件ニ該ル犯罪トシテ審理セラレ度旨ノ希望ヲ表示シタレハトテ之カ爲普通事件ハ變シテ陪審事件ト化スルノ謂ナシ記錄ニ徵スルニ本件ニ付檢事ハ殺人事件トシテ豫審ヲ請求シ豫審終結決定ハ傷害致死罪トシテ公判ニ付シタルトコロ第一審公判ニ於テ檢事ハ被告事件ノ陳述トシテ豫審終結決定書記載ノ被告事件ノ要旨ヲ告ケ尚本件ハ被告人ニ殺意アリタルモノトシテ審理アリ度ト附加陳述シタルモノトス然ラハ豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ハ法定陪審事件ニ該ラサルヲ以テ前敍ノ理由ニ依リ本件ハ陪審事件トシテ審判スヘキニ非サルナリ尚傷害致死事件ハ被告人ノ請求アル場合ニ於テハ陪審法第三條ニ規定スル所謂請求陪審事件タリ得ヘシト雖本件ニ於テ被告人カ之ヲ請求シタル事跡ナク又法律ハ檢事豫審判事若ハ裁判長ノ執レモ被

【要旨】

豫審終結決定ト法定陪審事件

告人ニ對シ陪審請求ノ權利アルコトヲ諭告シ又ハ其ノ權利ヲ拋棄セシムヘキモノナルコトヲ規定セサルヲ以テ被告人ニ對シ斯ル告示ナクトモ第一審竝原審カ普通手續ニ依リ本件ヲ審理判決シタルハ毫モ違法ニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○警察犯處罰令違反被告事件（昭和十年（れ）第八三八號　同年九月十八日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　堀田菊次郎　辯護人　堀江喜熊

【第一審】福井區裁判所　【第二審】福井地方裁判所

○判示事項

違警罪卽決言渡手續ノ違背ト上告理由

○判決要旨

違警罪卽決言渡カ違警罪卽決例第二條第一項所定ノ手續ニ違背スルモ該手續違背ヲ主張シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

【參照】違警罪卽決例第二條第一項　卽決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其言渡ヲ爲スヘシ

刑事訴訟法第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法令ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ拘留十日ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ元力士ナル村尾勝治　五島辰二ト共謀シ昭和九年十二月七日午後二時頃共ニ福井市寶永下町百十五番地糸生增太郎方ニ赴キ當時增太郎ト福井織物機械合名會社代表者十川庄市トノ間ニ生シ居タル織物機械ノ委託販賣ニ關スル紛爭事件ヲ自己等ノ手ニ依リテ解決セムト欲シ增太郎カ對談ヲ欲セサルニ拘ラス被告人ハ增太郎ニ對シ「オ前對十川ノ事件ハ俺ニ任セロ」ト怒號シ村尾勝治ハ右手ヲ懷ニ入レ兇器ヲ取出スカ如キ態度ヲ示シテ增太郎ヲシテ不安ノ念ヲ生セシメ以テ强談威迫ノ行爲ヲ爲シタルモノナリ

違警罪卽決言渡手續ノ違背ト上告理由

法律ニ照スニ被告人ノ判示行爲ハ警察犯處罰令第一條第四號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ拘留十日ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人堀江喜熊上告趣意書第一點本件被告事件ハ昭和九年十二月十三日福井縣福井警察署ニ於テ言渡サレタル卽決言渡ニ對シ上告人カ正式裁判ノ申立ヲ爲シ福井區裁判所ニ繫屬シ昭和十年二月二十五日無罪ノ判決アリタルトコロ檢事ニ於テ控訴シ昭和十年五月三十日卽決言渡同樣有罪ノ判決アリタル爲メ上告ニ及ヒタル案件ナリ本件ハ違警罪卽決例第二條第一項ノ規定ニ違反シテ爲サレタル言渡ニシテ全ク違法ノモノナリ同法第二條第一項ノ規定ハ對席處分ニ關シ違警罪卽決處分ノ原則ヲ明定シ同條第二項ハ缺席處分ニ關シ其ノ例外ノ場合ヲ規定ス卽チ事犯ニ付被害者アル場合ハ同條第一項ニ因リ卽決權者ハ直接被疑者本人ヨリ事犯ニ關スル陳述ヲ聽取シ證憑ヲ取調ヘテ言渡ヲ爲スコトヲ要スヘク一方事犯ニ對シ被害者ナク被害者アルモ被疑者呼出シニ應セス若シクハ被疑者ノ住所遠隔ニシテ呼出不能ナルカ又ハ違反事實明瞭ニシテ被疑者ノ陳述ヲ聽取スル必要ナキ場合ニ於テ初メテ同法第二項ニ因ル缺席處分ヲ爲シ得ルモノナリ本件卽決處分ハ單ニ被害者糸生增太郎ノ陳述ヲ錄取シタルノミニテ被疑者タル上告人ノ陳述ヲ聽取スルコトナク且何等ノ證憑ヲ取調フルコトヲ爲サスシテ昭和九年十二月十三日卽決言渡ヲ爲シタルモノナルコトハ記錄上明瞭ニシテ寸疑ヲ容レサル所ナリ上告人カ右言渡ヲ受ケ正式裁判ノ申立ヲ爲スニ及ンテ初メテ同年十二月十五日之カ取調ヲ爲シタルニ止マル蓋シ卽決處分ニハ法律ニ非サル違警罪卽決例ニ基キ法定ノ裁判官ニ非サル警察署長又ハ其ノ代理者ニ依リ處罰カ行ハルモノナルカ故ニ同法第二條第一項ノ規定ハ所論ノ如ク最モ嚴格ニ解釋セラルヘキ筋合ノモノニシテ片言ヲ聞キ事ヲ斷スヘカラストハ處罰ノ準繩ナリ原判決カ所論ニ關知セス起訴事實ヲ肯定シ上告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ違法ナリト信スト云フニ在リ

然レトモ糸生增太郎ニ對スル昭和九年十二月十二日附警察聽取書卽決言渡書原審第二回公判調書ニ於ケル證人谷內嘉造ノ供述記載部分ニ依レハ福井警察署ニ於ケル當該係官ハ昭和九年十二月十二日被告人ヲ始メ糸生增太郎ノ陳述ヲ聽取シタル上同月十三日ニ至リ被告人ニ對シ所論卽決言渡ヲ爲シタルコト明白ナルカ故ニ本件卽決言渡ノ手續ハ適法ニシテ毫モ違法ノ點アルコトナシ假ニ右卽決言渡カ所論ノ如ク違警罪卽決例第二條第一項所定ノ手續ニ違背シテ爲サレタルモノトスルモ之カ爲右卽決言渡ノ存在ヲ喪ハシムルモノニ非サルヲ以テ該卽決言渡ニ對シテハ有效ニ正式裁判ノ請求ヲ爲シ得ヘク之ニ依リ卽決處分ハ直ニ其ノ放力ヲ失ヒ同時ニ事案ハ檢事ノ公訴提起ヲ俟タス當然公訴事件トシテ第一審ノ福井區裁判所ニ繫屬シタルモノト云ハサルヘカラス然ラハ記錄ニ徵シ明白ナルカ如ク福井地方裁判

【要旨】

違警罪卽決言渡手續ノ違背ト上告理由

所カ本件ニ付第二審トシテ被告人證人ノ訊問ヲ爲シ證據調其ノ他ノ手續ヲ適法ニ履踐シタル上被告人ニ對シ有罪判決ヲ言渡シタルハ正當ニシテ本件卽決言渡手續ニ於ケル所論ノ如キ違法ハ原判決ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス論旨ハ理由ナシ（其ノ他上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○恐喝業務妨害被告事件（昭和十年（れ）第八七七號　同年九月二十三日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　島本次信　外一名　辯護人　手代木佑壽　星野忠治　細谷馨　中村愛三郎　西田郁平

【第一審】大阪區裁判所　【第二審】大阪地方裁判所

○判示事項

營業食堂ヲ混亂セシメタル行爲ト業務妨害——同伴者ニ金員ヲ交付セシメタル行爲ト恐喝罪

○判決要旨

一數人共同シテ多數顧客來集中ノ他人ノ營業食堂ニ於テ大聲叱呼又ハ怒號喧噪スルコトニ依リテ其ノ平靜ヲ破リ食堂內ヲ騷然混亂ニ陷ラシムルカ如キ行爲ハ刑法第二百三十四條ニ所謂威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタルモノニ該當ス【要旨第一】

二人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル以上ハ其ノ直接ノ交付ヲ受ケタル者カ恐喝行爲者ノ同伴者ナル場合ニ於テモ刑法第二百四十九條第一項ノ恐喝罪ヲ構成スルモノトス【要旨第二】

【參照】刑法第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

同法第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦

營業食堂ヲ混亂セシメタル行爲ト業務妨害　同伴者ニ金員ヲ交付セシメタル行爲ト恐喝罪

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人次信ヲ懲役八月ニ被告人爲次郎ヲ懲役五月ニ處ス第一審ニ於ケル訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一　被告人次信ハ立憲民政黨本部遊説部員ニシテ傍ラ銀行會社株主協會ナルモノヲ作リ各銀行會社ヨリ廣告料名義ニテ金錢ヲ取得シ居ルモノナルカ大阪市南區難波新地六番丁株式會社高島屋南海支店地階食堂ニ於テ飲食ヲ爲シ居タル際異物混入若ハ食器不潔等ノ不都合アリタリト稱シ同食堂係員ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメンコヲト企テ昭和九年五月下旬ヨリ六月三日迄ノ間ニ數回前記高島屋南海支店ニ於テ加戸辰三郎其ノ他ノ該食堂係員ニ對シ大衆衛生ノ爲高島屋ヲ糺彈セネハナラヌ新聞雜誌ニ謝罪廣告セヨ自分ハ東京三越ニテモ此ノ種ノ事ニテ一戰ヲ交ヘルンペンヲ食堂ニ入レテ營業ヲ妨害シビラヲ撒キ攻擊シ三越モ三千圓使ッテ戰ヒタル旨申向ケ之ヲ穩便ニ解決スヘキニ依リ金員ヲ交付セラレ度シト要求シ若シ應セサルニ於テハ高島屋ノ營業等ニ不測ノ損害ヲ生スルヤモ知レサル旨諷示シ同人等ヲシテ被告人次信ノ意ヲ迎ヘサレハ高島屋攻擊ノ擧ニ出テラルルヤモ測ラレスト畏怖セシメ因テ同年六月三日同所ニ於テ右高島屋南海支店ヲシテ金三十圓ヲ同伴者タル加古井智憲ノ手ニ交付セシメ

第二　被告人爲次郎ハ元南海鐵道株式會社從業員ニシテ從業中傷害ヲ蒙リタルモノナルカ豫テ島本定楠ト協力シテ同會社ノ元從業員ニシテ同樣傷害ヲ受ケタル者十數名ヲ糾合シ生活擁護竝親睦ヲ圖ルコトヲ目的トスト稱シテ南海公濟會ヲ設立シ同社ニ對シ各驛構內賣店食堂等ノ營業權ノ獲得運動ヲ爲シ居リタルモ同社ニ於テハ難波驛構內賣店ヲ同社從業員共濟會ニ食堂ヲ高島屋南海支店ニ夫々移讓スルニ至リシカ

（一）被告人爲次郎ハ之ヲ憤慨シ昭和九年十月十六日午後一時頃同市南區難波新地六番丁南海鐵道難波驛構內所在ノ同社從業員共濟會經營ニ係ル煙草雜誌賣店ニ到リ女店員ヲ威迫シテ店內ヨリ追ヒ出シ陳列棚等ヲ所携ノ木刀ヲ以テ破壞シ又ハ顚覆セシメ營業ヲ爲スヲ得サラシメ以テ威力ヲ用ヒテ右共濟會ノ業務ヲ妨害シ

（二）被告人爲次郎ハ島本定楠等ト共ニ豫テ高島屋南海支店地階食堂ノ飲食物竝食器ヲ不潔ナリトシ之カ改善ヲ促スト稱シ同年十一月中旬二回ニ亘リ同食堂攻擊ノビラヲ撒布シタル爲島之內警察署ニ檢束セラレタルコトアリシカ被告人次信外二名ト共謀シテ昭和十年一月二十四日午後七時頃ヨリ相共ニ前記地階食堂ニ到リ被告人等カ前日同食堂ニ於テ注文シタルビフテキ四皿カ何レモ見本品ト相違シ居タリト爲シ之ニ關シ詰問ヲ爲スヘク右食堂ニ同店幹部ヲ呼出サントシ同店員カ應接室ニ來ラレ度シト懇請スルモ之ニ應セス右食堂內ニ於テ高島屋ハ詐欺行爲ヲ爲スモノナリ等怒號喧噪シ之カ取締ノ爲來レル警察官ニ對シ威丈高トナリ國家ノ警察官カ高島屋ノ警察官カ警察官ノ取調ヲ受クル必要ナキ旨或ハ高島屋ハ官憲ヲ利用シ不正ヲ蔽ハムトスルモノナル旨各々大聲叱呼スル等ノ行爲ヲ爲シ多數顧客ノ食事中ノ同食堂內ヲ一時騷然タラシメ以テ威力ヲ用ヒテ同店ノ業務ヲ妨害シタルモノナリ

被告人爲次郎ノ判示第二ノ（一）（二）ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人次信ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ第二ノ（二）ノ所爲ハ同法第二百三十四條第二百三十三條第六十條ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ業務妨害罪ニ付懲役刑ヲ選擇シタル上同法第四十七條第十條ニ則リ重キ恐喝罪ノ刑ニ付同法第四十七條但書ノ制限內ニ於テ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ被告人次信ヲ懲役八月ニ處シ被告人爲次郎ノ判示第二ノ（一）ノ所爲ハ刑法第二百三十四條第二百三十三條ニ判示第二ノ（二）ノ所爲ハ同法第二百三十四條第二百三十三條第六十條ニ各該當スルトコロ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ニ則リ一罪トシテ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍內ニ於テ被告人爲次郎ヲ懲役五月ニ

營業食堂ヲ混亂セシメタル行爲ト業務妨害　同伴者ニ金員ヲ交付セシメタル行爲ト恐喝罪

處シ尙訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人兩名ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人手代木佑壽　星野忠治上告趣意書第一點先ツ本件ハ法律ノ適用ニ於テ大ナル誤アリ卽チ第二審判決ノ判示第二ノ(二)ノ所爲カ假ニ眞實ナリトスルモ該所爲ハ威力ヲ用ヒテ業務ヲ妨害シタルモノト看ル事ヲ得ス單ニ食堂ヲ一時的ニ小範圍ニ於テ喧噪ナラシメタルニ過キスシテ其ノ際食堂ノ使用人カ被告人等ノ言語及其ノ態度ニ畏怖ヲ感シタリトスルモ其ハ營業上ノ缺點ヲ指摘サレタル際ニハ何人モ感スヘキ程度ノモノニ過キサルナリ被告人等ノ其ノ際ニ於ケル言動カ社會常識ノ範圍ヲ超エテ痛烈ナリシモノトスレハ其ノ範圍ヲ超脫シタル部分ニ付刑法第二百二十二條ニ問擬スルヲ以テ相當トスヘク威力ヲ用フルコトヲ要件トスル同法第二百三十四條ヲ適用スルハ少クモ同法第二百二十二條ヲ適用スルニ比シテ適當ナラサルナリ而モ其ノ際華客ニ對シ何等ノ危害ヲモ及ホス惧ナキ被告等ノ言動ニ依ル食堂ノ喧噪ハ却テ華客ノ好奇心ヲ唆リ一時的ニモセヨ又僅々數人足ラスノ者ニセヨ食堂ニ華客ヲ吸收シ以テ食堂ニ於ケル商品ノ販賣ヲ增加シタルヘシト想像スルコトヲ得ルハ記錄ニヨリ明白ナリ果シテ然ラハ被告等ノ所爲ハ營業妨害ノ結果ヲ招來セサリシモノニシテ單ニ食堂使用人等カ畏怖ヲ感シタルニ止マルナリ故ニ本件判示第二ノ（二）ノ所爲ハ刑法第二百二十二條ニ依リ論スヘク同法第二百三十四條ヲ適用セルハ誤認ノ甚シキモノニシテ破毀ヲ免レサルトコロナリトスト云フニ在レトモ原判示第二ノ（二）ノ事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リテ之ヲ認ムルニ十分ナリ而シテ之ニ依レハ原判示經歷ヲ有スル被告人等ハ共謀シテ高島屋南海支店地階食堂ニ到リ前日注文シタル食品カ見本品ト相違セリト爲シ其ノ詰問ヲ爲スヘク同食堂ニ同店幹部ヲ呼出サントシ同店員カ應接室ニ入ランコトヲ懇請シタルモ應セス右食堂內ニ於テ高島屋ハ詐欺行爲ヲ爲スモノナリ等怒號喧噪シ之カ取締ノ爲來レル警察官ニ對シ威丈高トナリ國家ノ警察官カ高島屋ノ警察官カ警察官ノ取調ヲ受クル必要ナキ旨或ハ高島屋ハ官憲ヲ利用シ不正ヲ蔽ハントスルモノナル旨各大聲叱呼スル等ノ言動ヲ爲シ多數顧客ノ食事中ナル同食堂ヲ騷然タラシメタルモノニシ斯クノ如ク數人共同シテ多數顧客來集シ其ノ食事中ナル食堂ニ於テ右ノ如ク大聲叱呼又ハ怒號喧噪スルコトニ依リ其ノ平靜ヲ破リ食堂內ヲ騷然混亂ニ陷ラシムルカ如キ行爲ハ正ニ刑法第二百三十四條ニ所謂威力ヲ用ヒテ人ノ業務ヲ妨害シタリト云フニ該當シ所論ノ如ク同法第二百二十二條ヲ以テ論スヘキモノニ非ス記錄ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キ或ハ脅迫罪ヲ以テ論スヘシト云ヒ或ハ被告人等ノ行動ニ依リテ却テ利益ヲ招來シ業務妨害ニ非スナト主

【要旨第一】

營業食堂ヲ混亂セシメタル行爲ト業務妨害　同伴者ニ金員ヲ交付セシメタル行爲ト恐喝罪

張シ以テ原判決ヲ非議スルニ外ナラスシテ採用スヘカラス然レハ則チ原判決ニハ何等所論違法ノ廉ナク論旨理由ナシ

同第二點次ニ判示第一ノ事實ニ於テ金三十圓ヲ同伴者タル加古井智憲ノ手ニ交付セシメタリト認定シナカラ刑法第二百四十九條第一項ノミヲ適用シタルハ殆ント論スル迄モナキ擬律ノ錯誤ナリ右事實ヲ認定シタランニハ同條第二項ヲ適用スヘキコト喋々ヲ要セス然ルニ此ノ擧ニ出テサル原判決ハ此ノ一點ニ於テ既ニ破毀ヲ免ルル能ハサルナリト云フニ在レトモ

所論三十圓ノ金員ハ被告人次信ノ恐喝行爲ニ因リ其ノ同伴者タル加古井智憲ニ於テ受取リタルモノナルコトハ原判決第一事實ヲ之カ證據ト對照スルコトニ依リ認ムルニ難カラス而シテ斯クノ如ク人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシムル以上ハ其ノ直接ニ交付ヲ受ケタル者カ恐喝行爲者自身タルト其ノ同伴者タルトニ因リ刑法第二百四十九條第一項ノ適用ニ差異ヲ生スヘキモノニ非ス又同條第二項ハ財物以外ノ財產上利益ニ關スル規定ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非サルコトハ本院判例ノ趣旨トスルトコロナレハ旁以テ原判決ニ所論擬律錯誤ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

【要旨第二】

○傷害被告事件（昭和十年（れ）第九〇九號　同年九月二十六日第二刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　佐藤和作
原審辯護人　高野精一　辯護人　高田六司

【第一審】樺太地方裁判所　【第二審】札幌控訴院

○判示事項

證據調ノ時期——結審後提出ノ證據書類ノ取調

○判決要旨

一　據證調ハ被告人訊問中ニ便宜之ヲ爲スヲ妨ケス【要旨第一】

二　結審後提出セラレタル證據書類ハ辯論ヲ再開シテ之カ取調ヲ爲ササルモ違法ニ非ス【要旨第二】

證據調ノ時期　結審後提出ノ證據書類ノ取調

【參照】刑事訴訟法第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ
前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ
同法第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和九年十月二十五日午後九時頃飲酒酩酊ノ上大泊郡大泊町大字大泊字楠溪町大通一丁目一番地飲食店だるまや事鎌田スヱ方ニ到リ飲酒中偶々同家ニテ同シク飲酒シ居リシ三浦宇一郎ト些細ノ事ヨリ口論ニ及ヒ憤激ノ餘リ其ノ附近ノ豫テ知合ナル飲食店あかつき事平沼マキ方流場ヨリ出刄庖丁（證第一號）ヲ持出シテ再ヒ右スヱ方ニ赴キ同家茶ノ間ニ於テ三浦宇一郎ト二三押問答ヲ重ネタル末右出刄庖丁ヲ振ヒ同人ノ胸部上膊部顏面等ヲ傷付ケ其ノ左側胸部ニ長サ十糎深サ肋間ヨリ肋膜ヲ貫キ胸腔ニ達スルモ　及左上膊略中央ニ於テ其ノ長サ約十四、五糎深サ骨ニ達スル重傷竝顏面左胸部右手掌ニ各一個ノ切創ヲ負ハシメタルモノナリ

辯護人ハ本件行爲ハ三浦宇一郎ノ急迫不正ノ侵害ヲ防衛スル爲若クハ現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタルモノノ如ク主張スレトモ該主張ハ到底採用シ得ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人高田六司上告趣旨書第一點ハ原判決ハ其ノ證據說明ノ部ニ「醫官菊地武雄ノ作成ニ係ル昭和九年十月二十七日及同年十二月十二日附ノ各診斷書中三浦宇一郎ノ被リタル創傷ノ部位竝程度ニ付判示同趣旨ノ記載」ト說明シタリ然ルニ原院公判調書中證據調ノ部ヲ閲スルニ「裁判長ハ證據調ヲ爲ス旨ヲ告ケ……一、昭和九年十二月十二日樺太廳醫官菊池武雄作成ノ被害人三浦宇一郎ニ對スル診斷書……ノ各要旨ヲ讀聞ケ云々」（記錄三四二丁）ト記載シアルノミニシテ原判決援用ノ昭和九年十月二十七日附菊池武雄作成ノ診斷書ハ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル記載ナク結局原判決ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニアレトモ

【要旨第一】證據ノ取調ヲ爲シ之ニ對スル被告人ノ意見辯解ヲ聽クハ眞實ヲ發見シ若ハ其ノ情狀ヲ明カニスル爲ニ外ナラス從テ證據調ハ被告人訊問中ニ便宜之ヲ爲スヲ妨ケス原審公判調書ニ依レハ裁判長ハ被告人訊問中被告人ニ對シ所論昭和九年十月二十七日附菊池武雄作成ノ診斷書ヲ讀聞ケ被告人ノ意見辯解ヲ聽キタルコト明白ナルヲ以テ（記錄三三七丁）原判決ニハ所論ノ如キ證據調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ

證據調ノ時期　結審後提出ノ證據書類ノ取調

同第二點ハ本件控訴記錄ヲ調査スルニ原院檢事局ハ本件被害者三浦宇一郎ノ其ノ後ノ經過取調ヘノ上回答ヲ請フ旨樺太地方裁判所檢事局ニ電報ヲ以テ照會シ樺太地方裁判所檢事局ハ調査ノ上昭和十年五月十四日附樺太廳大泊醫院醫官醫學博士菊池武雄作成三浦宇一郎ニ對スル診斷書ヲ送付シ來タリ原院檢事局ハ右書類一切ヲ本件ノ證據トシテ原院ニ提出シタルコトハ記錄三六四丁以下ニ依リ明白ナリトス仍テ原院ニ於テハ右診斷書ヲ法廷ニ顯出シ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見辯解ヲ求メサルヘカラサルモノナルニ之カ取調ヲ爲サスシテ結審判決シタルハ公判手續上重大ノ違法アルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニアレトモ

記錄ニ依レハ原審ハ昭和十年六月六日公判ヲ開廷シ被告人ノ訊問竝證據調等ヲ爲シ同日ヲ以テ結審シ同月十三日ニ判決ノ言渡ヲ爲スヘキ旨宣シタルモノニシテ所論ノ診斷書カ原審ニ提出セラレタルハ右結審後タル同月十日ナルコト明白ナルカ故ニ辯論ヲ再開セサル限リ之ヲ法廷ニ顯出シ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見辯解ヲ聽クニ由ナキモノトス而シテ再開ノ要否ハ原審ノ判斷ニ委ネラレタルモノナルコト刑事訴訟法第三百五十條ノ規定ニ徵シ明白ナルヲ以テ原審カ辯論ノ再開ヲ爲サス從テ所論ノ診斷書ニ付證據調ヲ爲ササレハトテ違法ヲ以テ目スヘキモノニ非ス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省畧ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

【要旨第二】

○詐欺被告事件（昭和十年（れ）第八八九號　同年九月二十六日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　水野利三郎　辯護人（木原金助　山本政喜　家入經晴　齊藤英二）

【第一審】東京地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百六十條第二項——豫約ノ條件ヲ具備セサル約束ト詐欺ノ手段

○判決要旨

一詐欺罪ニ問擬處斷シタル案件ニ於テ本件公訴事實ハ貸借關係ニシテ犯罪ヲ構成セストノ主張ハ罪トナルヘキ事實ノ否認ニ外ナ

刑事訴訟法第三百六十條第二項　豫約ノ條件ヲ具備セサル約束ト詐欺ノ手段

ラスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ該當セス【要旨第一】

二民法上豫約ノ條件ヲ具備セサル單ナル約束ト雖特ニ其ノ約束アルコトヲ隱蔽シ人ヲ錯誤ニ陷ルルカ如キハ詐欺ノ手段タルコトヲ得ルモノトス【要旨第二】

【參照】刑事訴訟法第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

刑法第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ千葉縣香取郡佐原町ヨリ同縣海上郡飯岡町ニ至ル全線二十餘哩ノ鐵道ノ敷設及旅客竝貨物ノ運輸營業ヲ目的トスル資本金總額二百五十萬圓一株ノ金額五十圓ナル九十九里電氣鐵道株式會社ノ設立ヲ企圖シ昭和三年三月十九日鐵道省ヨリ右敷設ノ免許ヲ受ケ同年十二月十三日ノ創立總會ヲ經テ自ラ同會社專務取締役トナリタルモノナルトコロ右會社設立ニ際シテハ一般ヨリ株式ノ募集ニ應スル者極メテ尠ク到底急速ニハ所定數ノ株式ノ引受ヲ得ルコト困難ナリシヨリ茲ニ先ツ一應會社設立ノ形態ヲ整ヘ其ノ工事ニ着手セハ沿線住民等ニ依リ漸次右株式ノ引受ヲ得ルニ至ルヘシトノ單純ナル豫測ノ下ニ或ハ自己ノ知人其ノ他多數株式ノ引受ヲ爲ス資力ナキ者ヲモ勸誘シテ後日其ノ引受株式ハ他ニ讓渡引受セシムヘシ等ノ言辭ヲ構ヘテ假ニ一時引受人タルコトヲ承諾セシメ是等ニ多數ノ株式ヲ割當ツル等彌縫策ヲ講シ以テ全株式ノ引受アリテ其ノ各一株ニ付五圓宛ノ第一回拂込ヲ了シタルカ如ク其ノ形式ヲ整ヘタルモノナルカ現實右創立總會前ニアリテハ拂込皆無ニシテ其ノ後ニ於テモ金杉英五郎外數名ヨリ九百九十株合計金四千九百五十圓ノ第一回拂込アリタルノミニシテ會社ノ資本トシテハ他ニ見ルヘキモノナク且前記ノ如ク引受人中資力無クシテ多數ノ株式ヲ一時假ニ引受ケシメタルモノアリテ是等ヨリ該株金ノ拂込ヲ受クルコト殆ント不可能ノ狀態ニ在リタルヲ以テ同會社トシテハ鐵道ニ關スル土木工事ノ請負代金ノ如キ多額ノ支拂ニ應スル資力無カリシモノニシテ一方被告人ハ嚮ニ昭和三年四月頃柳下榮太郎及川田澤右衛門ノ兩名ニ對シ同會社全線ニ亙ル鐵道土木工事ヲ請負ハシムヘキ豫約ヲ爲シタルモノナルニ拘ラス前記ノ如キ資金ニ窮シタル結果請負契約保證金其ノ他ノ名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

第一　昭和四年十月頃東京市芝區新橋三丁目二番地四號土木請負業堀梢平方事務所ニ於テ同人ニ對シ同會社ニ請負工事代金支拂ノ資力無ク且柳下榮太郎及川田澤右衛門ト前記ノ如キ豫約ヲ爲シタル事實ヲ祕シ恰モ之等ノ事實無カリシモノノ如ク裝ヒテ同會社ノ全線ニ亙ル鐵道土木工事ニ關スル假請負契約ヲ締結スルニ付其ノ條件トシテ同會社ノ株主ト爲ラレ度キ旨申欺キ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同會社株式五百株ノ代金名義ノ下ニ同人振出金額二千五百圓ノ小切手一通ヲ交付セシメ

第二　昭和四年十一月頃當時東京市本郷區駒込西片町十番地土木請負業松本彌八郎ニ對シ前同樣前記會社ニ支拂能力

アリ且柳下榮太郎　川田澤右衛門及堀梢平ト前記土木工事ニ付既ニ請負契約ノ豫約若ハ假契約カ締結セラレサリシ如ク假裝シテ右土木工事請負方ヲ勸說シ其ノ條件トシテ同會社ノ株主ト爲ラレ度キ旨申欺キ右松本彌八郎ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上同年十一月下旬頃當時東京府荏原郡荏原町大字上蛇窪百七番地ノ被告人居宅ニ於テ松本彌八郎ヨリ安藝某ノ手ヲ經テ右株式二百株ノ代金名義ノ下ニ金千圓ヲ交付セシメ

第三　昭和五年五月頃當時千葉縣東葛飾郡船橋町土木請負業海老原末吉ニ對シ前同樣前示土木工事ニ付他人ト請負假契約等ヲ締結シタル事實無カリシ如ク又同會社カ請負代金或ハ借入金返濟資力アルモノノ如ク裝ヒテ前同樣右土木工事ニ關シ請負契約ヲ締結スルニ付一萬圓ヲ貸與セラレ度キ旨申欺キ相手方ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同年六月二日頃東京市麴町區內幸町辯護士村上進方等ニ於テ二回ニ合計金一萬圓ヲ貸借名義ノ下ニ交付セシメ

第四　同年六月初頃同市深川區東大工町六十二番地土木請負業鳥居新作ニ對シ前同樣ノ態度ヲ示シテ前示土木工事ヲ請負ハシムルニ付金千圓ヲ貸與セラレ度キ旨申欺キ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月四日頃千葉縣海上郡旭町大利旅館ニ於テ右新作ヨリ貸借名義ノ下ニ金千圓ヲ交付セシメ

第五　昭和五年九月頃茨木康之ト共謀ノ上京都市右京區上嵯峨町大門三十八番地土木建築請負業大島彌三郎ニ對シ前同樣同會社ニ請負代金等ノ支拂能力アリ且前記土木工事ニ付他人ト假請負契約等ヲ締結シタル事實ナキカ如ク裝ヒテ右工事請負方ヲ勸說シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上右請負契約保證金名義ノ下ニ同年九月二十日頃ヨリ同年十月二十日頃迄前後三回ニ亙リ京都市下京區木屋町松原上ル衣笠旅館其ノ他ニ於テ合計金二萬圓ヲ交付セシメテ各之ヲ騙取シタルモノニシテ以上ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク尙刑法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人木原金助上告趣意書第三點原判決ハ被告人ヲ詐欺罪ニ問擬處斷シタリ然ルニ原院公判調書ヲ閱スルニ「大谷辯護人ハ本件ノ公訴事實ハ孰レモ貸借關係ニ過キスシテ犯罪ヲ構成セス」（記錄一五六五丁裏）ト記載シアリテ右ノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上詐欺罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ屬スルヲ以テ原判決ニ於テハ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ前記法條ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ノ如ク被告人ヲ詐欺罪ニ問擬處斷シタル案件ニ於テ本件公訴事實ハ孰レモ貸借關係ニ過キスシテ犯罪ヲ構成セサル旨ノ辯護人ノ主張ハ畢竟犯罪事實ニ對スル單純ナル否認ニ外ナラスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ該當セサルモノトス然レハ原審カ右主張ニ對スル判斷ヲ原判決ニ示ササリシハ當然ニシテ同判決ニハ所論違法ノ廉ナク論旨理由ナシ

【要旨第一】

刑事訴訟法第三百六十條第二項　豫約ノ條件ヲ具備セサル約束ト詐欺ノ手段

辯護人山本政喜上告趣意書第二點原判決ニハ理由不備ノ違法アリ卽チ原判決ハ其ノ事實摘示第一ニ於テ「昭和四年十月頃東京市芝區新橋三丁目二番地四號土木請負業堀稍平方事務所ニ於テ同人ニ對シ同會社ニ請負工事代金支拂ノ資力ナク且柳下榮太郎及川田澤右衞門ト前記ノ如キ豫約ヲナシタル事實ヲ祕シ恰モ之等ノ事實無カリシモノノ如ク裝ヒテ同會社ノ全線ニ亙ル鐵道土木工事ニ關スル假請負契約ヲ締結スルニ付其ノ條件トシテ同會社ノ株主トナラレ度キ旨欺キ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同會社株式五百株ノ代金名義ノ下ニ同人振出金額二千五百圓ノ小切手ヲ交付セシメ」ト判示シ被告人ノ欺罔手段トシテ同人カ曩ニ柳下榮太郎及川田澤右衞門ト工事請負契約ノ豫約ヲナシタル事實ヲ堀稍平ニ對シ祕シタルコトヲ擧示セリ而シテ原判決ハ右被告人ト柳下　川田等トノ工事請負契約ノ豫約ニ付テハ事實摘示ノ冒頭ニ於テ「一方被告人ハ嚮ニ昭和三年四月頃柳下榮太郎及川田澤右衞門ノ兩名ニ對シ同會社全線ニ亙ル鐵道土木工事ヲ請負ハシムヘキ豫約ヲ爲シタルモノナルニ拘ラス」ト判示セルノミニテ如何ナル內容ノ豫約ナルヤヲ擧示セス又其ノ引用セル證據ニ付之ヲ見ルモ豫約ノ內容ヲ知ルコト能ハス單ニ同會社全線ニ亙ル鐵道土木工事ヲ請負ハシムヘシトノ豫約ニテハ其ノ內容餘リニ漠然タルモノニテ後日豫約權利者ニ於テ本契約ノ締結ヲ强制スルコトヲ得ス之ヲ强制スルニ足ル豫約トシテハ今少シク本契約ノ主要ナル內容ヲ定メ又ハ之ヲ定メ得ヘキ標準ヲ定ムルコトヲ要ス然ルニ之ヲ定メサル前記豫約ハ豫約トシテノ效力ナキモノナレハ被告人カ之ヲ祕シ右堀稍平ト工事請負契約ヲ締結シタリトテ何等責ムヘキモノニアラス寧ロ當然ナリ加之右豫約ヲ爲シタルハ會社設立前ニシテ被告人ハ單ニ發起人タル資格ニ於テ斯ル口約ヲ爲シタルニ過キサルヲ以テ假リニ有效ナル豫約ナリトスルモ會社ニ於テ當然該契約ニ基ク義務ヲ承繼スルモノニアラス左レハ被告人カ會社成立後其ノ取締役トシテ工事請負契約ヲ爲スニ當リ其ノ相手方ニ對シ右ノ如キ會社ニハ何等ノ義務ナキ豫約アルコトヲ祕シタレハトテ之ニ因リ相手方カ錯誤ニ陷リ契約ヲ締結セルモノト斷スルハ誤認モ亦甚シク右默祕ハ全ク契約締結竝株式賣買名義ニ依ル金圓交付トハ無關係ニシテ之ヲ强ヒテ欺罔手段ナリト斷定セントスルニハ前記豫約ノ內容ヲ今尠シク具體的ニ判示シテ其ノ有效ナルコト竝該豫約ニ基ク義務カ會社成立後之ニ承繼セラレタルコトヲ說示スルヲ要ス然ルニ之ヲ缺ク原判決ハ理由不備ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

原判示事實ヲ原判決擧示ノ證據タル證人柳下榮太郎同川田澤右衞門及原審公廷ニ於ケル被告人ノ供述ニ對照シ考覈スルトキハ原判示事實理由中ニ豫約トアルハ單ニ將來原判示會社ノ全線ニ亙ル鐵道工事ヲ請負ハシムヘキ約束ト云フ趣旨ニシテ嚴格ナル意味ニ於ケル民法上ノ豫約ト解スヘキニ非サルコトヲ認ムルヲ得ヘシ然レハ原判決ニハ右ノ點ニ付用語不精確ノ譏アルコト勿論ナリト雖之ヲ以テ所論ノ如キ豫約ナリトシテ原判決ヲ攻擊スルハ當ラサルナリ而シテ苟モ右ノ如キ約束ノ存スル以上ハ夫レカ會社設立前ノモノナリトスルモ會社成立ノ曉ニ於テ右約束ヲ承認シ之ニ基キ請負契約ノ締結セラルヘ

【要旨第二】

刑事訴訟法第三百六十條第二項　豫約ノ條件ヲ具備セサル約束ト詐欺ノ手段

キ可能性アルコト言ヲ俟タサルトコロナルカ故ニ右約束事實ヲ隱蔽シ他人ヲ錯誤ニ陷ルルニ於テハ猶且詐欺ノ手段ト爲スニ妨ケナキモノトス然リ而シテ本件ニ於テハ被告人ハ右約束ノ存在ヲ祕シタル外會社ニ多額ノ請負代金支拂ノ資力ナキニ拘ラス之アルカ如ク裝ヒ相俟ツテ他人ヲ錯誤ニ陷レタルモノナルコトハ原判決自體ニ徵シ疑ナキトコロナリトス要之原判決ニハ所論ノ點ニ付理由不備ノ違法アルヲ認メス論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

○新聞紙法違反被告事件（昭和十年（れ）第八九〇號　同年十月二日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　中谷武世　辯護人（角岡知良）（太田耕造）

【第一審】東京區裁判所　【第二審】東京刑事地方裁判所

○判示事項

書類ノ原本取寄ノ證據決定ト其ノ寫書ニ付テノ證據調——公判手續更新前ニ於ケル訴訟手續ノ違背ト上告理由

○判決要旨

一公務所ニ保管スル書類取寄ノ證據決定ノ施行トシテ同所ニ對シ書類送付方ノ囑託ヲ爲シタルニ公務所ニ於テハ書類ノ原本ニ代ヘ其ノ寫書ヲ送付シ來リタル場合ニ於テ其ノ寫書ニ付適法ニ證據調ヲ爲シタルトキハ該證據決定ハ完全ニ履踐セラレタルモノトス【要旨第一】

二公判手續カ更新セラレタル場合其ノ更新前ニ於ケル訴訟手續違背ノミヲ理由トスル上告論旨ハ許サルヘキモノニ非ス【要旨第二】

【參照】刑事訴訟法第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

書類ノ原本取寄ノ證據決定ト其ノ寫書ニ付テノ證據調　公判手續更新前ニ於ケル訴訟手續ノ違背ト上告理由

同法第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ
同法第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
同法第四百九條　上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ發行人トシテ罰金五十圓ニ編輯人トシテ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年五月二十六日ヨリ昭和九年十月十八日ニ至ル迄ノ間新聞紙法ニ依リ國民思想研究所（當初東京市麴町區丸之内二丁目十八番地昭和ビルディング内所在昭和八年十二月頃ハ同市同區内幸町一丁目三番地大阪ビルディング内ニ移轉ス）ニ於テ發行スル雜誌「國民思想」ノ發行人兼編輯人ナリシモノナルトコロ昭和九年二月一日附同雜誌二月號ニ「維新の眞髓」ト題シ（中略）論說ヲ同研究所事務員近松久司ヲシテ揭載セシメ同年一月十三日頃同雜誌約千五百部ヲ東京市其ノ他全國各地ニ發賣頒布セシメ以テ安寧秩序ヲ紊ス事項ヲ揭載發行シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ新聞紙法第四十一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ發行人トシテ罰金五十圓ニ編輯人トシテ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人角岡知良　太田耕造上告趣意書第一點原審第二回公判調書ヲ閲スルニ「辯護人角岡知良ハ警視廳ヨリ雜誌國民思想發行ニ付被告人カ爲シタル屆出書ノ原本ヲ取寄セラレタキ旨ノ申請ヲ爲シ其ノ立證趣旨ヲ說明シタリ……裁判長ハ合議ノ上右申請ヲ許容シ其ノ屆書ノ原本ヲ警視廳ヨリ取寄スル旨ノ決定ヲ宣シ云々」（記錄一五四丁裏）ト記載アリテ原審ニ於テハ辯護人ノ申請ニ依リ警視廳ヨリ雜誌國民思想發行ニ付被告人カ爲シタル屆出書ノ原本ヲ取寄ス可キ旨決定ヲ爲シタルモノナリトス然ルニ其ノ後ノ公判調書ヲ閲スルニ右屆出書ノ原本ヲ取寄セ之ヲ法廷ニ顯出シタル事跡ナキハ勿論右原本取寄ノ證據決定ヲ取消シ又ハ變更シタル事跡ノ徵ス可キモノ存スルトコロナク結局原審ニ於テハ自ラ決定シタル證據調ヲ適法ニ履踐セサルモノニシテ公判手續上重大ノ違法アリ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

然レトモ公判ニ於テ公務所ニ保管スル書類取寄ノ決定ヲ爲シ其ノ施行トシテ裁判長カ公務所ニ對シ書類送付方ノ囑託ヲ爲シタルニ當該公務所ハ該書類ノ原本ノ送付ニ代ヘ其ノ寫書ヲ送付シ來リタル場合裁判所之ヲ其ノ後ノ公判ニ於テ之ヲ公廷ニ顯出セシメ適法ニ證據調ヲ爲シタルトキハ縱令證據決定ノ趣旨カ原本ノ取寄ニ在リタリトスルモ後日ノ公判ニ於テ寫書ニ付證據調ヲ爲シタル際訴訟關係人ニ於

【要旨第一】書類ノ原本取寄ノ證據決定ト其ノ寫書ニ付テノ證據調　公判手續更新前ニ於ケル訴訟手續ノ違背ト上告理由

テ異議ナカリシトキハ其ノ證據調ヲ爲シタル書類カ原本ニ非サリシトノ理由ヲ以テ證據決定カ完全ニ履踐セラレサリシモノト論スルヲ得ス記錄ニ就キ調査スルニ原審ニ於テハ所論證據決定ヲ爲シタル後警視廳ニ對シ國民思想發行屆書原本ノ送付方ヲ囑託シタルニ警視廳ハ同廳檢閲課長名義ヲ以テ囑託ニ係ル新聞紙國民思想發行屆書原本ハ備付ノモノニシテ移動出來兼ヌル理由ヲ付シ原本ニ基キ寫ヲ作成シ其ノ原本ニ相違ナキ旨警視廳檢閲課巡査岩永公雄ノ認證シタル國民思想ノ發行屆ノ謄本二通及同發行編輯印刷人變更屆一通ヲ送付シ來リタルヨリ原審ハ其ノ後第三回ノ公判ニ於テ裁判長ハ該書類全部ヲ公廷ニ顯出セシメ之ヲ被告人ニ示シ其ノ意見ヲ求メ且利益ノ證據ヲ提出シ得ヘキ旨ヲ告知シ證據調ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘシ然レハ原審ニ於テ證據調ヲ爲シタル國民思想發行屆書ハ證據決定ニ於ケル書類ノ原本ニ非サリシモノナルモ證據調ヲ爲スニ際シ訴訟關係人ニ異議ナカリシモノナレハ冒頭說明ノ理由ニ照シ所論書類取寄ノ證據決定ハ完全ニ履踐セラレタルモノト云フヲ得ヘシ論旨ハ理由ナシ

同第四點原審公判調書ヲ閲スルニ「裁判長ハ合議ノ上訴訟關係人ニ異議ナキコトヲ確メタル後爾後ニ讀聞クル處ハ安寧秩序ヲ害スル虞レアルヲ以テ憲法第五十九條及裁判所構成法第百五條ニ從ヒ公開ヲ禁止スル旨ヲ告ケ傍聽人ヲ退廷セシメタル後右押收ニ係ル雜誌國民思想二月號所掲維新ノ眞髓ト題スル記事中原審判決摘示ノ部分ヲ讀聞ケ直ニ公開禁止ヲ解除シ云々」（記錄一三七丁）ト記載シアリテ原審ニ於テハ國民思想二月號中第一審判決摘示ノ部分ハ安寧秩序ヲ害スルモノトシテ公開ヲ禁止シタルモノナリ然レトモ右ノ部分ハ安寧秩序ヲ亂スモノニ非ストノ理由ニテ被告人ハ控訴ヲ申立テ檢事モ第一審判決摘示ノ犯罪事實ニ基キ公訴事實ヲ陳述シ裁判長ハ被告人ニ對シ右公訴事實ノ通リ被告事件ヲ告ケ被告人ヲ訊問シ居ルコトハ原審公判調書ノ記載ニ徵シ明ナルトコロニシテ判示雜誌二月號中第一審判決摘示ノ部分ハ既ニ原審公開法廷ニ於テ一般傍聽人ニ說明シ居ルトコロニシテ特ニ判示雜誌二月號中第一審判決摘示ノ部分ヲ被告人ニ讀聞クルニ際シ公開禁止ノ必要ナキ所ナリ然ルニ原審ニ於テハ判示雜誌二月號中第一審判決摘示ノ部分ハ安寧秩序ヲ害スルモノト豫斷シ該部分讀聞ケノ際ニ限リ公開ヲ禁止シタルハ公訴手續上違法ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ上告ナルモノハ原則トシテ第二審判決ヲ對象トシ其ノ判決又ハ其ノ基本ト爲リタル訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ許サルヘキ性質ノモノニシテ第二審判決ノ基本ト爲ラサル訴訟手續例ヘハ第一審ノ訴訟手續又ハ第二審ニ於テ公判手續ノ更新アリタル場合其ノ更新前ノ訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ主張シテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス仍テ所論ノ點ニ付原審公判調書ヲ閲スルニ原審カ所論ノ如ク公開禁止ノ決定ヲ宣言シテ公衆ヲ一時退廷セシメタルハ其ノ第一回公判手續進行中ノ出來事ニシテ該公判手續ハ其ノ後第二回又ハ第三回ノ公判ニ於テ審理ヲ更新セラレタルモノニ係ル而シテ判決ノ基本ト爲リタル公判手續ハ第三回以後ニシテ其ノ第三回公判ニ於テハ

【要旨第二】

書類ノ原本取寄ノ證據決定ト其ノ寫書ニ付テノ證據調　公判手續更新前ニ於ケル訴訟手續ノ違背ト上告理由

公開ヲ禁止シタル事跡ナキコト明ナルカ故ニ結局本論旨ハ原審ニ於ケル公判手續更新前ニ行ハレタル對審ノ公開ニ關スル法則違反ノミヲ上告ノ理由トシテ主張スルモノト云フヘク冒頭說明ノ理由ニ照シ上告理由トシテ適法ナラサルモノトス加之凡ソ裁判ノ對審判決ハ公開ヲ原則トシ但タ裁判所公開ノ審理ヲ爲スニ當リ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ合議ノ上對審ノ公開ハ之ヲ停メ得ヘキモノナルコト憲法第五十九條裁判所構成法第百五條ノ認許スル所ニシテ其ノ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞レアル場合ニ於テ公開ヲ禁止スヘキヤ否ハ一ニ裁判所ノ裁量ニ任セラレタルモノト解スヘキカ故ニ裁判所安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認メタルモ公開禁止ヲ相當トセサルトキハ公開禁止ヲ爲ササルヲ得ヘキヤ明ナリ然レハ原審カ第一回ノ公判ニ際シ檢事カ公訴事實ノ陳述ヲ爲シ裁判長公訴事實ノ要旨ヲ被告人ニ告知シテ其ノ訊問ヲ爲シタル事實アリ然カモ公訴事實ノ內容カ安寧秩序ヲ害スルノ虞アル新聞記事ナリシトスルモ審理ノ公開ヲ禁止セサルヘカラストノ結論ヲ生スヘキニ非サルト同時ニ押收ノ證據物タル係爭ノ新聞記事ヲ法廷ニ於テ讀聞ケルニ當リ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認メ公開禁止ノ決定ヲ爲シ公衆ヲ法廷ヨリ退廷セシムルモ毫モ不法ニ非ス然レハ原判決ニハ何等所論ノ如キ違法アルコトナキモノトス論旨ハ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

○詐欺幇助被告事件（昭和十年（れ）第九四一號　同年十月三日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　安東筆太郎　辯護人（一松定吉　赤井幸夫）

【第一審】大分地方裁判所中津支部　【第二審】長崎控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百六十條第一項ニ所謂證據理由ノ說明方法

○判決要旨

罪ト爲ルヘキ事實ニ付テノ證據理由ノ說明ハ必スシモ各證據ノ內容ヲ原文ノママ錄寫スルノ要ナキモ其ノ趣旨ヲ摘示シ或ハ其ノ題目ヲ掲ケテ判示事實又ハ他ノ判示證據トノ綜合對照上其ノ趣旨ノ

內容ノ何タルヤヲ認識シ得ル程度ニ於テ之ヲ擧示スルノ要アルモノトス

【參照】刑事訴訟法第三百六十條第一項　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及證據理由ノ說明ヲ爲シタリ

被告人筆太郎ハ醫師ニシテ三十數年來肩書地ニ於テ開業セルモノナルトコロ久次顯ヲ其ノ死亡前昭和七年十月中一兩回診察シタルコトアリ且同人カ被告人方ノ近所ニテ荷馬車挽ヲ業トセルモ晩年健康ヲ害シ精神ニ異狀ヲ來セル等ノ既往症アリ健康體ニ非サリシコトヲ熟知セルヲ以テ其ノ實兄久次丈吉ヨリ右顯ヲ被保險者トシテ日本生命保險株式會社ト金五千圓ノ生命保險契約ヲ締結セルコトヲ聞知シ丈吉等カ何等カノ不正手段ニ依リテ保險契約ヲ締結セルモノナルコトノ情ヲ察知シ乍ラ同月三十一日顯死亡スルヤ原審相被告岩男休吾及丈吉等ヨリ相當ノ謝禮ヲ爲スヘキヲ以テ保險金受領ニ都合ヨキ樣死亡診斷書ヲ認メ交付サレ度キ旨懇請サレ承諾シ同年十一月十一日頃肩書居宅ニ於テ顯ハ生前健康體ニシテ既往ニ疾患ナク且體癖ヲ有セサリシ旨事實ニ符合セサル死亡診斷書一通ヲ作成シ之ヲ休吾ヲ通シテ丈吉ニ交付シ以テ保險契約ノ頭初ニ當リ自ラ顯ノ替玉トナリテ保險診査ヲ受ケ會社ヲシテ保險契約ヲ締結セシメタル原審相被告丈吉及其ノ一味ヲシテ該死亡診斷書ヲ所要書類ト共ニ右會社ニ提出セシメ同會社ヲシテ顯ハ健康且體癖ヲ有セサリシモノトノ誤信ヲ深カラシメ因テ昭和八年一月七日大分縣西國東郡高田町ナル久次丈吉方ニ於テ同會社宇佐代理店主江島茂ヨリ保險金名義ノ金五千圓ヲ受取ラシメ以テ同人等ノ犯行ヲ幇助シタルモノナリ

審理ヲ遂クルニ

右事實ハ

一　被告人ノ當公廷ニ於ケル、（イ）久次丈吉等カ保險詐欺ヲ企テ居ルコト（ロ）久次顯カ晩年判示ノ如ク病體ナリシコトハ孰レモ之ヲ知ラス而シテ知情ノ上報酬契約ノ下ニ虛僞ノ死亡診斷書ヲ作成交付シタルニ非ス該記載ハ眞實ナル旨辯解スル外被告人ノ關係部分ニ付判示同旨ノ供述

一　原審第一回公判調書中被告人筆太郎ノ供述トシテ（八三九丁以下）久次顯ハ子供ノ時分ヨリ知リ居レリ同人ハ昭和七年十月中一回往診シ其ノ翌日又往診セムトシタルモ快方ニ向ヒタリトテ同人ノ兄丈吉カ往診ヲ斷リタルヨリ同人方ノ門口ヨリ引返シタルカ同月三十一日來診ヲ求メラレテ往診シタルニ既ニ重態ニテ約二十分位ニテ絶命シタリ其ノ晩カ翌朝頃村役場ヘ出ス死亡診斷書ヲ番組ノ人カ貰ヒニ來リタルヲ以テ二通書キ與ヘタルカ其ノ又翌日頃久次丈吉ト岩男休吾カ參リ保險會社ヘ出ス死亡診斷書ヲ貰ヒ度シト申シタルモ當時私ハ風邪氣味ナリシヲ以テ斷リタルニ又其ノ翌日頃右兩名中ノ一人カ來テ保險會社ヨリ死亡診斷書用紙ヲ送付シタル故保險金ノ取レル樣都合ヨク書イテ呉レト申シタルモ氣カ向カサリシヲ以テ返答セサリシニ其ノ翌日頃日本生命保險株式會社宇佐代理店ノ江島茂カ來テ又請求シタルヲ以テ其ノ四、五日後ニ認メテ之ヲ岩男休吾ヘ渡シタリ久次顯カ精神異狀トノ點ハ聞カサリシモ昭和七年初頃ヨリ顯ハ妻ニ對シ時ト所トヲ構ハス情交ヲ挑ミ色情狂ト云フ噂モアリ又馬カ暴レテ頭ヲ打チ勘定カ下手ニナツタト云フ噂モ聞キ居リタリ（八四九丁）久次丈吉カ保險金ノ取レル樣ニ顯ノ死亡診斷書ヲ都合好ク書イテ呉レト申シタルハ保險金ヲ取ルニ付邪魔ニナルカ如キコトハナルヘク避ケテ金ノ取レ易キ樣ニ都合ヨク書イテ呉レト云フコトヲ賴ミタルモノト思ヒタリ（八五一丁）丈吉ト休吾ト兩名ヨリ直接私ヘ謝禮ノ話ヲナシタル譯ニハ非サルモ兩名ハ私ノ前ニテオ禮ニ金五百圓位ハ差上ケルト申シ居リタリ私ハ判示ノ死亡診斷書ヲ休吾ニ渡シタル後昭和

八年一月中休吾カ丈吉ヨリ賴マレテ來タト云ヒ金三百圓ヲ持參シタルヲ以テ私ハ是迄ノ藥價ヲ一緒ニ勘定スルノカト尋ネタルニ左樣タト答ヘタルヲ以テ丈吉ト顯方ノ昭和四年以來ノ藥價ヲ計算シタルトコロ五十何圓カアリ之ト死亡診斷書料二十二圓合計七十何圓トナリタルヲ以テ殘金ヲ持歸ヘレト申シタルモ休吾ハ丈吉ノ使ナレハトテ其ノ金三百圓ヲ置キテ歸ヘリタリ其ノ後一、二回丈吉ヲ呼ヒ殘金ヲ持歸ル樣ニ話シタルトコロ同人ハ金カ手ニ入リタルコトナレハ此ノ際昔ヨリノ藥價モ取ツテ置イテ吳レト申シ持歸ヘラス其ノ後モ一度左樣ニ申シタルモ同樣持歸ヘラサリシカ二、三十年ヨリノ延滯藥價ヲ計算スレハ丈吉カ私方ヘ支拂フヘキ分ハ三百圓位ニ達スル旨ノ記載

一　原審第二回公判調書中原審相被告岩男休吾ノ供述トシテ（八八五丁以下）久次顯ハ昭和七年十月三十一日死亡シタルカ其ノ二、三日間前丈吉ヨリ顯ノ容態急變ニ付若シ死亡セハ同人ニハ五千圓ノ生命保險カ付シアル故保險金ノ取レル樣都合ヨク安東醫師ヘ賴ンテ吳レトノ話アリタリ其ノ際丈吉ノ話ニテハ顯ハ病人故到底保險診査ニ合格スル見込ナキヲ以テ丈吉自身カ顯ノ身替トナリ診査ヲ受ケタル由ナリシカ顯本人ハ其ノ一、二年前ヨリ精神ニ異狀ヲ來シ保險ノコト等ヲ話シテモ要領ヲ得ヌコトナレハ本人ニハ左樣ナ話ハ爲シ居ラサルモノト思ヒタリ顯死亡ノ晩見舞ニ行キタルニ丁度私ハ死亡屆ヲ爲ス役割ニ當リタルヲ以テ安東先生方ヘ行キ役場ヘ出ス死亡診斷書ヲ賴ミ尙保險ニ加入シ居リタルヲ以テ都合ヨク診斷書ヲ書イテ下サイト申スト先生ハナカナカ返事ヲセサリシカ私カ病名ヲ尋ネタルニ先生ハ自分カ顯ヲ診察シタルハ遲カリシ故良クハ判ラネトモ肺炎ニシテ置カウト申シ死亡診斷書二通ヲ役場ヘ出ス分ニ認メ吳レタリ其ノ四、五日後丈吉カ私方ニ來テ顯ハ日本生命保險株式會社ヘ五千圓ノ保險ニ加入シ居ルヲ以テ安東先生ヘ賴ミニ同行シテ吳レト申スノテ承諾シテ行キ丈吉カ安東先生ヘ保險金ノ取レル樣都合好ク死亡診斷書ヲ書イテ下サイト賴ミタルトコロ先生ハ年ヲ取ツテ左樣ナコトハ仕度クナイト申サレタリ尙丈吉カ賴ミ若シ保險金カ取ルレハ五百圓位ハ御禮ヲスルト云ヒタル　ニ先生ハオ禮ハ要ラヌカマアー急ニハ出來ヌ其ノ內ニ書イテ置カウカラ用紙ヲ置イテ行ケト申サレタル故其ノ折丈吉カ會社ノ死亡診斷書用紙ヲ持參シ居リタルヲ以テ之ヲ先生ニ預ケ宜敷ク賴ミテ歸ヘリタリ丈吉カ安東ニ保險金ヲ取ルニ都合好ク書イテ吳レト申シタルハ顯カ一、二年前ヨリ腦カ惡ク神經（精神病）ノ樣ニナリ仕事モセスニ街中ヲフラフラ步キ廻リ居リ約一年前ヨリハ外出モセス床ニ付キ居リタルヲ以テ若シ安東先生カ有體ニ書ケハ保險金ヲ取ルノニ都合カ惡イ故其處ヲ會社ニ知レヌ樣ニシテ保險金ヲ取ルニ都合ヨキ樣認メテ吳レト云フ意味ニテ賴ミタルモノト思ヒタリ其ノ際安東先生ハ如何ニシテ顯ヲ保險ニ入レタルカ其ノ譯ハ問ハサリシモ替玉ヲ使ヒ保險契約ヲシタルコトヲ疑ヒ居リタル樣子ニテ夫レニテ同人ハ年ヲ取ツテソンナコトハ仕度クナイト云ツタノテアラウト思ヒタリ顯カ前述ノ如キ病人ナルコトハ近所ノ評判ニナリ居リタルヲ以テ安東先生ハ無論御存知テアツタト思ヒタリ其ノ後四、五日シテ私カ安東先生方ニ行キタルトコロ先生カ顯ノ死亡診斷書ヲ吳レタルヲ以テ私カ之ヲ受取リ丈吉ニ交付シタルカ其ノ後ノコトハ詳シク承知セサルモ丈吉カ右死亡診斷書ヲ使用シテ保險金ヲ受取リタルコトニテ昭和八年一月初頃ノ晩私方ヘ來テ借錢ノ支拂ト申シ四百圓ヲ吳レタルカ安東先生ヘハ最初丈吉ヨリ五百圓ノ謝禮ヲ爲ス約束ナリシモ丈吉カ三百圓タケ持參シテ吳レト申ス故之ヲ安東方ヘ持參シ少クテ濟ミマセヌカ收メテ置イテ下サイト申スト先生ハ診斷書料二十圓ト丈吉ヤ其ノ家族ノ藥價カ五十圓位故七十圓丈ケ貰ヘハ好イト申シタルモ丈吉ヨリ賴マレタルコトナレハマー取ツテ置イテ下サイト云フト先生ハソレテハ今勘定カ出來ヌカラ置イテ行ケト申サレタル旨ノ記載

一　原審第一回公判調書中原審相被告久次丈吉ノ供述トシテ（八一六丁以下）私カ顯ノ死亡診斷書ノコトニ付安東醫師方ヘ行キタルトキ安東醫師ハ顯ノ保險ハ何時加入シタカト問ヒタルヲ以テ昭和七年五月頃ト答ヘタルトコロ安東ハ自分等カ都合好ク死亡診斷書ヲ書ク樣ニ依賴シタルモナカナカ返事ヲセス自分ハ身體モ惡ク又年ヲ取リ居ル故左樣ナコトハ仕度クナイト答ヘ再三辭退シタルモオ禮ハ十分スルト云ヒ賴ミタル旨竝（七九五丁以下）判示保險契約成

立事情顯ノ病狀保險金騙取ノ顚末等判示ノ同人關係部分ニ付其ノ旨ノ記載

一　被告人筆太郎ニ對スル第二回豫審訊問調書中其ノ供述トシテ（六八八丁以下）顯死亡ノ翌日丈吉カ或ハ休吾カラカ顯カ保險ニ加入シ居ル故都合好ク死亡診斷書ヲ書イテ呉レトハ賴マレサリシモ顯カ保險ニ加入シテ居リタルコトハ之ヲ聞キタリ其ノ時休吾　丈吉等ノ考ヘカ保險金ヲ取ルニ都合好キ樣診斷書ヲ書キ貰ヒ度キ心算ナリシコトハ判リ居リタル旨ノ記載

一　被告人筆太郎ニ對スル第一回豫審訊問調書中其ノ供述トシテ（四二三丁以下）會社ノ名ハ聞カサリシモ顯死亡後休吾カ丈吉カカ御示シノ診斷書用紙ヲ持參シタルヲ以テ其ノ會社カ日本生命保險株式會社ナルコトヲ知リタルカ金額ハ五千圓トノコトナリキ私ハ顯カ被保險者トシテ會社ノ診査ヲ通過スルニ付テハ何等カ不正ノ手段ニ依リ或ハ替玉ヲ使ヒ會社ヲ誤魔化シタルニ非スヤトノ疑念ナキヲ得スシテ診斷書ヲ認ムルコトヲ大層躊躇シタル旨ノ記載

一　證人江島茂ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ（六二三丁以下）私ハ日本生命保險株式會社宇佐代理店主ナルカ右會社ニテハ保險契約カ被保險者ノ替玉ニ依リテ締結サレタル如キ場合ニハ其ノ判明次第會社トシテハ契約ヲ解除シテ保險金ノ支拂ヲ爲ササルハ勿論保險料ノ返還モナササルモノナル旨ノ記載

一　證人濱田堯民ニ對スル豫審訊問調書中其ノ供述トシテ（六四七丁以下）私ハ昭和五年七月下旬ヨリ日本生命保險株式會社ノ診査醫トナリ今日ニ及ヘルモノナルカ昭和七年五月五日西國東郡高田町ニ於テ被保險者久次顯ノ診査ヲ爲シ其ノ旨診査報狀ヲ作成シテ本社ニ送付シタルモノナリ其ノ際診査ヲ受ケタル者ハ顯本人ト思ヒ居リテ替玉ナルコトハ知ラサリシ旨ノ記載

一　押收ノ證第四號ノ死亡診斷書ノ記載ニ據リテ之ヲ認ム

左レハ本件ハ犯罪ノ證明アリタルモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人一松定吉　赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ其ノ證據說明中「（前略）押收ノ證第四號ノ死亡診斷書ノ記載左レハ本件ハ犯罪ノ證明アリタルモノトス」ト說示シタリ然レトモ右說示スル處ニヨリテハ右押收ノ證第四號ナルモノハ何人ノ死亡診斷書ナルヤ右死亡診斷書ニハ如何ナル內容ノ記載アルモノナルヤ判文上全然之ヲ知ルニ由ナシ判決ニ引用セル證據ノ內容ハ必ラスシモ具體的ニ之ヲ明示スルノ要ナシト雖少クトモ如何ナル趣旨ノモノニシテ而シテ右ハ判示事實中如何ナル點ノ說明ノ用ニ供スルモノナルヤヲ知ル程度ノ明示ヲ要スルモノニシテ單ニ其ノ證據ノ題目ヲ揭クルニ過キサルカ如キハ未タ以テ證據ヲ明示セルモノト謂フヘカラス（御院大正十二年（れ）第一三六一號同年十二月八日第三刑事部判決理由大正十三年（れ）第二三一五號同十四年四月二十四日第六刑事部言渡事實審理決定理由同十四年（れ）第四八號同年三月二十七日第六刑事部言渡事實審理決定理由同十四年（れ）第一三二九號事實審理決定理由昭和三年（れ）第九一七號同年七月二日第五刑事部言渡事實審理決定理由同二年（れ）第一三二八號同年十一月八日第一刑事部言渡事實審理決定理由等參照）果シテ然ラハ原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條ニ違背セル理由不備ノ判決タルヲ免レス此ノ點ニ於テ破毀セラル

ヘキモノト信スト謂フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ有罪ノ言渡ヲ爲ス判決ニ在リテハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明スルコトヲ要スルハ刑事訴訟法第三百六十條第一項ノ規定スル所ニシテ此ノ規定ニ依ルトキハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サレハ必シモ證據說明ヲ要セサルモ罪ト爲ルヘキ事實ニ付テハ證據說明ヲ爲スノ必要アルコト明白ナリ而シテ玆ニ所謂證據說明ハ單ニ證據ノ題目ヲ擧示スルノ義ニ非スシテ如何ナル事實點カ如何ナル證據ニ依リテ證明セラルヘキカ二者ノ連絡關係ヲ査覈スルコトヲ得ル程度ニ於テ判文上證據ノ內容ヲ示シ以テ事實認定ノ合理的基礎ヲ明示スルノ趣旨ニ外ナラス是卽チ判決ノ確正ト威信トヲ確保スル所以ナリ然リ而シテ證據ノ內容ハ必スシモ之ヲ原文ノママ寫錄スルコトヲ要スルモノニ非スト雖或ハ其ノ趣旨ヲ摘示シ或ハ其ノ題目ヲ揭ケテ判示事實又ハ他ノ判示證據トノ綜合對照上其ノ趣旨ヲ認識シ得ル程度ニ於テ之ヲ擧示スルコトヲ要スルノ趣旨ハ所論本院判例ノ夙ニ認ムル所ナリ若シ夫レ特定ノ證據ニ付テ敍上ノ程度ニ於ケル內容ノ擧示アリヤ否ハ當該判決ニ就キ個別的ニ甄別スヘキ事項ニシテ抽象的ニ斷定シ得ヘキ問題ニ非ス之ヲ原判決ニ徵スルニ其ノ擧示セル「死亡診斷書ノ記載」ハ未タ證據ノ內容ヲ示スニ足ラスト雖其ノ他ノ判示證據中第一審第一回公判調書ニ於ケル被告人筆太郎ノ供述記載トシテ同被告人カ判示ノ死亡診斷書ヲ休吾ニ渡シタル後云々ナル說示アリ而シテ右判示死亡診斷書ナルモノハ判示事實ト相對照シテ久次顯ハ生前健康體ニシテ既往ニ疾患ナク且體癖ヲ有セサリシ旨記載アル診斷書ナルコト一見明瞭ニシテ所論判示死亡診斷書ノ記載ナルモノモ畢竟右ト同趣旨ノ內容ヲ有スル記載ナルコト判文全體ノ査覈上自ラ推知セラルルヲ以テ原判決ニ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

○營利職業紹介事業取締規則違反被告事件（昭和十年（れ）第八九一號　同年十月四日第四刑事部判決　破毀自判）

【上告人】被告人　倉田寅市
原審辯護人　田邊邦秀

【第一審】東京區裁判所　【第二審】東京刑事地方裁判所

辯護人　田邊邦秀

○判示事項

紹介營業取締規則第一條ノ許可ノ效力

紹介營業取締規則第一條ノ許可ノ效力

○判決要旨

昭和元年十二月二十八日警視廳令第四號紹介營業取締規則第一條ニ依ル藝妓、娼妓、酌婦ノ紹介營業ノ許可ハ之ニ類スルモノニ付テモ亦其ノ效力アルモノトス

【參照】昭和元年十二月二十八日警視廳令第四號紹介營業取締規則第一條　本令ニ於テ紹介營業ト稱スルハ營業トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ紹介ヲ爲スヲ謂フ

一　藝妓、娼妓、酌婦又ハ之ニ類スル者
二　里子
三　結婚者
四　不動產ノ賣買者又ハ賃貸借者

同第四條　紹介營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第二號法人ノ定款代表者、第三號營業所ノ所在地、第四號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ願出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　本籍、住所、氏名、生年月日及履歷
二　法人ニ在リテハ其ノ定款及其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名、生年月日竝履歷
三　營業所ノ所在地及名稱
四　營業ノ種類
五　手數料額及其ノ領收方法

前項ノ願書ハ營業所所在地ノ變更ヲ爲サムトスル場合ニ於テ其ノ變更先ニシテ他ノ警察署ノ管內ナルトキハ現營業所所在地ノ所轄警察署ヲ經由スヘシ

大正十四年十二月十九日內務省令第三十號營利職業紹介事業取締規則第二條　職業紹介事業ヲ營マムトスルトキハ左記事項ヲ具シ事業所所在地ノ所轄警察署ヲ經由シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、氏名、年齡及履歷
二　法人ニ在リテハ其ノ定款竝ニ其ノ代表者ノ本籍、住所、氏名、年齡及履歷
三　事業所ノ所在地及名稱
四　主トシテ紹介セムトスル職業ノ種類
五　手數料額及其ノ領收方法

前項第二號法人ノ定款、代表者、第三號事業所ノ所在地、第四號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ事業所所在地ノ所轄警察官署ヲ經由シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

紹介業者（紹介業者法人ナルトキハ其ノ代表者）ノ本籍、住所、氏名又ハ事業所ノ名稱ニ變更アリタルトキハ其ノ變更後七日內ニ事業所所在地ノ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

同第八條　紹介業者ハ左ニ揭クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　職業紹介事業ニ關シ誇大又ハ虛僞ノ廣告又ハ揭示ヲ爲スコト

紹介營業取締規則第一條ノ許可ノ效力

二　紹介ニ際シ求職者ノ性行、技能、健康狀態、求人者ノ家庭ノ狀況、勞務條件、報酬其ノ他契約上必要ナル事項ニ付事實ヲ虚構シ又ハ隱蔽スルコト

三　求職者ノ意思ニ反シテ紹介ヲ爲スコト

四　濫ニ被傭中ノ者ヲ勸誘シ他ニ紹介スルコト

五　濫ニ事業所外ニ於テ被傭者タルコトヲ勸誘スルコト

六　紹介ニ係ル雇傭ノ當事者間ニ於ケル財物ノ授受ニ關與スルコト

七　求職者ヲ誘引スル者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス財物其ノ他ノ利益ヲ供與スルコト

八　藝妓、娼妓、酌婦、又ハ之ニ類スルモノノ周旋ヲ爲スコト

九　求職者ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト

十　求職者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

十一　紹介ニ關シ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄スルコト

同第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

一　第二條第一項第二項、第三條又ハ第四條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十五條ノ規定ニ依リ事業ヲ停止セラレタル者ニシテ其ノ停止期間中事業ヲ營ミタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ昭和七年一月二十七日頃埼玉縣生レノ秋田リカ（當時二十一年）ヲ東京市向島區寺島町七丁目五十七番地松村とし子方ニ雇人トシテ周旋紹介シ同人ヨリ手數料トシテ金十五圓ヲ受取リ爾來昭和九年五月十一日頃ニ至ル迄ノ間ニ十四回ニ亙リ村田せつ外十三名ノ婦女ヲ執レモ同區寺島町七丁目五十五番地河原カツ方外九箇所ニ各雇人トシテ周旋シ其ノ都度河原カツ外九名ノ雇主ヨリ手數料合計約金五百四十五圓ヲ徵シ以テ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ營ミタルモノナリ

法令ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ大正十四年十二月十九日内務省令第三十號營利職業紹介事業取締規則第二條第一項ニ違反スルヲ以テ同規則第十七條第一號ヲ適用シ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙被告人及辯護人ハ被告人ハ夙ニ所轄警察署ノ許可ヲ受ケ藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者ノ紹介營業ニ從事シ來リタルモノニシテ本件被告人ノ所爲ハ十五名ノ婦女ヲ執レモ寺島町内（俗ニ玉ノ井ト稱ス）ノ私娼トシテ周旋シタルモノニ係リ右私娼ハ孰レモ客ニ接シテ賣淫行爲ヲ爲スモノニシテ其ノ實情頗ル酌婦ニ類スルモノアルニヨリ既ニ許可ヲ受ケ居ル「藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者」ノ内ニ該當スルモノト謂フヘキモノナルヲ以テ被告人カ本件周旋ヲ爲スニ付營利職業紹介事業取締規則ニ依ル地方長官ノ許可ヲ受ケ居ラサレハトテ紹介營業取締規則ニ依リ所轄警察署ヨリ前記ノ許可ヲ受ケ居ル以上何等罪ト爲ルモノニ非サル旨主張シ被告人ハ嘗テ所轄警察署長ヨリ同業者一同ニ對シ右ト同趣旨ノ訓示ヲ受ケタル旨辯疏スレトモ被告人カ當公廷ニ提出シタル證明書ニ依リテハ被告人カ所轄警察署ヨリ藝妓娼

妓酌婦ノ紹介營業ニ付許可ヲ受ケ居ルコトヲ認メ得ルニ止リ之ニ類スル者ニ付許可ヲ受ケ居ル事實ヲ認メ難シ被告人提出ニ係ル東京藝妓娼妓酌婦等紹介營業組合ノ掲示ヲ以テハ未タ右認定ヲ左右スルニ足ラス尙假ニ被告人ニ於テ其ノ主張ノ如ク藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者ニ付紹介營業ノ許可ヲ受ケタリトスルモ紹介營業取締規則ニ所謂「藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者」トハ孰レモ法令カ社會政策上或ハ風紀取締上一定ノ職業トシテ明示的又ハ默示的ニ認メタルモノノミヲ指稱スルモノト謂フヘク苟モ法令ニ於テ一定ノ職業トシテ認メタルモノニ非サル限リ假令其ノ實情ニ於テ之ニ類似スル者ト雖直ニ之ニ該當スルモノトハ認メ難シ彼ノ玉ノ井等ニ於ケル私娼ナルモノハ被告人等ノ主張スル如ク常習トシテ密賣淫ヲ爲スモノニシテ斯ル職業ハ法令ノ明示的ニモ默示的ニモ認メタルモノニ非サルヲ以テ右紹介營業取締規則ニ所謂「藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者」ノ何レニモ該當セサルモノト解スルヲ相當ト認ム加之原審第二回公判調書中證人瀧田喜作ノ供述記載ニ依レハ警視廳ニ於テハ從來右ト同一解釋ノ下ニ之カ取締ヲ爲シ來リタルコトヲ看取シ得ルノミナラス被告人ノ辯疏スルカ如キ事實ヲ聞知シタルコトナキコトヲ認メ得ヘキニ依リ被告人及辯護人ノ主張竝被告人ノ辯疏ハ孰レモ理由ナキコト明瞭ナルヲ以テ之ヲ採用セス

○主文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理由

辯護人田邊邦秀上告趣意書第一、原判決ハ法則ヲ不當ニ解釋適用シタル違法アリ本件被告人ハ紹介營業取締規則（昭和六年十二月二十八日警視廳令第四號）第一條本令ニ於テ紹介營業ト稱スルハ營業トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ紹介ヲ爲スヲ謂フ一、藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者二、甲子三、結婚者四、不動產ノ賣買又ハ賃貸借者右法規ニ則リ警視廳ヨリ上敍法令第一號ノ營業許可ヲ受ケ居ルモノナレハ前記昭和十年（れ）第二八二號判示ノ詳細ヲ玆ニ述フル迄モナク酩酒店ノ婦女ハ內務省令タル營利職業紹介取締規則及警視廳令第四號ニ所謂酌婦ニ類スル者ニ當ルモノト解スヘキナレハ本件被告人ノ行爲ハ罪ト爲ルヘキモノニ非ス第二、原審判決ハ上告人カ警視廳ヨリ藝妓娼妓酌婦ノ紹介營業ニ付許可ヲ受ケ居ルコトヲ認メ得ルニ止マリ之ニ類スル者ニ付許可ヲ受ケ居ル事實ヲ認メ難シトシ證據ノ判斷ニ依リ上告理由ヲ阻止セントスルカ如キ感アレト上敍警視廳令第一條第一號ニ藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者トシ以下乃至第四號ニ其ノ營業項目ヲ列擧分類シアルモノニシテ警視廳ニ於テ該令ニ依ル營業許可ヲ爲スニ當リ右各項中更ニ項目ヲ分別シ許可アルモノナリト解スルカ如キハ通常ノ解釋トシテハ之ヲ許ササルモノト謂ハサルヘカラス本件事案ノ場合ニ付テ見ルニ第一號藝妓娼妓酌婦ニ付テ許可アリ之ニ類スル者ニ付テハ特ニ之ヲ除キテノ許可アリト解スルニハ周到ナル證據ニ依リ之カ特別ノ場合タルヲ明カニセサルヘカラス此點ニ關スル原審ニ於ケル證據ヲ見ルニ警視廳營業取締規則ニ依リ許可營業人カ店頭ニ掲クヘキ掲示表（右掲示表自體モ警視廳ノ許可アルモノ）竝ニ本件營業許可竝ニ營業取締ニ付權限ヲ有スル警視廳警部瀧田喜作ノ證言（同證人ハ前記十年（れ）第二八二號事件ニモ證人トシテ出廷シ居ル者）問證人ハ藝妓娼妓酌婦其ノ他之ニ類スル者ニ付如何ナル方針テヤッテ

居ルカ答其ノ他之ニ類スル者ト云フノハ現在テハ殆ント容文ノ如クテアリマシテ其ノ點ハ營業者カ知ツテ居ル筈テ酌婦ヲ公認シテ居ナケレハ詰リ酌婦テハナイノテ其ノ中ニ含メテ居リマステスカラ本件ノ場合ハ違反ト云フコトニナリマス以上二ツノ證據ニ依レハ被告人ハ本件被告人カ同廳令第一條第一號中ノ之ニ類スル者ニ付許可アルモノト認定スヘキハ當然ニシテ原審判決ノ如ク其ノ他之ニ類スル者ナル項目ヲ其ノ許可中ヨリ除外セラレ居ルモノト解スルヲ得サルハ明カナリ原審判決ハ被告本人ノ右之ニ類スル者ニ付許可アリトノ辯解竝ニ辯護人ヨリ此點ヲ明カニセン爲警視廳ニ於ケル右許可係主任ヲ證人トシテ喚問ヲ求メタルモ必要ナキモノト認メ之ヲ却下シ只被告人カ警視廳ヨリ同廳令第一條第一號ノ營業許可ヲ受ケ居ルコトノ立證トシテ提出セル代書人作成所轄警察署ノ證明書ニハ之ニ類スル者ナル文字カ脫シアルヲ取リテ唯一ノ本件事案斷罪ノ資料ニ供シタルハ原審ノ本件事案自體ニ對スル見地カ有罪ナリトノ違法ノ認識ニ根據シ居ルモノナルコトハ同判決ニ尙假ニ被告人ニ於テ其ノ主張ノ如ク藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者ニ付紹介營業ノ許可ヲ受ケタリトスルモ紹介營業取締規則ニ所謂「藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者」トハ孰レモ法令カ社會政策上或ハ風俗取締上一定ノ職業トシテ明示又ハ默示的ニ認メタルモノノミヲ指稱スルモノト謂フヘク苟モ法令ニ於テ一定ノ職業トシテ認メタルモノニ非サル限リ假令其ノ實情ニ於テ之ニ類似スル者ト雖直チニ之ニ該當スルモノト認メ難シ」ト論述シアルニ徵シテモ明カナリ要スルニ原判決ハ此ノ獨斷的見地ヨリ上叙ノ重大ナル事實ノ誤認ニ陷リテ爲シタル事實ノ認定ハ法ノ形式ニ違フ所ナキモ法ノ精神ト背馳スルモノ當ニ刑事訴訟法第四百十四條ノ適用アリト謂ハサルヘカラス第三、抑モ刑事訴訟法ハ實際的眞實發見主義ニ依リ大公至正ヲ以テ眞髓ト爲ス刑事訴訟法ニ關スル法規ハ此眞髓ヲ維持スルニ違算アルヘカラストナサル然ルニ本件ハ裁判所ニ於テ本來罪トナラサル行爲ニ對シ犯罪ナリトノ根本的ニ誤レル認識ノ下ニ審理ヲ進メタリトセハ果シテ上叙ノ大公至正ノ大原則カ適正ニ行ハルヘキヲ豫期シ得ヘキカ上告人ハ一審以來私娼ハ酌婦其ノ他之ニ類スル者ニ屬スルモノナリトノ一點ヲ力說シ辯護シ來リシモノナルニ第一審モ控訴審モ共ニ本件ノ所謂私娼ハ酌婦其ノ他之ニ類スルモノニ非ストノ根本的見解ニ立チテ審理裁判ヲ進行シ來リシモノナルコト明カナリ依リテ上告人ハ事實審ノ最終審タル控訴審ニ於テ裁判長ノ利益ナル證據ヲ提出シ得ヘキ旨告ケラレタルニ應シ前記法律點ニ關シ御廳ニ最高解釋ヲ仰カンコトヲ期シ調書ニモ明カナル通リ控訴辯護人ハ上告人カ營業許可中ニ其ノ他之ニ類スル者ノ項目カ除キアルモノニ非サルコトヲ立證スル爲警視廳當該許可係ノ喚問ヲ申請シタルニ控訴審ハ調書ニハ記載ナケレト裁判長ハ右辯護人ノ立證趣旨ヲ裁判所ニ於テ必要トセハ裁判所ハ直接刑事訴訟法第三百二十八條ニ基キ處置ストナシ控訴辯護人ノ本件ニ最モ重要關係アル事項立證ノ爲控訴審ニ於テ爲シタル唯一ノ證據申請ヲ必要ナキモノトシテ却下シタルハ明カニ本件事案ニ對スル控訴審カ根本的ニ其ノ適用法令ノ解釋ヲ誤リ居レル結果ニシテ其ノ却下ノ理由ハ控訴判決理由ニ「酌婦其ノ他之ニ類スル者」ノ法律上ノ性質ニ付縷

縷ノ論述說明卽チ之レナリト云フヲ得ヘキナリ控訴審ハ其ノ法規解釋ノ誤レル前提ノ下ノ手續ニ依ル判決ハ正ニ違法ノ判決ナリト云フヘキナリ第四、本件事案ハ警視廳令第四號第一條第一號ノ許可アル上告人カ所謂玉ノ井ノ私娼ヲ紹介周旋シタル行爲ニ關シ控訴判決ハ上告人ノ警視廳ヨリノ營業許可ハ警視廳令第四號第一條第一號中「藝妓娼妓酌婦」ノミニ付許可アリ同號中ノ「其ノ他之ニ類スル者」ハ除外シアリトナシ假リニ「其ノ他之ニ類スル者」カ許可中ニアリトスルモ私娼ハ「其ノ他之ニ類スル者」ニ非ストナスハ判決要旨ナリ然レトモ右判決理由ニ假ニ「其ノ他之ニ類スル者」ノ許可アリトスルモノトノ假定論ヲ爲スカ如キハ客觀的見地ヨリ觀レハ其ノ訴訟ハ未タ裁判ヲ爲スニ熟スルニ至ラサルモノニ非サルカ本件事實ノ眞相ヲ極メサルカ故ニ不知ノ間ニ原審ハ右樣ノ假定論ヲ爲スニ至リシモノト謂ハサルヘカラス上告人ノ受ケ居ル許可ニ「其ノ他之ニ類スル者」カ含マルルモ私娼ハ之ニ包含セストノ違法解釋ヲ持スルカ故ニ原審ハ上告人ノ右許可ノ內容眞相ヲ明カニスル爲ノ證人喚問申請ヲ却下シタルモノニシテ原審判決ハ此ノ點ニ於テ當ニ違法アリト云ハサルヘカラス第五、原審判決ハ其ノ理由ニ「玉ノ井ニ於ケル私娼ハ法令ニ明示的ニモ默示的ニモ認メタルモノニ非サルヲ以テ」トナシ所謂玉ノ井龜戶等ニ於ケル私娼ハ法令カ明示的默示的ニ認メタルモノニ非サル旨說示ス然レトモ私娼ヲ雇入レ營業トスル銘酒店營業ナルモノハ此ノ私娼ノ存在ヲ絕對要件トスルモノニシテ右銘酒店營業ハ法カ默示的ニ認ムルニ止マラス明示的ニ認メラレ居ル營業ナルコトハ右銘酒店營業取締ニ關シ發セラレ居ル幾多取締法規警視廳告示第八十八號接客婦健康診斷ニ關スル件同廳訓令甲第十六號接客婦診斷ニ關スル件執行心得左ノ通リ定ム同廳訓令甲第十七號接客婦健康診斷名簿樣式警視廳命令ニ依リ玉ノ井保健組合ノ組織ヲ命セラレ居ル等ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得ヘキノミナラス玉ノ井龜戶等ノ銘酒店營業カ官廳ヨリ禁示セラレ居ルモノニ非スシテ認許セラレ居ルモノナリト世人一般カ信シ居ルハ顯著ナル事實ナリ然ルニ原判決ハ右銘酒店營業ヲ全々法令ノ明示的ニモ默示的ニモ認メサル違法ナル業務ナリトノ見地ニ立チテ爲シタル原判決ハ此ノ點ニ於テモ違法ナリト謂ハサルヘカラスト云フニ在リ

因テ原判決ヲ閱スルニ措辭妥當ナラサル憾ナキニ非スト雖被告人カ秋田リカ（當二十一年）外十四名ノ婦女ヲ雇人トシテ周旋シ其ノ都度雇主ヨリ手數料ヲ徵シ以テ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ營ミタルハ原判決カ證據ニ引用セル松村とし子外數名ノ各始末書ニ徵スレハ東京市向島區寺島町六、七丁目ノ範圍內ナリシコトヲ看取スルニ足ルヘク同所ハ俗ニ玉ノ井ト稱シ銘酒屋ノ集合地ニシテ其ノ雇女ハ私娼婦ナルコト裁判上顯著ナル事實ナリトス而シテ斯ル私娼婦ニ付テハ風紀上特別ノ取締ヲ要スヘキモ銘酒屋ハ正當ナル職業トシテ認許サレ且又私娼婦ト雖密ニ淫ヲ鬻クヲ禁止サルルニ止マリ酒席ニ侍シテ客ノ歡樂ニ資スルハ許サレタル行爲ナレハ之カ雇入ヲ周旋スル紹介業モ亦違法視セラルル理據アルコトナク右婦女ハ酌婦ニ類スルモノナルコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリ故ニ其ノ周旋ヲ業トスル者ニ付テハ酌婦ノ周旋ヲ業トスル場合ト同シク昭和元年警視廳令第四號紹介營業取締規則ノ適用ヲ

受クヘキモノトス然ルニ原判決ニ依レハ被告人ハ所轄警察署ヨリ藝妓娼妓酌婦ノ紹介營業ニ付許可ヲ受ケ居ルモ「之ニ類スル者」ニ付許可ヲ受ケ居ル事實ナキカ如ク說示セルニ依リ右紹介營業取締規則ニ就キ案スルニ第一條ニ於テ營業種目トシテ一、藝妓娼妓酌婦又ハ之ニ類スル者二、里子三、結婚者四、不動產ノ賣買者又ハ賃貸借者ノ四種目ニ分類シ各種目ノ一ニ該當スル者ヲ紹介營業ト稱シ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ受クヘキコトヲ規定シ各種目ノ內各事項ニ付更ニ細別セサルト同時ニ同規則末尾ニ例示セル紹介營業簿紹介依賴簿等ノ樣式モ亦右各種目ヲ獨立ノ一營業トシ更ニ各事項ヲ細別セサルトニ徵スレハ敍上各種目ハ各獨立シタル不可分ノ營業ナリト解スルヲ妥當トスヘキヲ以テ藝妓娼妓酌婦ノ紹介營業ノ許可ヲ受ケタルモノハ之ニ類スルモノニ付テモ許可ヲ受ケタルモノト解スルヲ相當トス故ニ原判決ノ如ク被告人カ所轄警察署ヨリ右取締規則第一條第一號ノ許可ヲ受ケタルモノナル以上敍上ノ如ク銘酒屋ノ雇女ヲ紹介周旋ヲ爲スコトヲ得ルハ當然ナレハ被告人ノ行爲ハ罪ト爲ルヘキモノニ非ス然ルニ原判決ハ判示行爲ニ對シ大正十四年內務省令第三十號營利紹介事業取締規則ヲ適用シテ處斷シタルハ所論ノ如ク法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ因テ爾餘ノ論旨ニ對スル說明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事樫田忠美關與

【要旨】

○銃砲火藥類取締法違反被告事件（昭和十年（れ）第九五七號 同年十月七日第一刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　若松盛吉　辯護人　入江時雄

【第一審】熊本區裁判所　【第二審】熊本地方裁判所

○判示事項

銃砲火藥類取締法第三條第一項ノ販賣營業ノ意義

○判決要旨

銃砲火藥類取締法第三條第一項ニ所謂販賣ノ業ヲ營ムトハ營利ノ目的ヲ以テ同種類ノ有償讓渡行爲ヲ反覆スルヲ指稱シ其ノ行ハルル場所形態等ハ之ヲ問ハサルモノトス

【參照】銃砲火藥類取締法第三條第一項　銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムト

銃砲火藥類取締法第三條第一項ノ販賣營業ノ意義

スル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ハ限ニ在ラス

同法第十六條第一項　第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事　實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年二月ニ處ス但シ未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ火藥類ノ販賣ニ付行政官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス營利ノ目的ヲ以テ

第一　昭和九年五月初旬頃原審相被告人穗滿ケイト共謀ノ上熊本市仲間町おでん屋たこまんニ於テ沖繩縣國頭郡國頭村字濱三十四番地宮城良明ニ對シダイナマイト十二貫匁、雷管千個、導火線五百尺ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ

第二　同年八月初旬頃穗滿ケイト共謀ノ上同市本庄町大平生命保險會社支部前ニ於テ沖繩縣島尻郡糸清町宮下加ニ對シダイナマイト十二貫匁及相當雷管導火線ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ

第三　同年十一月初旬頃同市新市街中央自動車停留所ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト十二貫匁及相當雷管導火線ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ

第四　其ノ四五日後前同所ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト六貫匁及相當雷管導火線ヲ代金百二十五圓ニテ賣却シ

第五　同月下旬頃同市上通町ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト六貫匁及相當雷管導火線ヲ代金百二十五圓ニテ賣却シ以テ營業行爲ヲ爲シタルモノナリ

被告人ハ昭和五年八月二十五日大島區裁判所ニ於テ銃砲火藥類取締法竝同施行規則違反罪ニ因リ懲役十月（未決勾留六十日通算）ニ處セラレ當時右刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ銃砲火藥類取締法第十六條第一項第三條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ前示前科アルヲ以テ刑法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主　文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理　由

辯護人入江時雄上告趣意書第一點原判決理由ニヨレハ「被告人ハ火藥類ノ販賣ニ付行政官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス營利ノ目的ヲ以テ第一、昭和九年五月初旬頃原審相被告人穗滿ケイト共謀ノ上熊本市仲間町おでん屋たこまんニ於テ沖繩縣國頭郡字濱三十四番地宮城良明ニ對シダイナマイト十二貫匁雷管千個導火線五百尺ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ第二、同年八月初旬頃穗滿ケイト共謀ノ上同市本庄町大平生命保險會社支部前ニ於テ沖繩縣島尻郡糸清町宮下加ニ對シダイナマイト十二貫匁及相當雷管導火線ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ第三、同年十一月初旬頃同市新市街中央自動車停留所ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト十二貫匁及相當雷管導火線ヲ代金二百五十圓ニテ賣却シ第

四、其ノ四五日前後同所ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト六貫匁及相當雷管導火線ヲ代金百二十五圓ニテ賣却シ第五、同月下旬頃同市上通町ニ於テ右宮下加ニ對シダイナマイト六貫匁及相當雷管導火線ヲ代金百二十五圓ニテ賣却シ以テ營業行爲ヲ爲シタルモノナリ』『法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ銃砲火藥類取締法第十六條第一項第三條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ前示前科アルヲ以テ刑法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍內ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル末決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス（控訴理由ナシ）」ト判決セラレタリ然レトモ原判決ハ理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免レサルモノト信ス卽チ銃砲火藥類取締法第三條ニヨレハ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシトアリ從テ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ノ製造販賣ヲ業トシタル者ハ同法第十六條ノ罰則ノ適用ヲ受クルコトトナルモノナリ故ニ右法條ハ無免許營業禁止ノ法規ニシテ營業ヲ爲ササレハ罪トナラサルモノト解釋シテ差支ナキモノト思料ス果シテ然リトスレハ本罰則ニ牴觸スルモノハ無免許ノ營業ヲ開始スル事及之ヲ繼續スルコト殊ニ營業ノ開始卽チ開業ト云フ事實カ同法第三條ノ犯罪構成要件ナルコトハ解釋上疑義ヲ挾ム餘地ナキモノト信ス從テ開業セサレハ同法ノ罰則ニ觸レサルコトモ亦自ラ明ナリ然ルニ如上原判決理由ニハ被告人ハ販賣ニ付行政官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス營利ノ目的ヲ以テ判示摘示ノ第一乃至第五ノ行爲ヲ爲シ營業行爲ヲ爲シタルモノナリトアルノミニシテ營業ノ開始及其ノ繼續ニ付キテハ判示セラルル所ナシ然レトモ本件同法第三條ノ犯罪ハ營業ヲ開始セサレハ犯罪ノ構成要件ヲ缺如スルモノナレハ判示ニハ尠クトモ其ノ營業開始ノ時期ヲ明ニセサルヘカラサルモノニシテ若シ原判決ノ判示セラルル如クナレハ火藥類ノ賣却行爲ハ卽チ營業行爲ナリト認定セラレタルニ止マリ上告人カ火藥販賣ノ營業ヲ爲ス ノ意思ヲ以テ營業ヲ開始シ之ヲ繼續シタル事實ヲ窺知スルニ足ラス從而如上判示ノ理由ニヨリテハ上告人ノ行爲カ果シテ同法第三條ノ犯罪行爲ナリヤ否ヤハ容易ニ判定シ得サルヘキモノニシテ理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラスト云ヒ』第二點前揭原判決判示理由ニヨレハ本件犯罪ノ事實ニ付銃砲火藥類取締法第三條及同法第十六條ヲ適用スヘキモノトセラレタリ然レトモ本件犯罪ノ如キハ同法第六條ニ該當スルモノニシテ原判決ハ法ノ適用ヲ誤リタル違法アリト信ス卽チ旣ニ述ヘタルカ如ク同法第三條ノ規定ハ無免許營業禁止ノ規定ニシテ火藥販賣業ヲ營ム意圖ヲ一般ニ認識セシメテ公然無免許ニテ右營業ヲ營ム場合ニ始メテ罰則第十六條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本件犯罪ノ如ク最モ祕密ニ行ハレ前揭上告理由第一點記載ノ如ク上告人ニ營業ヲ營ムノ故意不明ナルノミナラス先ツ第一著手トシテ火藥類ノ讓受許可證所持者タル後藤安太カ其ノ許可證ニヨリテ火藥店ヨリ本件ノ火藥類ヲ讓受ケ第二ニ右安太ヨリ上告人カ讓受ケ之ヲ更ニ上告人カ宮下加外一人ニ讓渡シタル行爲ニシテ第一ノ讓渡行爲ヲ前提トシテ轉々讓渡セラレタルニ過キサルモノナレハ其ノ所持讓渡ノ行爲ハ有償タ

ルト無償タルトヲ問ハス同法第六條及同法第十九條ニ該當スルモノト信ス尙御院判例ニハ「第六條ニ火藥類トハ軍用火藥類ノミナラス非軍用火藥類ヲ包含スルモノトス」トアリ又「火藥類ノ讓受ニ付キテハ有償無償ヲ區別セス」トアリト云フニ在レトモ

【要旨】

銃砲火藥類取締法第三條第一項ニ所謂販賣ノ業ヲ營ムトハ營利ノ目的ヲ以テ同種類ノ有償讓渡行爲ヲ反覆スルヲ指稱シ其ノ行ハルル場所形式等ハ敢テ問フトコロニアラス固ヨリ廛舗ヲ設ケ特定ノ設備ヲ爲スカ如キハ行政官廳ノ許可ヲ得ル條件トシテハ必要ナランモ許可ヲ受ケスシテ法ノ禁遏スル所業ヲ爲サントスルカ如キ者ハ之ヲ暗々祕密裏ニ敢行スルヲ普通トシ公然廛舗ヲ設ケ堂々所謂開業ト認メ得ヘキ表現形態ノ下ニ行ハルルコト世上一般アリ得サルトコロナリ而モ本法ノ取締ハ斯クノ如キ場合ニモ及ホスニ非サレハ目的ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ本法罰則ノ適用ニ付テハ販賣業ノ觀念上所論ノ如キ條件ヲ要スルモノト認ムヘキモノニ非ス而シテ原審カ證據ニ依リ認定シタル事實ハ被告人ハ火藥類ノ販賣ニ付行政官廳ヨリ營業ノ許可ヲ受ケ居ラサルニ拘ラス營利ノ目的ヲ以テ昭和九年五月初旬ヨリ同年十一月下旬ニ至ル迄ノ間五回ニ亙リ宮下加外一名ニ封シダイナマイト及雷管導火線等ヲ賣却シ以テ營利行爲ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ該事實カ銃砲火藥類取締法第三條第一項第十六條第一項ニ該當スルモノナルコト敍上說明ニ依リ明ナルヘク所論同法第六條ハ單ニ適法ノ手續ニ依ラサル火藥類ノ所持若ハ移轉行爲其ノモノヲ禁スル趣旨ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用セラルヘキ規定ニアラサルナリ所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ解釋ニ基キ之ヲ非議スルモノニシテ採用シ難ク論旨執レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○軍機保護法違反被告事件（昭和十年（れ）第九二三號　同年十月八日第四刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　山下一夫　辯護人　小林俊三

【第一審】東京刑事地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判示事項

軍機保護法第一條ノ罪ノ犯意

○判決要旨

軍機保護法第一條ノ罪ノ犯意

軍機保護法第一條ノ罪ノ犯意アリトスルニハ同條記載ノ目的物カ軍事上祕密ノモノタルコトヲ知ルヲ以テ足リ其ノ目的物ノ如何ナル部分カ軍事上祕密ニ屬スルヤ若ハ如何ナル理由ニ因リ之ヲ祕密トスルヤヲ知ルコトヲ必要トセス

【參照】軍機保護法第一條　軍事上祕密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス

刑法等三十八條　罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年四月四日頃ヨリ同年九月末頃迄神戸市林田區和田山通一丁目六番地所在株式會社川崎造船所飛行機工場ニ甲種見習圖工トシテ雇ハレ同工場設計部ノ製作機體部分品重量實測作業及飛行機翼斷面圖作成等ノ事務ニ從事中同工場カ陸軍航空本部ヨリ請負ヒ調製シタル單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件タルコトヲ知悉シナカラ軍用飛行機研究等ノ目的ヲ以テ同年九月十二、三日頃同工場設計室内ヨリ該飛行機計畫書一部ヲ無斷搬出シ爾來昭和十年一月二十四日ニ至ル迄ノ間神戸市内及東京市内等ニ於テ携帶所持シ以テ軍事上祕密ノ圖書物件ヲ收集シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ軍機保護法第一條後段ニ該當スルヲ以テ刑法施行法第十九條第二十條第二十一條舊刑法第二十二條第六十七條ヲ適用シテ法定ノ減輕ヲナシ尙犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第六十七條刑法施行法第二十一條舊刑法第九十條ニ則リ酌量減輕ヲ爲シテ本刑ニ一等ヲ減シ舊刑法第六十九條第一項所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人小林俊三上告趣意書原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ（中略）同工場カ陸軍航空本部ヨリ請負ヒ調製シタル單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件タルコトヲ知悉シナカラ軍用飛行機研究等ノ目的ヲ以テ同年九月十二、三日頃該飛行機計畫書一部ヲ無斷搬出シ爾來昭和十年一月二十四日ニ至ル迄ノ間神戸市内及東京市内等ニ於テ携帶所持シ以テ軍事上祕密ノ圖書物件ヲ收集シタルモノナリ」ト事實ヲ認定シ其ノ證據トシテ一、被告人ノ原審公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述一、證

人小澤直治ニ對スル豫審訊問調書ノ一部ヲ引用シタリ然レトモ被告人ノ原審公廷ニ於ケル供述ニ於テ單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件ナルコトヲ知悉シタリト認ムヘキ事實ヲ認ムルコト能ハス卽チ此ノ要件ノ成立スル爲ニハ單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件タルコト竝ニ其ノ事實ヲ知リタルコトノ二個ノ要件ヲ具備セサルヘカラス然ルニ本件計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件タルコトハ原審判決ノ引用スル證人小澤直治ノ供述ニ依リ之ヲ認ムヘキモノトスルモ此ノ事實ヲ知リタルコトハ判決ハ唯「被告人ノ當院公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述」ト記載スルノミニシテ其ノ記載ニ於テ恰モ所謂「知リタルコト」ニ歸著スルカ如キ文字アレトモ仔細ニ檢スルニ目的物件ノ祕密性ト其ノ知悉シタル內容ニ付テ錯誤アルコトニ歸著シ結局判決記載ノ如キ「祕密性ノ了知」ノ事實存在セサルコトヲ認ムルニ充分ナリトス今原審判決ノ引用スル證據中「被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述」トアルニ付其ノ內容ヲ檢スルニ「祕密性ノ了知」ノ根據トシテ原判決ノ採用シタルト認ムヘキ諸點ヲ考フルニ（一）檢事カ豫審終結決定書通リ公訴事實ヲ陳述シタルニ對シ被告人ノ「事實其ノ通リ相違アリマセヌ」トノ供述竝ニ之ニ關聯シテ豫審終結決定書中「單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ノ圖書物件タルコトヲ知悉シナカラ……」トノ記載アレトモ本來被告人カ軍事上祕密物件タルコトヲ知悉シタリト供述シタルノミテ「祕密性ノ了知」ノ要件成立スルニ非ス如何ナル事實上ノ經過ニ因テ其ノ認識ヲ生シタルヤノ過程ヲ明瞭ニセサルヘカラス此ノ過程ニシテ明カナラサル以上固ヨリ被告人ノ供述ノミヲ以テ斷罪ノ證據トナスヲ得サルハ勿論却テ次ニ記載スルカ如ク「軍事上ノ祕密」ハ單ニ雇傭契約上ノ祕密義務ニ過キサルコトヲ認ムルニ充分ナリトス（二）公判調書ノ初頭ニ於テ原審カ引用シテ被告ニ讀聞ケタル豫審第二回訊問調書第一三問答ハ機體係主任山崎精カ當工場ハ國家ノ大事ナモノヲ製作シツツアリ軍事上祕密ニ屬スル故飛行機ノ仕事ニ關スル內容ハ一切他言セサルコト書類ハ一切持出ササルコトノ嚴重ナル訓示ヲ爲シ從テ「右ノ樣ニ同工場ニ右飛行機計畫書等ハ無斷テ持出シタ時其ノ計畫書ハ軍事上祕密ノ書類テアルコトハ充分承知シテ居タコトテアリマス」トアレトモ此ノ軍事上祕密ニ屬スルコトノ認識ハ軍機保護法ニ所謂軍事上ノ祕密ニ非ス卽チ被告人カ見習職工トシテ川崎造船所ニ勤務スルニ當リ雇傭契約上ノ祕密嚴守義務ノ訓示ヲ受ケ仕事ノ全部ニ付一般的ニ軍事上祕密ニ屬スルコトヲ宣セラレ之ニ違ハサルコトヲ誓ヒタルニ過キス山崎精モ亦一般的概括的ニ雇傭契約上ノ義務トシテ軍事上ノ祕密ナル文句ヲ用ヒタルニ過キス卽チ軍機保護法第一條ノ適用ヲ受クル行爲ハ何處迄モ當該圖書カ軍機保護法上軍事上祕密ニ屬シ且之ニ關スル認識ナカルヘカラス山崎精ノ宣言ニヨリテ特定ノ圖書カ決シテ軍事上祕密ニ屬スルニ至ラサルコト勿論ナリトス從テ被告人ノ右供述ヲ以テシテハ判決ノ認定スル單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕密ニ屬スルコトヲ認識シタルモノト謂フコトヲ得ス（三）公判調書中（二百丁）「問處カ被告人ハ此ノ工場ハ陸軍航空本部ニテ請負ヒ作製シタル單發動機付新輕爆擊機飛行機計畫書カ軍事上祕

密ノ圖書物件タルコトヲ知リ乍ラ飛行機研究ノ目的ヲ以テ同年九月十二、三日頃同工場設計室内ヨリ該飛行機計畫書一部ヲ無斷搬出シ爾來昭和十年一月二十四日ニ至ル迄ノ間神戸市内東京市内等ニ於テ持チ歩イタト謂フ事タカ如何」「答其ノ通リ相違アリマセヌ」（同二百二丁）「問被告人カ持出シタ飛行機計畫書カ軍事上秘密ナ物タト謂フ事ハ何ウシテ知ッテ居タカ」「答軍事上秘密ナモノタト謂フ事ハ知ッテ居タカ「秘」ノ印カナカツタノテ持出ス時ニハ夫レ程重要ナモノトハ思ハナカツタ檢舉サレテカラ後非常ニ重要ナモノタト謂フ事ヲ聞キビツクリシタ樣ナ次第テアリマス」豫審第二回訊問調書第一五問答「（前略）軍事上秘密ニ屬スルモノタト云フコトハ充分ニ承知シナカラ右飛行機計畫書其ノ他ノ軍用飛行機ノ書類ヲ前述ノ飛行機工場ヨリ無斷テ持出シタノテアリマス」等ノ記載ハ何レモ單ニ「軍事上秘密ニ屬スルコトヲ知リナカラ」ナル形式的供述アルノミニテ此ノ供述ヲ以テ見習職工トシテ勤務當時ノ山崎精ノ訓示ノ内容ニ於ケル「軍事上ノ秘密」ト軍機保護法ノ軍事上ノ秘密ト相一致スルモノト謂フヘカラス却テ右記載中二百二丁ノ供述ハ「軍事上秘密ナモノタト云フコトハ知ッテ居タカ「秘」ノ印カナカツタノテ持チ出ス時ニハ云々」トアリテ寧ロ雇傭契約上ノ意味ニ於テ軍事上ノ秘密ヲ了解シタルモノニシテ「秘」ノ印ナキヲ以テソレ程重要ト思ハサリシ旨ノ供述ハ此ノ事實ヲ明カニ裏書スルモノナリ卽チ被告人ハ軍機保護法ニ所謂軍事上秘密ニ屬スル圖書物件ナルコトノ認識ヲ缺如スルモノト云ハサルヘカラス此ノ判斷ハ被告人カ單ニ本件圖書ヲ不用意ニ友人ニ示シ或ハ約一年ヲ宿屋ニ放置シタル事實等ニ鑑ミルトキハ誤ナシト云フモ過言ニ非ス以上ノ理由ニ因リ原判決ハ本件ノ圖書物件カ軍機保護法上軍事上ノ秘密ニ屬スルコトニ關シ證據ニ基カスシテ被告人ノ認識ノ存在ヲ斷定シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

軍機保護法第一條ノ罪ノ犯意ハ其ノ收集ノ目的物カ軍事上秘密ノモノタルコトヲ知ルヲ以テ足リ其ノ目的物ノ如何ナル部分カ軍事上秘密ニ屬スルヤ若ハ其ノ秘密ナルコトノ理由等ヲ知ルコトヲ必要トセス被告人カ所論計畫書ヲ收集スルニ當リ其ノ軍事上秘密ノモノナルコトヲ知リ居タルコトハ原審公判調書ノ被告人ノ其ノ旨ノ供述記載ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記錄ヲ査スルモ原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ故ニ被告人カ所論計畫書ノ如何ナル部分カ軍事上秘密ニ屬スルヤ若ハ其ノ秘密ナルコトノ理由等ヲ知ラサリシトスルモ前敍ノ如ク被告人ニ於テ所論計畫書ヲ收集スルニ當リ軍事上該計畫書カ秘密ノモノナルコトヲ知リ居タル以上ハ軍機保護法第一條ノ罪ノ犯意アリタルモノト謂ハサルヘカラス又被告人カ如何ナル事實上ノ經過ニ依リテ所論計畫書カ軍事上秘密ノモノナルカヲ認識スルニ至リタルヤノ過程ニ付證明ナシトスルモ之カ爲ニ前示原審ニ於ケル被告人ノ供述ヲ證據ト爲スモ違法ニ非ス故ニ原判決カ右供述ノミニ依リ右知情ノ點ヲ認定スルモ毫モ採證上違法アルコトナク論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事樫田忠美關與

○瀆職横領證憑湮滅同教唆被告事件（昭和十年（れ）第八一號　同年九月二十八日第三刑事部判決　棄却）

【上告人】被告人　天岡直嘉　外五名

辯護人　小山温　岡田庄作　中川孝太郎　鵜澤總明　秋山高三郎　外十名

【第一審】東京地方裁判所　【第二審】東京控訴院

○判示事項

有罪判決ノ宣告ト證據理由告知ノ程度——前審ノ忌避事件ト除斥理由——公判手續更新前ノ公判調書ノ援用トロ頭辯論主義——判決原本ノ分冊ト判決ノ效力——自己ノ刑事被告事件ニ關スル證憑湮滅ヲ教唆シタル者ノ擬律——刑法第百四條ニ所謂證憑ノ意義——證憑ノ湮滅——刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義

有罪判決ノ宣告ト證據理由告知ノ程度　前審ノ忌避事件ト除斥事由　公判手續更新前ノ公判調書ノ援用トロ頭辯論主義　判決原本ノ分冊ト判決ノ效力　自己ノ刑事被告事件ニ關スル證憑湮滅ヲ教唆シタル者ノ擬律　刑法第百四條ニ所謂證憑ノ意義　證憑ノ湮滅　刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義

刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義

○判決要旨

一有罪判決ノ宣告ヲ爲スニ當リ理由ノ要旨ヲ告知スル場合ニ於テ其ノ證據理由ノ如キハ裁判長ノ裁量ニ從ヒ適當ト認ムル程度範圍ニ於テ其ノ要領ヲ告知スルヲ以テ足ルモノトス【要旨第一】

二前審ニ於ケル本案事件ノ審理中ニ生シタル判事忌避ノ申請事件ニ付其ノ決定ニ關與シタル判事ハ該本案事件ニ付第二審裁判所ノ判事トシテ職務ノ執行ヨリ除斥セラルルコトナシ【要旨第二】

三公判手續更新後行ハレタル被告人ノ訊問供述カ更新前ニ於ケルモノト同一ナルトキト雖裁判所ハ更新後ノ公判廷ニ於テ更新前ノ被告人ノ訊問供述ヲ錄取シタル公判調書ヲ一ノ書證トシテ證據調ヲ爲シ之ヲ罪證ニ供スルモ口頭辯論手續ニ背反スルモノニ非ス【要旨第三】

四判決原本ニシテ判決書作成ノ方式ヲ具備スル以上紙數多葉ナル判決ノ如キハ之ヲ分冊シテ取扱上ノ便宜ニ供スルモ一個ノ判決書タルニ妨ナシ【要旨第四】

五自己ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅セシムル爲他人ヲ教唆シテ其ノ實行ヲ爲サシメタルトキハ刑法第百四條證憑湮滅罪ノ教唆犯ヲ以テ論スヘキモノトス【要旨第五】

六刑法第百四條ニ所謂證憑トハ刑事事件發生シタル場合搜査又ハ裁判ニ關係アリト認メラルヘキ一切ノ資料ヲ指稱ス【要旨第六】

七刑事被告事件ノ判斷ニ支障ヲ來サシムル目的ヲ以テ帳簿書類ヲ隱匿燒燬スルカ如キ又ハ其ノ資料ノ出現ヲ妨ケ若ハ其ノ效力ヲ喪失セシメ或ハ證人ヲ隱匿シ逃避セシムルカ如キハ證憑ノ湮滅ニ該當スルモノトス【要旨第七】

八刑法第百四條ニ所謂刑事被告事件トハ行爲當時現ニ裁判所ニ繫屬スル刑事訴訟事件ハ勿論將來刑事訴訟事件トシテ裁判所ニ繫屬シ得ヘキモノヲモ包含スルモノトス【要旨第八】

【參照】刑事訴訟法第四十九條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

有罪判決ノ宣告ト證據理由告知ノ程度　前審ノ忌避事件ト除斥事由　公判手續更新前ノ公判調書ノ援用ト口頭辯論主義　前判決原本ノ分冊ト判決ノ效力　刑事被告事件ニ關スル證憑湮滅ヲ教唆シタル者ノ擬律　刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義　證憑ノ湮滅　刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義

同法第五十一條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

同法第三百六十條第一項　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

同法第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

同法第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

同法第四十八條第一項　判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新ス

同法第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第五十四條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

同法第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

同法第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

同法第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

同法第六十九條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

同法第七十一條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

刑法第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

○事實

有罪判決ノ宣告ト證據理由告知ノ程度　前審ノ忌避事件ト除斥事由　公判手續更新前ノ公判調書ノ援用ト口頭辯論主義　判決原本ノ分冊ト判決ノ效力　自己ノ刑事被告事件ニ關スル證憑湮滅ヲ敎唆シタル者ノ擬律　刑法第百四條ニ所謂證憑ノ意義　證憑ノ湮滅　刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人等ニ對シ夫々有罪ノ判決ヲ爲シタリ（各被告人ニ對スル量刑其ノ他附隨ノ處分ノ內容ハ省略ス）

（第一部ハ省略ス）

第二部

被告人天岡直嘉ハ昭和二年四月二十日田中義一ヲ首班トスル內閣組織セルラルヤ昭和二年五月二十七日賞勳局總裁ニ任命セラレ爾來昭和四年七月十日退官スルニ至ル迄賞勳局總裁トシテ勳章褒章等ニ關スル事項ヲ掌ル同局一切ノ事務ヲ管理シ褒章ニ付テハ主務大臣ノ申牒書ヲ覆審シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請ヲ爲スノ權ヲ有シ其ノ他賞勳會議ノ構成員ト爲リ且其ノ議長ノ任ニ當リ同會議ノ一切ノ事務ヲ管掌スヘキ地位ニ在リタルモノニシテ其ノ職責ノ重大ナルニ鑑ミ居常廉潔ヲ旨トシ苟モ其ノ威信ヲ損フカ如キ行爲ナカランコトヲ期スヘク又敍勳褒章授賜等ノ恩典ヲ受クル者ニ於テモ其ノ表彰ニ關シ世人ヲシテ疑惑ノ念ヲ抱カシムルカ如キコトナキ樣注意スヘキハ論ヲ俟タサル所ニシテ萬一ニモ其ノ表彰ノ手續ニ關シ被告人天岡ノ如キ其ノ局ノ長タル者トノ間ニ金品ノ授受セラルルカ如キコトアランカ例令其ノ手續ノ遂行ソノモノニ何等ノ不當ナキモ尙世人ノ疑惑ヲ招キ易ク惹イテハ他ノ一般表彰ノ恩典ニ浴シタル者ニ對シテモ其ノ及ホス影響洵ニ尠ナカラサルモノアリト謂フヘキトコロ

第一　被告人天岡直嘉ハ豫テ十數萬圓ノ負債ヲ有シ之カ爲昭和二年四月初頃破產ノ宣告ヲ受クルヤ舊知ノ間柄ニシテ特ニ親交アル被告人鴫原亮暢ニ對シ財政ノ急ヲ救ハンコトヲ求メタルヨリ被告人鴫原ハ同月十六日以後翌五月末頃迄ノ間被告人天岡ノ私邸ニ同居シ主トシテ其ノ破產屆出以外ノ債務ノ整理ニ當ルニ至レリ一方被告人天岡ノ破產事件ハ其ノ義弟長島弘等ノ盡力ニ依リ一應債權者トノ間ニ示談調ヒ同年五月二十三日右破產宣告ハ取消サルルコトヲ得タルカ其ノ取消後僅カ四日ニシテ前記ノ如ク被告人天岡ハ賞勳局總裁ニ就任シ債權者ノ督促再ヒ急トナルヤ右重職ニ在リナカラ益々被告人鴫原ヲ重用シ晨夕自己ノ身邊ニ近付ケテ每ニ賞勳局若クハ自邸ニ出入セシメ或ハ債權者ト折衝セシメ或ハ旨ヲ含メテ知名ノ實業家政治家等ニ財政上ノ援助ヲ乞ハシメ以テ百方金員ノ調達ニ腐心シ居リタルカ被告人天岡ハ昭和二年八月北海道函館市ニ於テ日魯漁業株式會社取締役會長堤清六ト初メテ面識ヲ得タル後被告人鴫原ヨリ同人カ堤清六トハ舊キ別懇ノ間柄ナル旨ヲ告ケラレ同被告人ノ慫慂ニ因リ同被告人ヲシテ昭和二年九月頃東京市麴町區永樂町一丁目一番地丸ノ內ビルディング內日魯漁業株式會社ニ於テ堤清六ニ對シ自己ノ窮狀ヲ訴ヘ財政上ノ援助ヲ乞ハシメタル結果爾來數回同人ヨリ自己ノ職務ニ關係ナキ援助トシテ金員ノ供與ヲ受ケタルコトアルモ同人カ引續キ援助ヲ爲スコトヲ容易ニ肯セサルヨリ被告人鴫原ハ堤清六ニ對シ暗ニ被告人天岡ヲ援助セハ其ノ盡力ニ依リテ敍勳セラルルコトヲ得ヘキ旨ヲ仄メカシ極力堤ヲシテ援助ヲ承諾セシムヘク努力中昭和三年四月四日頃東京府知事ヨリ堤清六ノ住所地東京府豐多摩郡淀谷町町長ヲ經テ堤ニ對シ行賞ノ件ニ付履歷書類ノ提出ヲ求メタルヨリ堤ハ同年五月二日頃迄ノ間ニ履歷書類ヲ作成シテ同役場ニ提出シタル處更ニ同年六月下旬新潟縣廳ヨリ同人ノ本籍地同縣南蒲原郡三條町町長ヲ經テ同人ニ對シ履歷書及功績調書ノ提出ヲ求メ來リシヨリ同人ハ曩ニ提出シタル履歷書類ノ外ニ更ニ重複シテ提出スヘキモノナリヤ否ヤニ付其ノ頃日魯漁業株式會社祕書役北村一男ヲ通シ被告人鴫原ニ對シ其ノ處置ヲ尋ネタルカ此ノ頃ヨリ堤清六ハ來ルヘキ昭和三年十一月ノ御卽位ノ御大禮ニ際シ自己モ亦恐クハ敍勳表彰ノ恩典ニ浴スヘキヲ推知シ被告人鴫原ニ對シ賞勳局總裁タル被告人天岡ノ盡力アランコトヲ懇請スルニ至レリ仍テ被告人鴫原ハ其ノ頃直ニ被告人天岡ニ對シ右提出書類ノ處置ヲ問ヒ同被告人ヨリ重ネテ書類ヲ提出スルヲ妨ケサル旨答ヘラルルヤ天岡ニ對シ堤ノ請託ヲ傳ヘタル上堤ヨリ今後モ援助ヲ乞ハサルヘカラサルニ付同人ノ敍勳ニ盡力セラレンコトヲ求メ天岡カ之ヲ諾スルヤ其ノ頃直ニ堤ニ對シ書類提出ニ關スル被告人天岡

有罪判決ノ宣告ト證據理由告知ノ程度　前審ノ忌避事件ト除斥事由　公判手續更新前ノ公判調書ノ援用ト口頭辯論主義　判決原本ノ分冊ト判決ノ效力　自己ノ刑事被告事件ニ關スル證憑湮滅ヲ敎唆シタル者ノ擬律　刑法第百四條ニ所謂證憑ノ意義　證憑ノ湮滅　刑法第百四條ニ所謂他人ノ刑事被告事件ノ意義